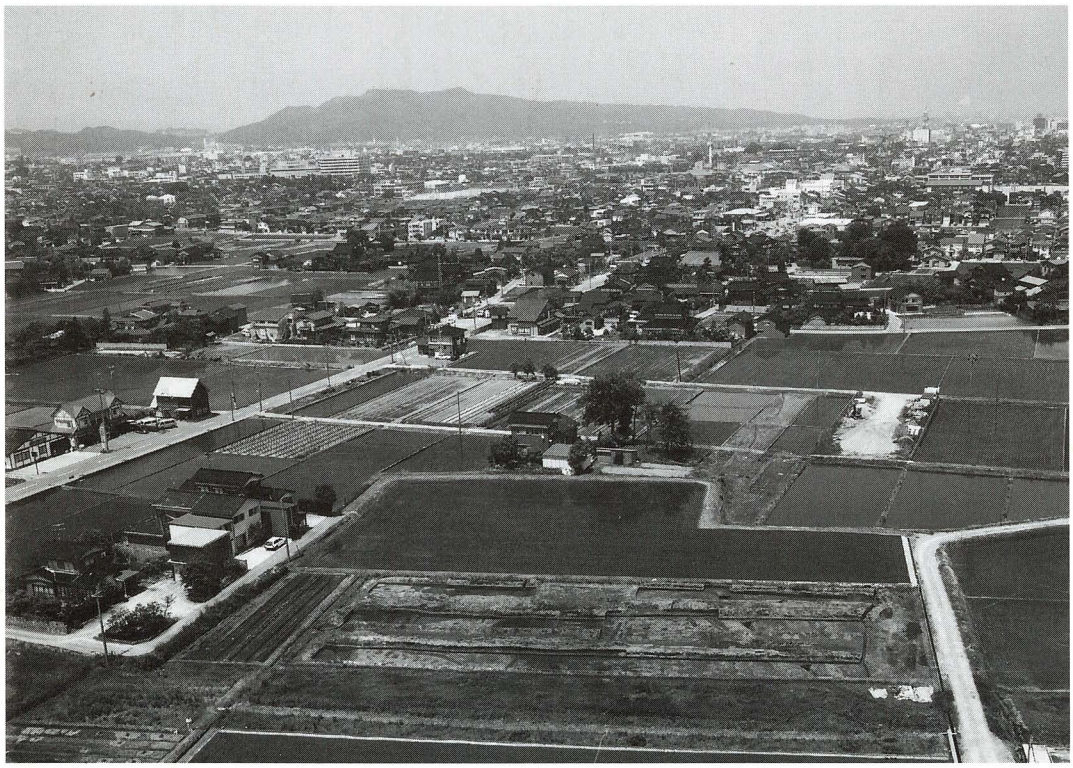
高岡市埋蔵文化財調査概報第41冊

市内遺跡調査概報Ⅸ

―― 平成10年度、下佐野遺跡の調査他 ――



1999年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第41冊

市内遺跡調査概報Ⅸ

―― 平成10年度、下佐野遺跡の調査他 ――

1999年3月

高岡市教育委員会

例　言

1．本書は、富山県高岡市における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2．当調査は、開発工事に伴い実施した本調査、及び試掘調査である。

3．当調査は、平成10年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。

4．本調査地区は下記の、下佐野遺跡新田地区と石塚遺跡福島地区の２箇所である。同じく東木津遺跡月安地区は試掘調査ではあるが、遺跡の内容把握にできるだけ努めたので、これらの本調査に準じて扱った。

（１）下佐野遺跡、新田地区

高岡市佐野626－２

（２）東木津遺跡、月安地区

高岡市佐野889－１

（３）石塚遺跡、福島地区

高岡市和田1175

なお、図面・図版で示したものは、これら３調査地区のものである。

5．東木津遺跡月安地区以外の試掘調査地区は、10遺跡で15箇所の調査地区である。

6．調査関係者は次のとおりである。

文化財課長；宮村勝博

［埋蔵文化財係］

主幹兼係長；石浦正雄

係員；山口辰一、根津明義

荒井　隆、太田浩司

7．本書における遺構番号は次のとおりである。

ＳＡ－柵址、ＳＢ－掘立柱建物址、ＳＤ－溝、ＳＫ－土坑

ＳＸ－その他の遺構

8．本書における遺物番号は次のとおりである。

1101～1140番：下佐野遺跡新田地区出土土器類

1201～1202番：下佐野遺跡新田地区出土鉄製品

1301番　　：下佐野遺跡新田地区出土石製品

2101～2183番：東木津遺跡月安地区出土土器類

2201～2204番：東木津遺跡月安地区出土土製品

2301番　　：東木津遺跡月安地区出土石製品

3101～3109番：石塚遺跡福島地区出土土器類

9．本書の執筆は、荒井が担当した。

※表紙・大扉カット＝東木津遺跡と二上山；手前が東木津遺跡月安地区、上方が二上山

目　　次

例　言
目　次

1．下佐野遺跡、新田地区 …… 1
Ⅰ　序　　説 …… 3
Ⅱ　遺　　構 …… 6
Ⅲ　遺　　物 …… 10
Ⅳ　結　　語 …… 12

2．東木津遺跡、月安地区 …… 13
Ⅰ　序　　説 …… 15
Ⅱ　遺　　構 …… 22
Ⅲ　遺　　物 …… 36
Ⅳ　結　　語 …… 38

3．石塚遺跡、福島地区 …… 39
Ⅰ　序　　説 …… 41
Ⅱ　遺　　構 …… 43
Ⅲ　遺　　物 …… 45
Ⅳ　結　　語 …… 46

4．試掘調査地区 …… 47
Ⅰ　油屋寺田遺跡、南郷病院地区 …… 49
Ⅱ　石塚遺跡、大田地区 …… 50
Ⅲ　今市遺跡、柴地区 …… 51
Ⅳ　今市遺跡、小勢７号線地区 …… 52
Ⅴ　下老子笹川遺跡、立野１号線地区 …… 53
Ⅵ　中曽根西遺跡、向田地区 …… 54
Ⅶ　高田新西後遺跡、立野５号線地区 …… 55
Ⅷ　中曽根北遺跡、チューリップ調剤地区 …… 56
Ⅸ　戸出６丁目東遺跡、北陸セルラー地区 …… 57
Ⅹ　戸出古戸出遺跡、是戸28号線地区 …… 58
Ⅺ　ＨＳ－02遺跡、各調査地区 …… 59

挿　図　目　次

第１図　下佐野遺跡位置図［１］（１／15万）…… 1
第２図　下佐野遺跡位置図［２］（１／５万）…… 2
第３図　下佐野遺跡新田地区位置図（１／5,000）…… 3
第４図　下佐野遺跡新田地区遺構図（１／200）…… 5
第５図　下佐野遺跡新田地区鉄製品・石製品実測図（１／２）…… 11
第６図　東木津遺跡位置図［１］（１／15万）…… 13
第７図　東木津遺跡位置図［２］（１／５万）…… 14
第８図　東木津遺跡月安地区位置図（１／5,000）…… 15
第９図　東木津遺跡月安地区全体図（１／400）…… 17
第10図　東木津遺跡月安地区北東部遺構図（１／200）…… 18
第11図　東木津遺跡月安地区南東部遺構図（１／200）…… 19
第12図　東木津遺跡月安地区南西部遺構図（１／200）…… 20
第13図　東木津遺跡月安地区北西部遺構図（１／200）…… 21
第14図　東木津遺跡月安地区掘立柱建物址ＳＢ01実測図（１／80）…… 23
第15図　東木津遺跡月安地区柵址ＳＡ01～03実測図（１／80）…… 24
第16図　東木津遺跡月安地区溝ＳＤ18実測図［１］（１／200他）…… 30
第17図　東木津遺跡月安地区溝ＳＤ18実測図［２］（１／40）…… 31
第18図　東木津遺跡月安地区土製品・石製品実測図（１／２）…… 37
第19図　石塚遺跡位置図［１］（１／15万）…… 39
第20図　石塚遺跡位置図［２］（１／５万）…… 40
第21図　石塚遺跡福島地区位置図（１／5,000）…… 41
第22図　石塚遺跡福島地区遺構図（１／200）…… 43
第23図　試掘調査地区関係遺跡位置図（１／５万）…… 48
第24図　油屋寺田遺跡南郷病院地区位置図（１／5,000）…… 49
第25図　石塚遺跡大田地区位置図（１／5,000）…… 50
第26図　今市遺跡柴地区位置図（１／5,000）…… 51
第27図　今市遺跡小勢７号線地区位置図（１／5,000）…… 52
第28図　下老子笹川遺跡立野１号線地区位置図（１／5,000）…… 53
第29図　中曽根西遺跡向田地区位置図（１／5,000）…… 54
第30図　高田新西後遺跡立野５号線地区位置図（１／5,000）…… 55
第31図　中曽根北遺跡チューリップ調剤地区位置図（１／5,000）…… 56
第32図　戸出６丁目東遺跡北陸セルラー地区位置図（１／5,000）…… 57
第33図　戸出古戸出遺跡是戸28号線地区位置図（１／5,000）…… 58
第34図　ＨＳ－02遺跡各調査地区位置図［１］（１／5,000）…… 59
第35図　ＨＳ－02遺跡各調査地区位置図［２］（１／5,000）…… 60

図　面　目　次

図面１　遺物実測図　下佐野遺跡　土器類
図面２　遺物実測図　下佐野遺跡　土器類
図面３　遺物実測図　東木津遺跡　土器類
図面４　遺物実測図　東木津遺跡　土器類
図面５　遺物実測図　東木津遺跡　土器類
図面６　遺物実測図　東木津遺跡　土器類
図面７　遺物実測図　東木津遺跡　土器類
図面８　遺物実測図　石塚遺跡　　土器類

図　版　目　次

図版１　遺構　下佐野遺跡　１．調査地区遠景（南）
　　２．調査地区遠景（南東）
図版２　遺構　下佐野遺跡　１．調査地区全景（北東）
　　２．調査地区全景（南西）
図版３　遺構　下佐野遺跡　１．溝ＳＤ34全景（北西）
　　２．溝ＳＤ34全景（西）
図版４　遺構　下佐野遺跡　１．土坑ＳＫ45遺物出土状態（北）
　　２．溝ＳＤ34遺物出土状態（東）
　　３．溝ＳＤ40遺物出土状態（南西）
図版５　遺構　東木津遺跡　１．調査地区遠景（南東）
　　２．調査地区遠景（南西）
図版６　遺構　東木津遺跡　１．調査地区全景（上方）
　　２．調査地区全景（北西）
図版７　遺構　東木津遺跡　１．掘立柱建物址ＳＢ01全景（上方）
　　２．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北西）
図版８　遺構　東木津遺跡　１．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）
　　２．掘立柱建物址ＳＢ01全景（東）
図版９　遺構　東木津遺跡　１．柵址ＳＡ01～03全景（南東）
　　２．柵址ＳＡ01～03全景（北東）
図版10　遺構　東木津遺跡　１．溝ＳＤ18全景（南）
　　２．溝ＳＤ18第４トレンチ部分遺物出土状態（南）
図版11　遺構　東木津遺跡　１．溝ＳＤ18第１トレンチ部分遺物出土状態（北）
　　２．溝ＳＤ18第１トレンチ部分完掘状態（北）

図版12　遺構　東木津遺跡　1．溝ＳＤ18第２トレンチ部分遺物出土状態（北）
2．溝ＳＤ18第２トレンチ部分完掘状態（北）
図版13　遺構　東木津遺跡　1．溝ＳＤ18第４トレンチ部分北壁土層断面（南）
2．溝ＳＤ18第２トレンチ部分北壁土層断面（南）
3．溝ＳＤ18第１トレンチ部分北壁土層断面（南）
図版14　遺構　東木津遺跡　1．溝ＳＤ18第４トレンチ部分須恵器出土状態（南東）
2．第２トレンチ土錘出土状態（南西）
3．凹地ＳＸ03第２トレンチ部分土器類出土状態（南西）
図版15　遺構　石塚遺跡　1．調査地区遠景（南南西）
2．調査地区遠景（北西）
図版16　遺構　石塚遺跡　1．調査地区全景（北北西）
2．調査地区全景（南西）
図版17　遺構　石塚遺跡　1．調査地区近景（南）
2．調査地区近景（北西）
図版18　遺物　1．下佐野遺跡出土土器
2．東木津遺跡出土土器

調査参加者名簿

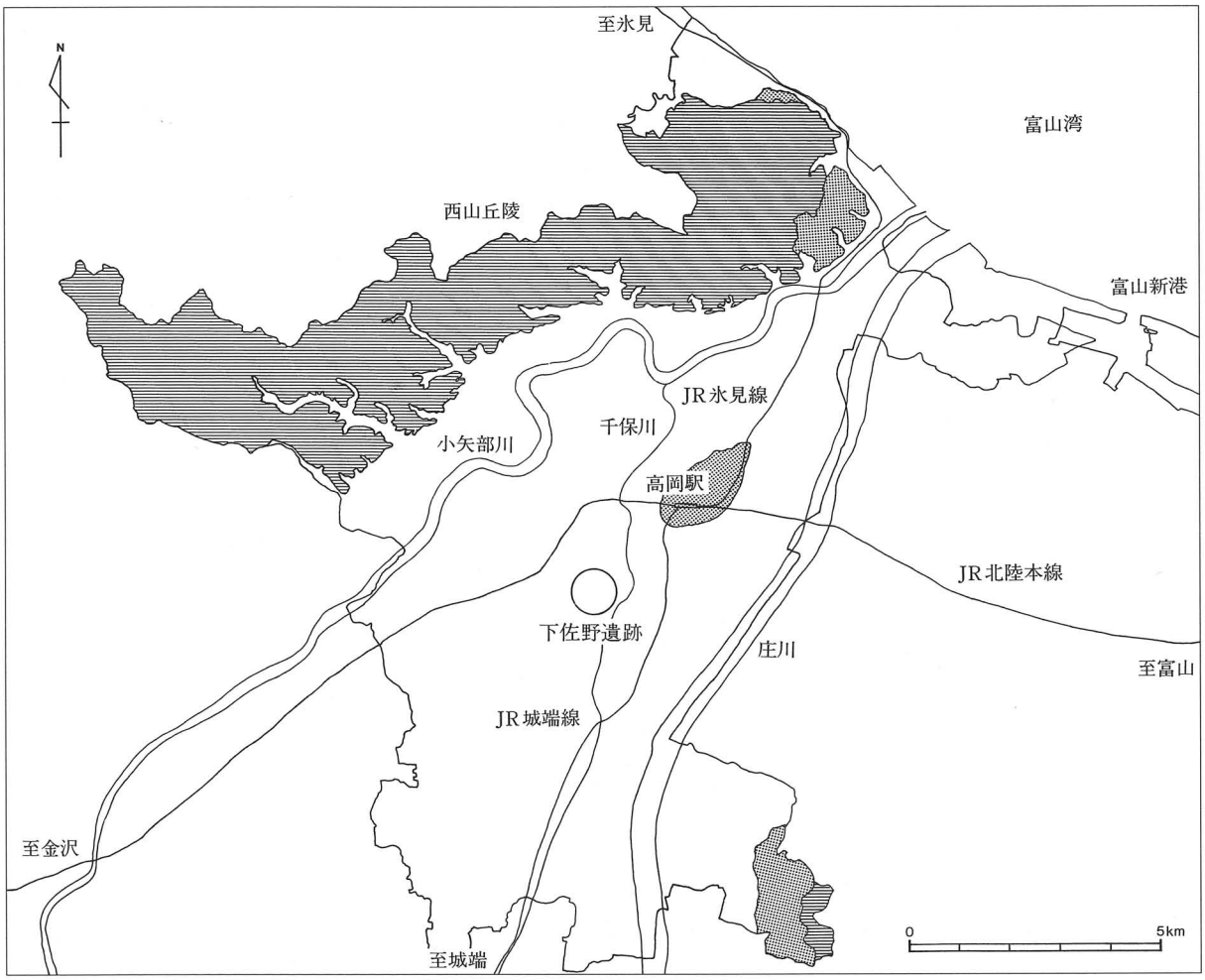
発掘

石田健一、上田工、大田欣和、岡田一広、河原康弘、北行雄、京田直子、小島善雄、小林央、佐野實、沢田和明
高木知子、高田えみ子、寺井久子、寺田里織、戸出知佳、道谷美奈子、中山賢富、苗田朋江、幡薫、早川由紀子
広沢隆太郎、福澤雪、古岡弘之、放生千絵、前田武國、松本直典、水外一郎、安田武雄、山崎一男、山城一夫
若杉賢二

整理

磯部夏子、大田欣和、岡田一広、小田紀子、折恵美子、片岡千賀子、川田純子、小林央、新谷晴紀子、高木麻里
高田えみ子、道谷美奈子、長谷川清美、幡薫、氷見智子、放生千絵、堀田委月子、牧田里恵、三島幸代、明前雅江
村上みのり、山田恵

1．下佐野遺跡、新田地区



第１図　下佐野遺跡位置図〔１〕（１／15万）

下佐野遺跡新田地区、目次

Ⅰ 序　　説 …… 3

Ⅱ 遺　　構 …… 6

1．土坑 …… 6

2．溝 …… 7

3．凹地 …… 9

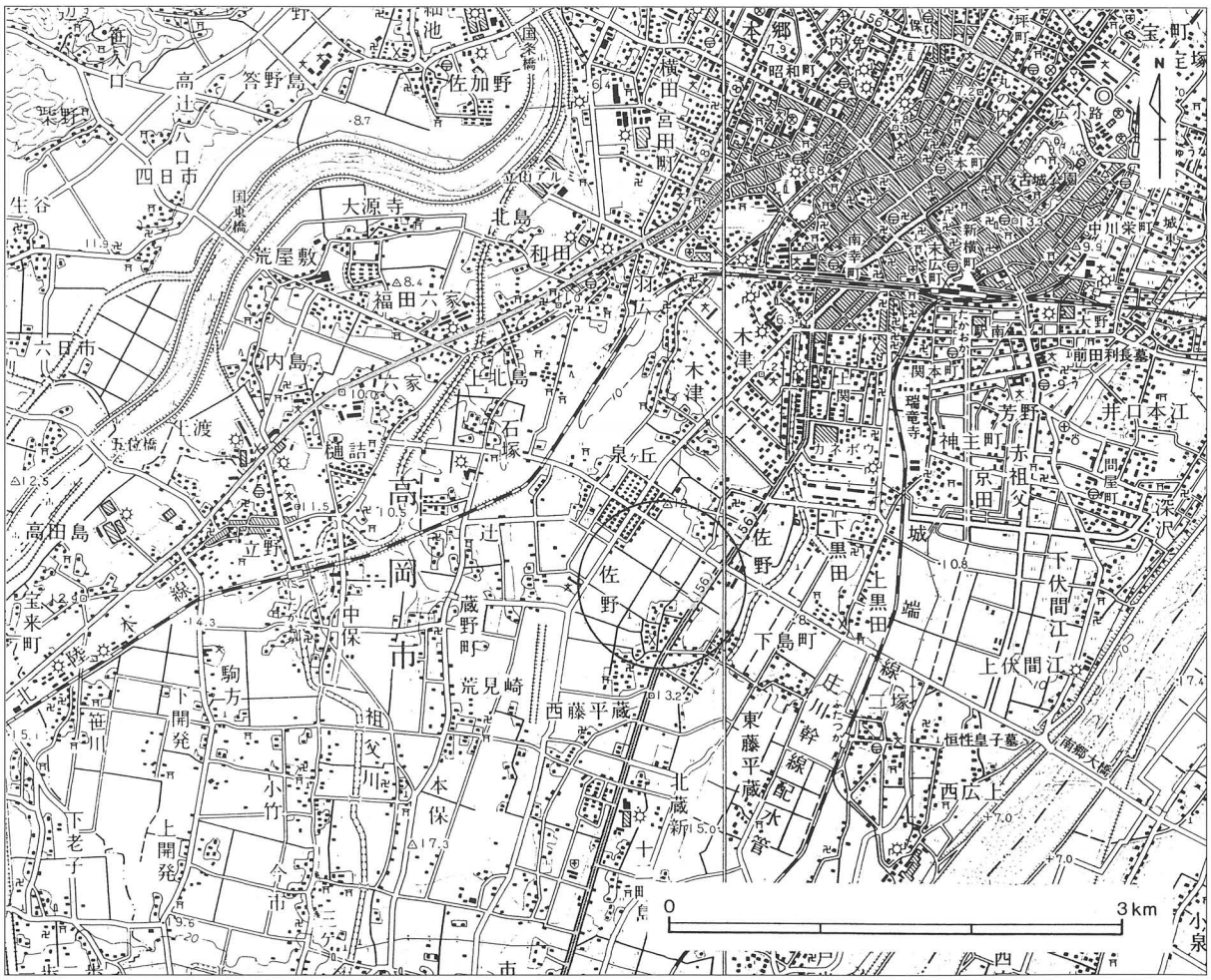
Ⅲ 遺　　物 …… 10

1．土器類 …… 10

2．鉄製品 …… 11

3．石製品 …… 11

Ⅳ 結　　語 …… 12



第２図　下佐野遺跡位置図〔２〕（１／５万）

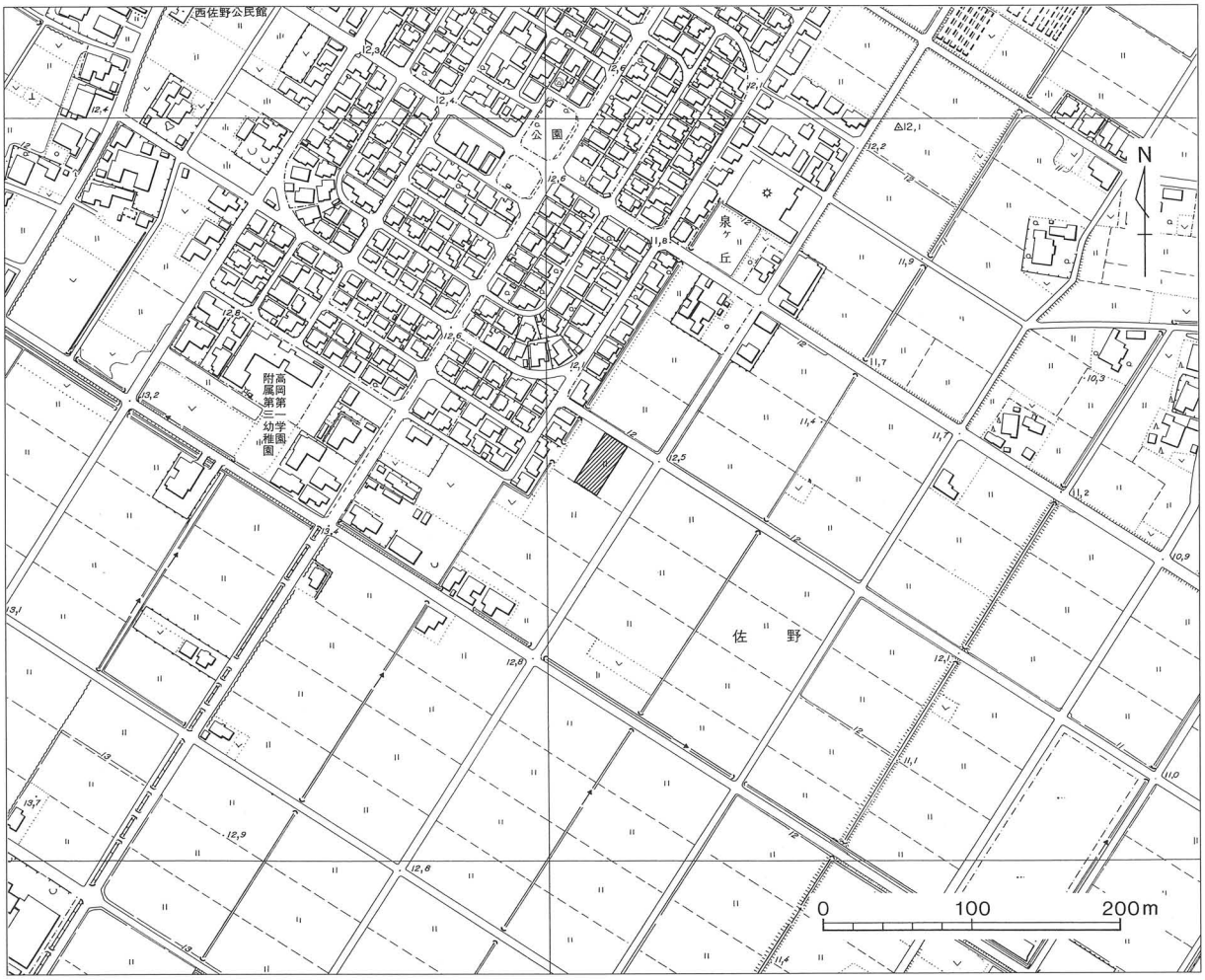
Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「下佐野遺跡」は高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の南西側約2.5kmに位置する。また、庄川が形成した扇状地の末端部に位置し、東側には千保川、西側には和田川が北流している。この両河川に挟まれた微高地に当たる。標高は11m前後を計る。西側には隣接して泉ヶ丘団地がある。

周辺の遺跡としては、北側には、奈良・平安時代を中心とした集落遺跡である東木津遺跡があり、西側には弥生時代から奈良・平安時代に営まれた石名瀬Ａ遺跡や西佐野千代遺跡がある。さらに北西側には縄文時代晩期と古墳時代後期～平安時代を中心とした泉ヶ丘遺跡がある。南側には奈良・平安時代の散布地である諏訪遺跡がある。

当遺跡は、昭和38年に発見され、翌年区画整理事業の実施により多量の遺物が出土した。昭和42年に上野章氏により遺跡の内容が紹介されたことによって、広くその存在が知られることとなった。既往の本調査では、平成元年度と平成３年度の調査で中世の井戸址、土坑、溝などが検出され、それらの井戸址のなかには、



第３図　下佐野遺跡新田地区位置図（１／5,000）

太鼓を井戸側として使用しているものも検出されている。また、平成３年度の別の調査地区と平成４年度の調査では、弥生時代末期の竪穴住居址、土坑などや中世の溝が検出されている。遺物では弥生土器の他、ヒスイの勾玉がある。平成５年度の調査では、奈良・平安時代、中世の遺構、遺物が確認されている。

当遺跡の範囲は、南北約650ｍ×東西約460ｍである。

調査に至る経緯

平成９年11月に市農業委員会からの照会で、当該地における農地転用と住宅建設計画を知った。このため施主の新田仁四郎氏と協議、承諾を得て、同年12月に試掘調査を実施するに至った。その結果、土師器、須恵器等の遺物が多量に出土し、土坑、溝などの遺構が確認された。この試掘調査の結果を受け、再度協議を行い、平成10年４月より本調査を実施することとなった。調査地区は、泉ヶ丘団地の東側に隣接した場所で、遺跡の最も西側の中央部に当たる。

調査経過

発掘調査は、平成10年４月13日から同年８月20日まで実施した。調査地区の中央から南東部にかけての約３分の１を発掘区とした。表土の除去はバックフォーで行い、発掘区の南西側に積み上げた。速やかに手作業による発掘調査へ移る予定であったが、他の調査との調整から６月５日からの再開となった。その後、遺構の確認、掘り下げ、記録の作成を行った。調査対象面積は499㎡で、272㎡の発掘を実施した。

基本層序

厚さ15cm前後の耕作土の下に、厚さ20cm前後で黒褐色砂質粘土の遺物包含層が堆積しており、その下層に地山が現れる。地山は黄褐色砂質土・青灰白色粘土からなり、大きな起伏はなかった。調査地区の北東部と北西部の一部でカクランがあったが、地山までは達していなかった。

調査地区全域で遺物包含層が認められ、奈良・平安時代の遺物を中心に多数出土した。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

土坑９基（ＳＫ41～49）

溝24条（ＳＤ22～45）

凹地１基（ＳＸ04）

この他に、ピット数基を検出している。発掘区のほぼ全域で遺構が検出された。

調査地区の中央を北東から南西方向へ走る溝状のものは、近代の農業用水であると判断した。また、北側の北西から南東方向へ走る溝状のものは、暗渠である。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

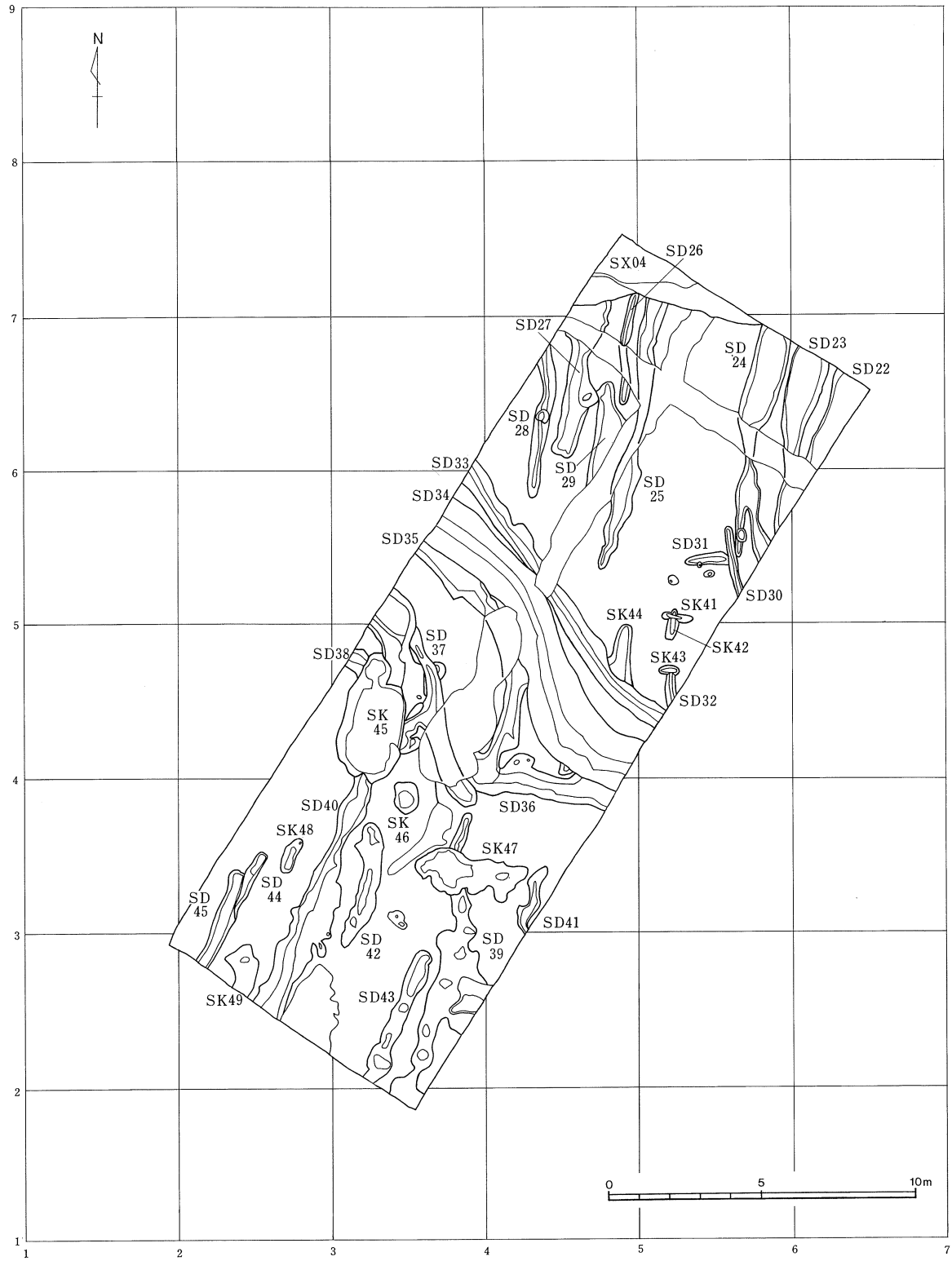
土器類：土師器、須恵器、珠洲、青磁、近世陶磁器

鉄製品：鉄釘、形態・用途不明鉄製品

石製品：砥石

グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″・東経137°10′00″）に合わせた。東西をＸ軸とし、南北をＹ軸とした。グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとした。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より、西へ15.480km、北へ80.255kmへ向かった位置である。一辺５ｍ四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第４図　下佐野遺跡新田地区遺構図（１／200）

Ⅱ 遺　　構

1．土　　坑

土坑ＳＫ41

調査地区の（５，４・５）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.10ｍ、短軸0.30ｍ、深さ11cmを計る。中央部でＳＫ42を切っている。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ42

調査地区の（５，４・５）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.00ｍ、短軸0.30ｍ、深さ９cmを計る。北側でＳＫ41に切られている。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ43

調査地区の（５，４）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.70ｍ、短軸0.30ｍ、深さ７cmを計る。中央部でＳＤ32を切っている。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ44

調査地区の（４，４）区で検出された。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.80ｍ、短軸0.50ｍ、深さ13cmを計る。南側でＳＤ33に切られている。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ45

調査地区の（３，３・４）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸4.20ｍ、短軸2.00ｍ、深さ62cmを計る。中央部でＳＤ37を切っているが、ＳＤ38やＳＤ40とは、ほぼ同時期に存在したと推定される。ＳＤ38、ＳＤ40と関連するもの、ないし同一の遺構としたほうがよいのかもしれない。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は、図面１－1104である。

土坑ＳＫ46

調査地区の（３，３）区で検出された。平面形は略円形を呈し、規模は長軸1.00ｍ、短軸0.80ｍ、深さ28cmを計る。上部はカクランを受けていた。出土遺物は、土師器である。

土坑ＳＫ47

調査地区の（３・４，３）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸3.70ｍ、短軸1.50ｍ、深さ30cmを計る。覆土の観察から中央部でＳＤ39を切っていると判断した。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ48

調査地区の（２，３）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.20ｍ、短軸0.40ｍ、深さ16cmを計る。遺物は出土していない。

土坑ＳＫ49

調査地区の（２，２）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は長軸1.40ｍ以上、短軸1.10ｍ、深さ８cmを計る。南側は調査地区外へ拡がっている。遺物は出土していない。

２．溝

溝ＳＤ22

調査地区の北東部で検出された。北東から南西方向へ走っている。規模は、長さ3.10m以上、幅0.40m以上、深さ14cmを計る。南西側でカクランに切られている。北東側と南側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ23

調査地区の北東部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から同一のものと判断した。ほぼ北から南方向へ直線的に走っている。規模は、長さ5.70m以上、幅0.52～1.18m、深さ16cmを計る。北側と南側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ24

調査地区の北東部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から同一のものと判断した。北北東から南東方向へ弓状に走っている。規模は、長さ7.30m以上、幅0.24～1.12m、深さ19cmを計る。北北東側と南東側は調査地区外へ延びている。南東側は二股に分かれて、ＳＤ30とピットに切られている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ25

調査地区の北部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から一連の溝になると判断した。北北東から南東方向へ弓状に走っている。規模は、長さ9.00m、幅0.29～0.72m、深さ12cmを計る。北北東側でＳＸ04と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。遺物は出土していない。

溝ＳＤ26

調査地区の北部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から一連の溝になると判断した。北から南方向へほぼ直線的に走っている。規模は、長さ3.60m、幅0.30m、深さ９cmを計る。北側でＳＸ04と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。遺物は出土していない。

溝ＳＤ27

調査地区の北部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から一連の溝になると判断した。北から南南西方向へ走っている。規模は、長さ5.10m、幅0.50～1.36m以上、深さ11cmを計る。北側でＳＸ04と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。また、東側ではＳＤ29とも接しているが、切り合いは不明である。遺物は出土していない。

溝ＳＤ28

調査地区の北部で検出された。北から南方向へやや湾曲しながら走っている。規模は、長さ5.00m以上、幅0.32～0.48m、深さ22cmを計る。北側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ29

調査地区の北部で検出された。北から南方向へ走っている。規模は、長さ3.20m、幅0.54～0.90m以上、深さ８cmを計る。北側でＳＤ27と接しているが、切り合いは不明である。南側ではカクランに切られている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ30

調査地区の北東部で検出された。ほぼ北から南方向へ直線的に走っている。規模は、長さ1.90m以上、幅0.24m、深さ４cmを計る。南側は調査地区外へ延びている。中央部では、ＳＤ24とＳＤ31を切っている。遺

物は出土していない。

溝ＳＤ31

調査地区の北東部で検出された。西から東方向へ直線的に走っている。規模は、長さ1.50m、幅0.34m、深さ３cmを計る。南西側ではピット、東端ではＳＤ30にそれぞれ切られている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ32

調査地区の東側で検出された。北から南方向へほぼ直線的に走っている。 規模は、長さ0.50m以上、幅0.28m、深さ８cmを計る。南側は調査地区外へ延びている。北端部ではＳＫ43に切られていると判断した。遺物は出土していない。

溝ＳＤ33

調査地区の中央部で検出された。北西から南東方向へやや湾曲しながら走っている。 規模は、長さ12.50m以上、幅0.46～0.86m、深さ19cmを計る。北西側と南東側は調査地区外へ延びる。中央部では、ＳＤ34とカクランに切られている。また、東側ではＳＫ44を切っている。出土した遺物は、土師器である。

溝ＳＤ34

調査地区の中央部で検出された。北西から南東方向へ逆Ｓ字状に走っている。 規模は、長さ13.50m以上、幅1.06～1.92m、深さ56cmを計る。北西側と南東側は調査地区外へ延びる。北西側ではＳＤ35、中央部ではＳＤ33、南側ではＳＤ36をそれぞれ切っている。さらに中央部では、上部でカクランに切られている。出土した遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は、図面１－1101・1103・1107・1109、図面２－1123・1134・1137である。

溝ＳＤ35

調査地区の中央部で検出された。中央部と南西端ではカクランに切られているが、覆土の状況などから同一のものと判断した。北西から南西方向へ円弧を描いて巡っている。規模は、長さ11.00m以上、幅0.44～1.08m、深さ20cmを計る。北西側ではＳＤ34に切られ、南西側ではＳＤ36を切っている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ36

調査地区の中央部で検出された。西から東方向へ直線的に走っている。規模は、長さ4.50m以上、幅0.76～1.32m、深さ17cmを計る。東側は調査地区外へ延びる。西側ではＳＤ35とカクランに、東側ではＳＤ34に切られている。ＳＤ37とも接しているが、切り合い関係は不明である。出土遺物は、土師器、須恵器である。

溝ＳＤ37

調査地区の中央部で検出された。中央部でカクランに切られているが、覆土の状況から同一のものと判断した。北西から南東方向へ走っている。規模は、長さ7.40m、幅0.30～0.70m、深さ16cmを計る。南側で二股に分かれ、南西側ではＳＫ45に切られている。南東側はＳＤ36と接しているが、切り合い関係は不明である。出土遺物は、土師器である。

溝ＳＤ38

調査地区の西部で検出された。北西から南東方向へ走っている。規模は、長さ0.60m以上、幅0.64～0.74m、深さ19cmを計る。南東側でＳＫ45と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。北西側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ39

調査地区の南東部で検出された。北北東から南南西方向へ蛇行しながら走っている。 規模は、長さ12.50

m以上、幅0.18～1.82m、深さ９cmを計る。北部では、ＳＫ47に切られている。南側と南東側は調査地区外へ延びている。出土遺物は、土師器、須恵器である。

溝ＳＤ40

調査地区の南西部で検出された。北東から南西方向へほぼ直線的に走っている。規模は、長さ8.40m以上、幅0.38～1.38m、深さ19cmを計る。北東端でＳＫ45と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。南西側は調査地区外へ延びている。出土遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は、図面１－1105・1110、図面２－1126・1132・1135である。

溝ＳＤ41

調査地区の南東部で検出された。北から南方向へＳ字状に曲がりながら走っている。規模は、長さ2.40m以上、幅0.30～0.60m、深さ11cmを計る。南側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ42

調査地区の南西部で検出された。北から南西方向へ弓状に曲がりながら走っている。規模は、長さ7.50m、幅0.60m、深さ16cmを計る。遺物は出土していない。

溝ＳＤ43

調査地区の南部で検出された。北東から南西方向へほぼ直線的に走っている。規模は、長さ4.40m以上、幅0.42～0.82m、深さ15cmを計る。南西側は調査地区外へ延びている。遺物は出土していない。

溝ＳＤ44

調査地区の南西部で検出された。北東から南西方向へほぼ直線的に走っている。規模は、長さ2.40m、幅0.40m、深さ12cmを計る。南西側ではＳＤ45を切っている。出土遺物は、土師器である。

溝ＳＤ45

調査地区の南西部で検出された。北東から南西方向へほぼ直線的に走っている。規模は、長さ3.00m以上、幅0.42～0.68m、深さ７cmを計る。北東部ではＳＤ44に切られている。出土遺物は、土師器である。

３．凹　　地

凹地ＳＸ04

調査地区の北部（４・５，６・７）区で検出された。規模は、一番深いところで30cmある。南側ではＳＤ25、ＳＤ27と接しており、土層の状況からほぼ同時期と推定される。北西側と北東側は調査地区外へ拡がっている。遺構全体の一部分を検出したに過ぎず、別の遺構となる可能性がある。出土遺物は土師器である。

Ⅲ 遺　物

1．土器類

土師器

椀　図面１－1101。ロクロ調整の椀の口縁部である。

鉢　図面１－1102。鉢の口縁部と考えた小破片である。

甕　図面１－1103・1104。1103は口縁・胴上部片で、丸い胴部より口縁部は内弯して外上方へ拡がる。1104は胴部底部片である。形態は長卵型で外面には刷毛目が施してあり、内面には刷毛目を施す。下部には一部あて具痕がみられる。

須恵器

杯Ａ　図面１－1105～1107。高台の付かない杯身である。1105は口縁部が直線的に延び、底部はヘラ切り痕がみられる。1106は口縁部がやや外反しながら延びている。1107は杯身の底部であり、ヘラ切り痕がみられる。

杯Ｂ　図面１－1108～1119。高台付の杯身である。1113～1119は杯身の底部である。1113・1114・1115・1119はヘラ切り痕がみられる。1108・1110は口縁部がやや外反しながら延び、底部にはヘラ切り痕がみられる。1109には体部外面には斜めに刻まれた２条の沈線からなるヘラ記号が付く。

杯口縁部　図面１－1120、図面２－1121～1126。1120は口縁部が直線的に延び、沈線が２条刻まれている。高台が付いていた可能性がある。1121は口縁部が直線的に大きく外傾しており、高台は無いものとみられる。1122～1126は底部付近まで残っていないので高台があるかは不明である。

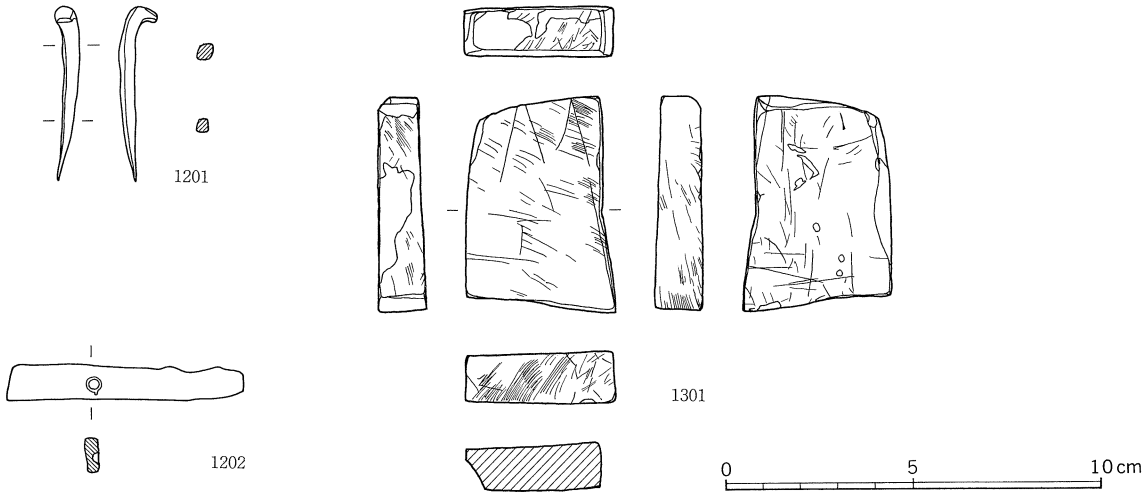
杯蓋　図面２－1127～1132。杯蓋のつまみ・天井部・口縁部である。1127は平坦な頂部から口縁部へなだらかに傾斜しているとみられ、つまみは偏平で中央がややへこんでいる。1128は天井部は平坦で、つまみは宝珠形を残しながらも偏平なものになっている。1129は天井部がなだらかな傾斜で、口端部が下方へほぼ直角に屈曲し、さらに外側へ折り返している。1130～1132は天井部がなだらかな傾斜で、口端部は丸くなって終わっている。

壺　図面２－1133～1137。1133は頸部が短く「くの字」状に外傾し、口縁端部は面取りしてあり、頸部の内面にあて具痕がみられる。1134は口縁が短く直立し、肩部には２条づつ２つの沈線が巡っている。1135は頸部には壺蓋の口端部の一部とみられるものが融着している。底部は高台が付き、端部が内傾する。内面は全体的に横ナデが施してあり、下部には指圧痕がみられる。1136・1137は壺瓶類の底部である。1136は高台の付く底部である。1137は内面に横ナデが施してあり、下部には指圧痕がみられる。

甕　図面２－1138。小型の甕の口縁部片である。外上方へ大きく反り、端部は嘴状になって面取りしてある。

珠洲

壺　図面２－1139・1140。壺瓶類の底部である。



第５図　下佐野遺跡新田地区鉄製品・石製品実測図（１／２）

２．鉄製品

鉄釘

第５図－1201。長さ4.6cmを計る。横断面は方形で太い所では一辺約４mmとなる。

形態・用途不明鉄製品

第５図－1202。本来の形態や用途が不明な鉄製品である。長さ6.3cm、幅1.0cmを計る。一端は曲がっている。中央部近くに穿孔が見られる。貫通はしていない。径約３mmの小孔である。

３．石製品

砥石

第５図－1301。黒灰色を呈する粘板岩製の砥石である。長さ5.8cm、幅4.0cm、厚さ1.3cmを計る。 長側面は相対する大きい２面が使用面である。他の小さい２面も一部使用されている。両端面も使用面となっている。

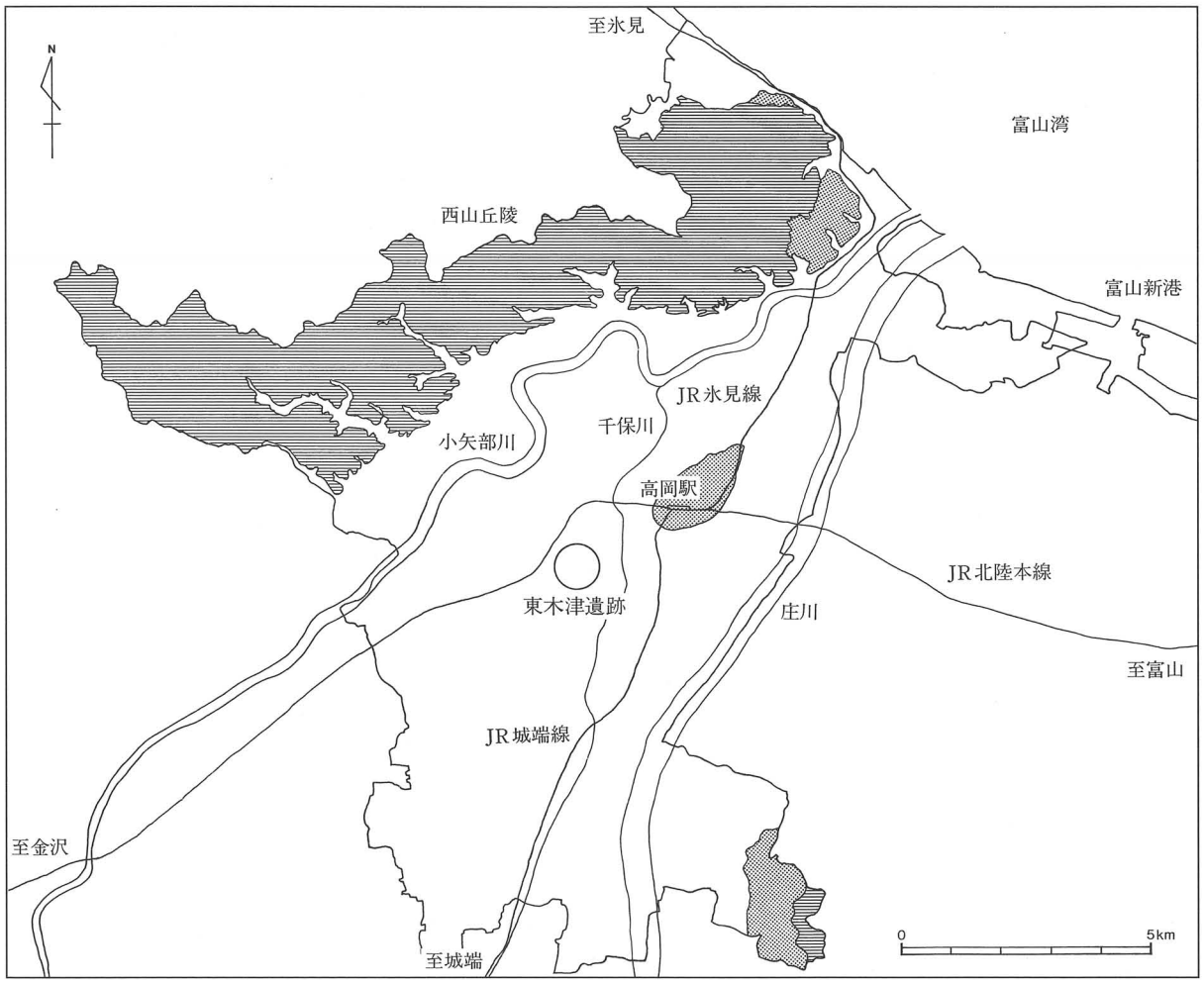
Ⅳ 結　　語

今回の調査地区は、下佐野遺跡の最も西側に位置する部分の一部であり、土坑、溝が中心に検出された。検出された遺構は、ＳＤ34とＳＫ45以外は浅いものが多く、溝は中央部のものを除いてほぼ南北方向を向いている。出土土器から、これらの遺構は奈良・平安時代（８～９世紀）のものと推定される。遺物を伴わない遺構の場合も、覆土の状況が共通することから、この時期に属するものと思われる。前回までの調査でも奈良・平安時代に属する遺物は数多く出土し、当遺跡内における主要な時代の一つと考えられてきた。今回は弥生時代や中世の遺構は検出されず、この時期の遺構が多数検出されたことで弥生時代から継続して営まれた遺跡の姿が伺える。

また、これまで遺跡の北半部を中心に様々な調査が実施されてきた。この範囲のうち、東側では弥生時代後期の遺構、遺物がまとまって出土し、北側は比較的中世のものが多く確認されている。今回の調査地区も含め、各時代ごとの生活域の違いが徐々に明らかになりつつあると思われる。

今回の調査により当遺跡の西側の一端が判明し、さらに西側に拡がっていることが確認された。さらに当調査地区は北側に位置する東木津遺跡と隣接し、両側の泉ヶ丘遺跡も含め、奈良・平安時代の遺跡として同一の集落遺跡である可能性も考えられる。

2．東木津遺跡、月安地区



第６図　東木津遺跡位置図〔１〕（１／15万）

東木津遺跡月安地区、目次

Ⅰ 序　　説 …… 15

Ⅱ 遺　　構 …… 22

1．掘立柱建物址 …… 22

2．柵址 …… 22

3．土坑 …… 25

4．溝 …… 29

5．凹地 …… 34

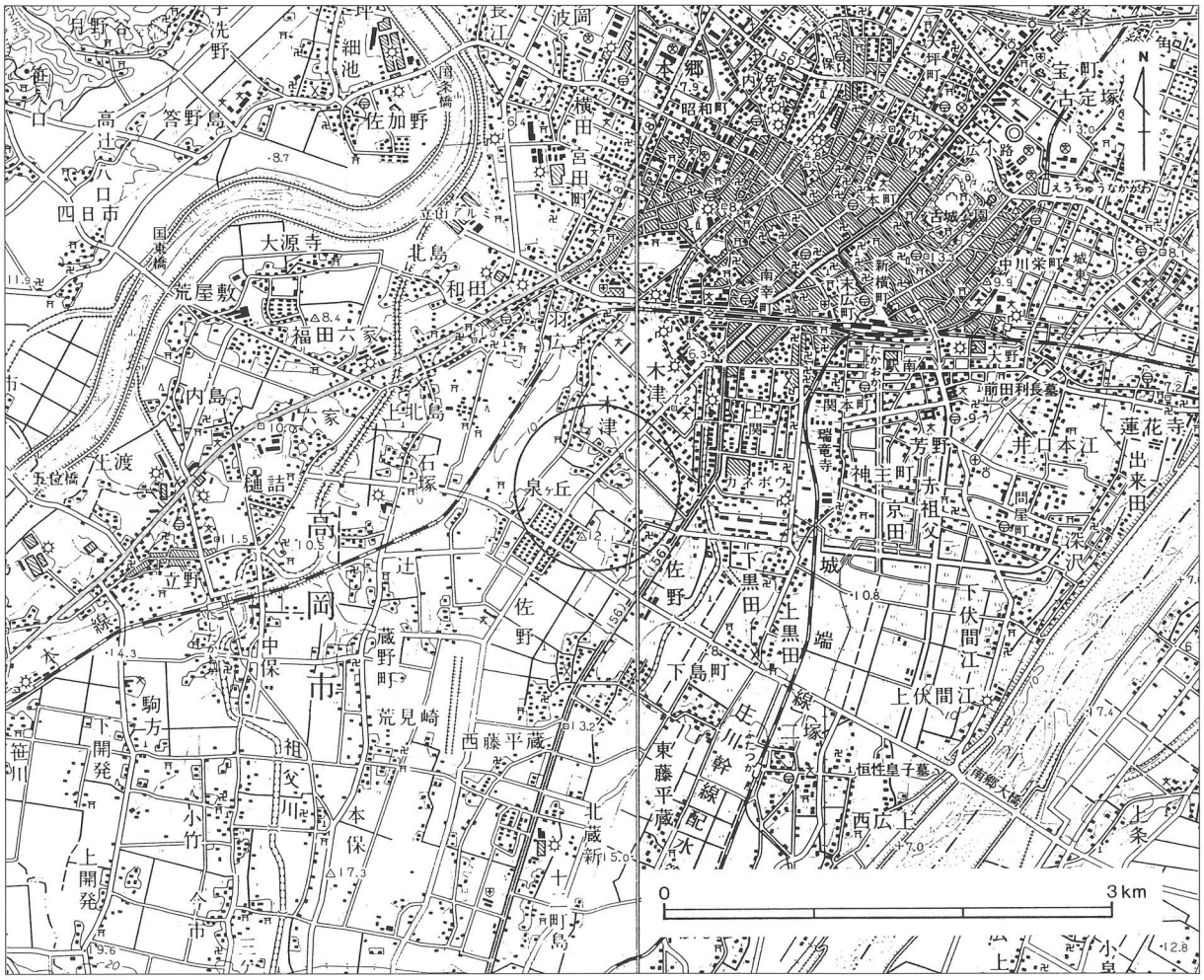
Ⅲ 遺　　物 …… 36

1．古墳時代の土器類 …… 36

2．奈良・平安時代の土器類 …… 36

3．その他の遺物 …… 37

Ⅳ 結　　語 …… 38



第７図　東木津遺跡位置図〔２〕（１／５万）

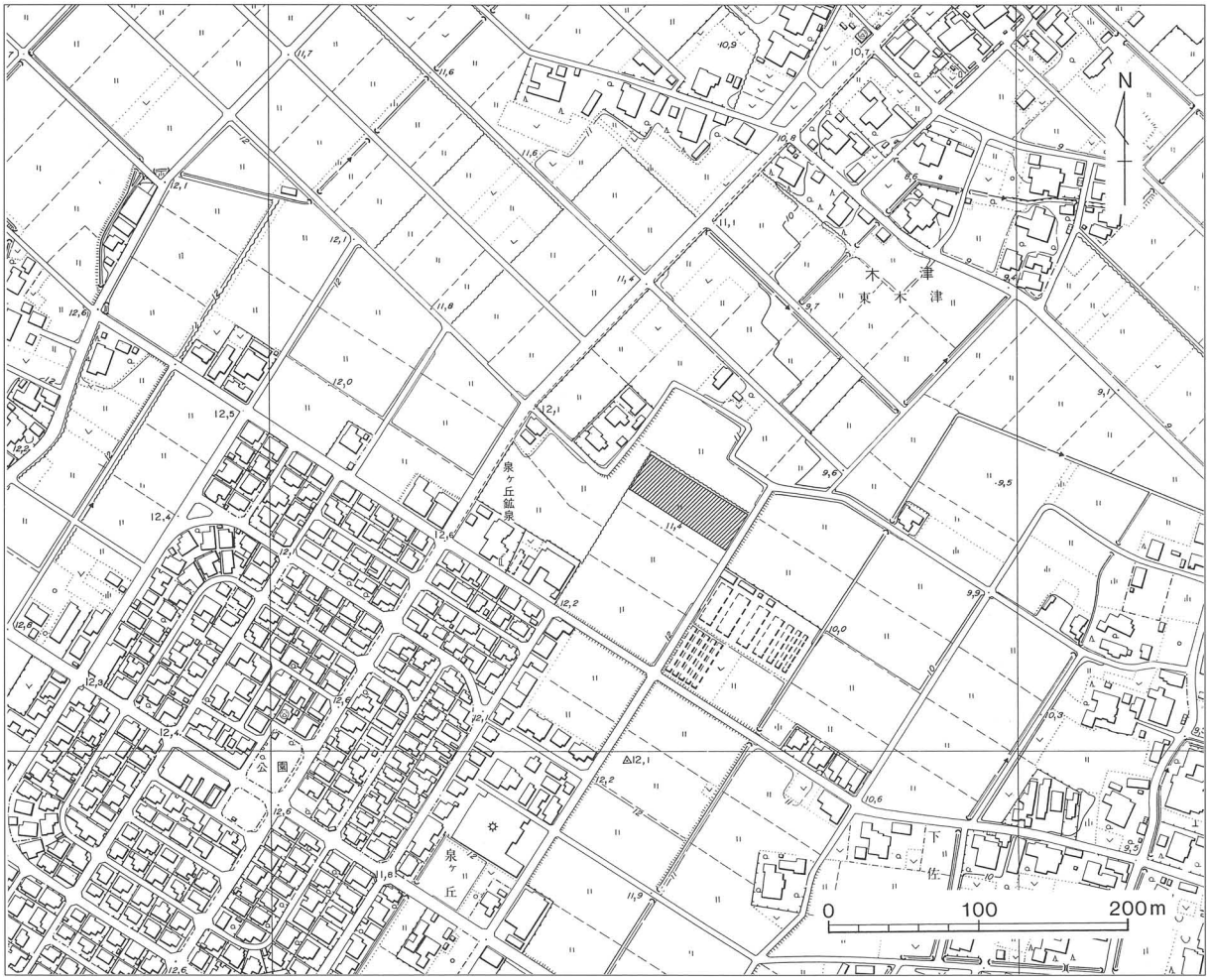
Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「東木津遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の南西約３kmに位置する。泉ヶ丘団地の北側一帯であり、東側約500mには国道156号線が、西側約500mにはＪＲ北陸本線が、北東～南西方向に走っている。遺跡は、東側の千保川と西側の和田川に挟まれた標高11～12mの微高地に立地している。この付近は往古の庄川が形成した扇状地の末端部に当たる。

周辺の遺跡としては、北西側に木津神社遺跡がある他、西木津遺跡、泉ヶ丘遺跡、諏訪遺跡等がある。これらの遺跡群は、弥生時代後期に始まり、古墳時代、奈良・平安時代を経て中世に至る遺跡である。東木津遺跡は、これまで奈良時代～平安時代を中心とする遺跡として早くから知られていた。近年実施した分布調査により、南側は下佐野遺跡と接するまで範囲が拡がっている。遺跡の範囲は南北250m×東西600mを計る。

当遺跡でこれまでに実施した発掘調査は、小規模開発にかかるものとして、試掘調査４回、本調査２回がある。また都市計画道路下伏間江福田線建設予定地の試掘調査がある。



第８図　東木津遺跡月安地区位置図（１／5,000）

調査に至る経緯

平成10年３月に、市農業委員会から照会があり、当該地における農地転用と資材置場建設を知った。都市計画道路下伏間江福田線の北側に接する地区である。その後、施主の月安建設と協議を重ねた結果、同年４月より調査を実施することで承諾を得た。調査地区は、泉ヶ丘団地の北西側、木津集落の南東側、遺跡推定範囲の北東側に当たる。

調査経過

発掘調査は、平成10年４月27日から同年６月12日まで実施した。調査地区は、調査以前から奈良・平安時代の土器類が多量に採集され、遺構、遺物の存在の可能性が高いことが窺われた。今回の調査は、当初試掘調査として実施した。調査地区に４本のトレンチを設定し、各トレンチの表土除去をバックフォーで行った。除去した表土は各トレンチの両側に積み上げた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を順次行った。その結果、土師器、須恵器等の遺物が多量に出土し、掘立柱建物址などの遺構が多数検出された。そこで、できる限り内容把握に努めるため、本調査に準じる調査を実施した。さらに、遺構が検出された周辺を拡張し、遺構の規模を確認するため一部掘り下げた箇所がある。調査対象面積は2,088㎡、発掘を実施したのは704㎡である。

基本層序

厚さ20cm前後の表土（耕作土）を除去すると、黄褐色砂質土、青灰色砂質土からなる地山が現れる。遺物包含層は部分的にしか見られず、区画整理の際の削平を受けている。地山は南側から北側にかけて徐々に低くなっており、調査地区周辺は泉ヶ丘団地から北へ広がる台地状となっている。また第３トレンチ、第４トレンチの間は、緩やかに落ち込む谷地形となっており、湧き水が激しいため間隔を空けて両トレンチを設定せざるをえなかった。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

掘立柱建物址１棟（ＳＢ01）

柵址３条（ＳＡ01～03）

土坑40基（ＳＫ02～41）

溝30条（ＳＤ18～47）

凹地５基（ＳＸ01～05）

ただし、全面発掘による確認調査でないため、実際の遺構の数や種類はさらに増える可能性がある。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

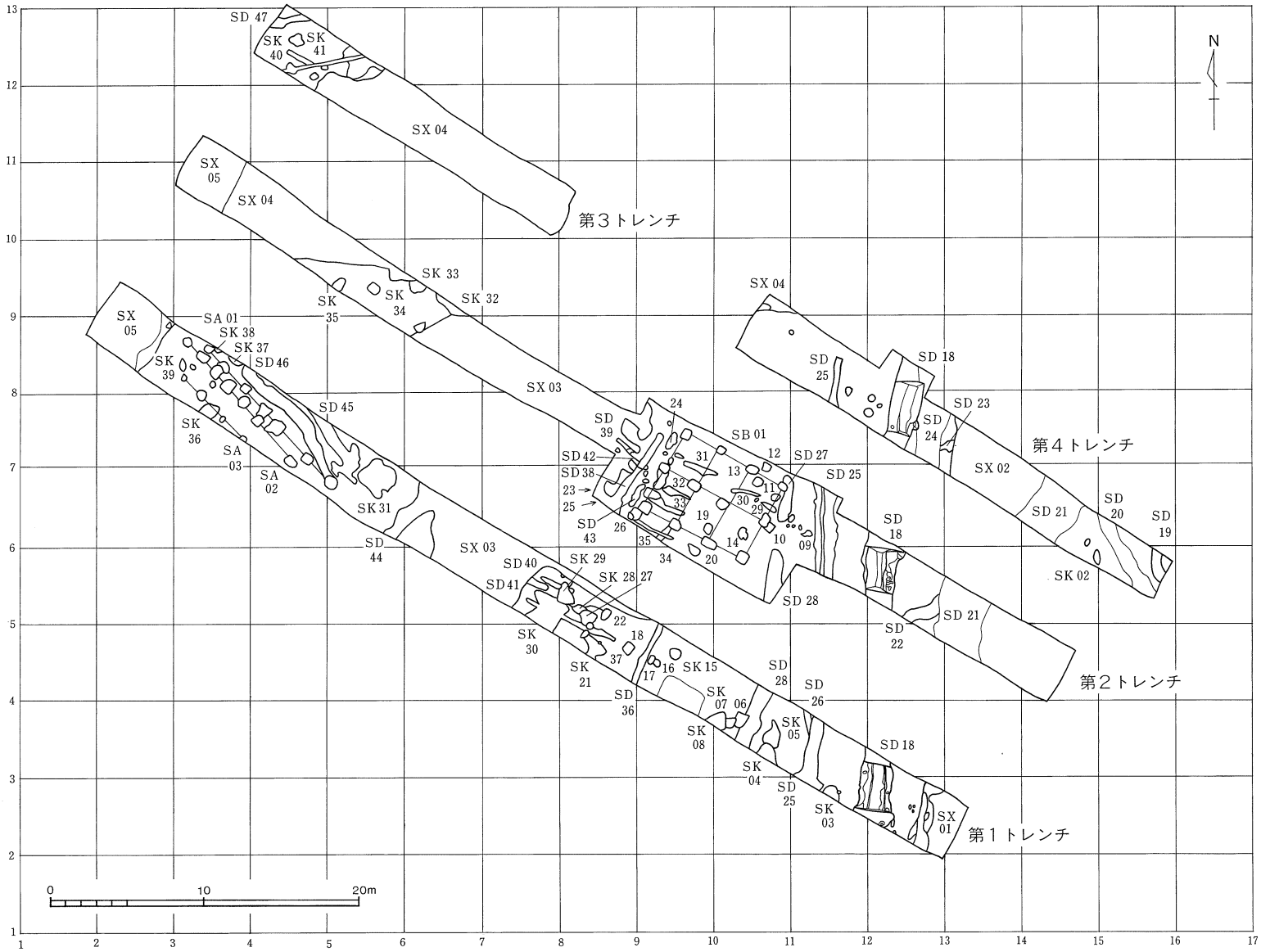
土器類：弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器

土製品：土錘

石製品：砥石

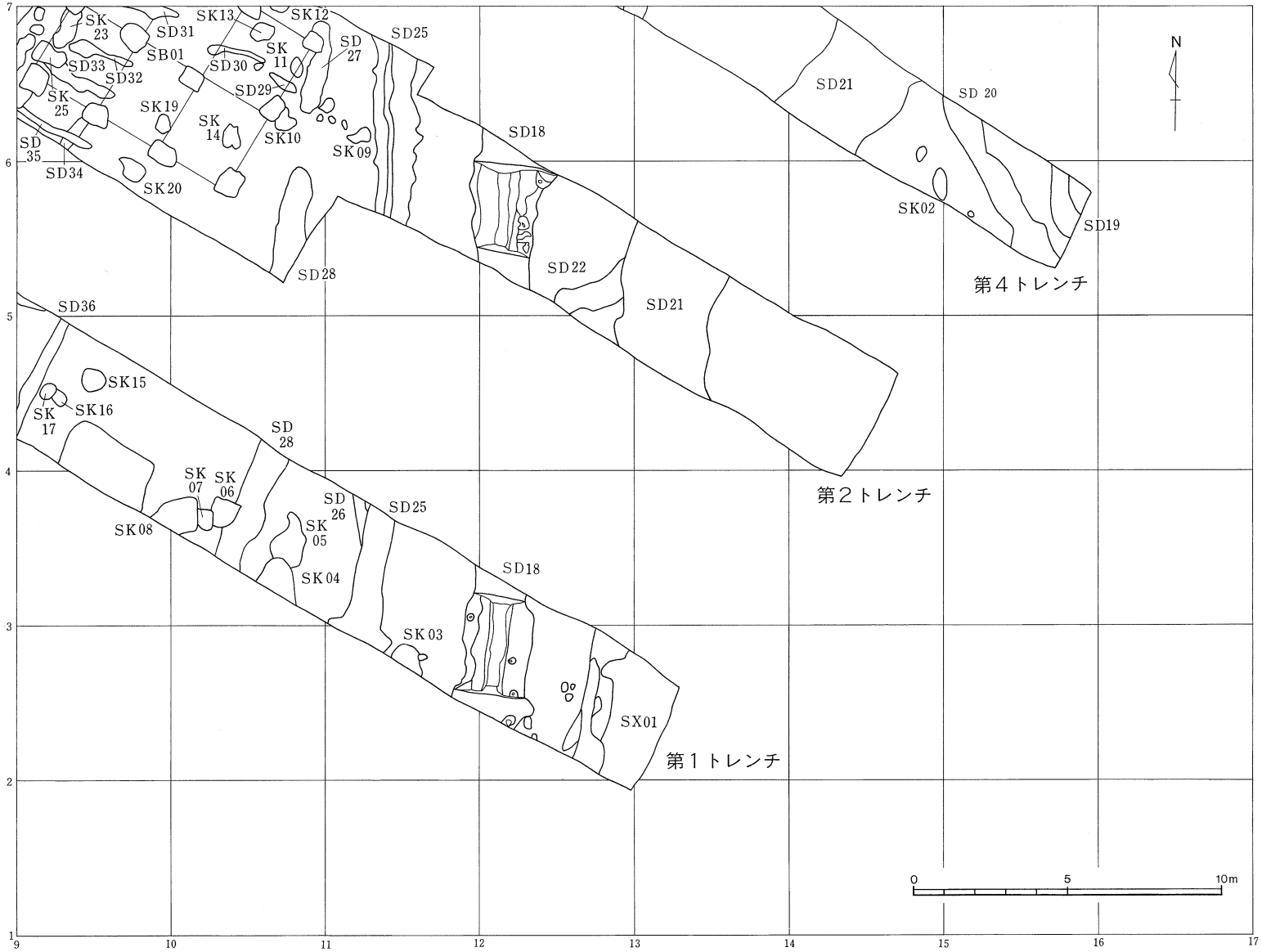
グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″・東経137°10′00″）に合わせた。東西をＸ軸、南北をＹ軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より西へ15.260km、北へ80.635km向かった位置である。一辺５ｍ四方を一区画としグリッドを割り付け、メッシュを表示した。

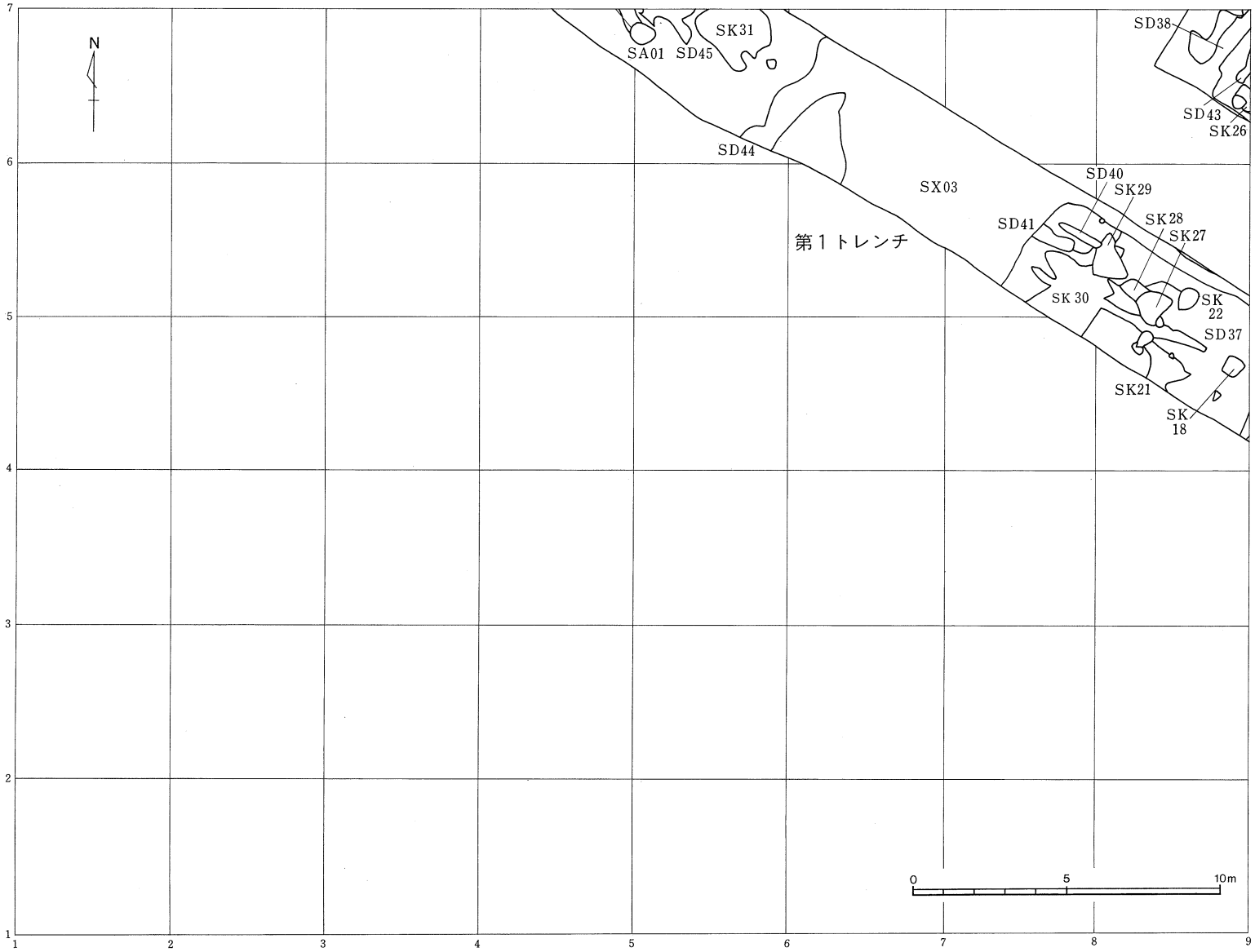


第９図　東木津遺跡月安
地区全体図（1／400）

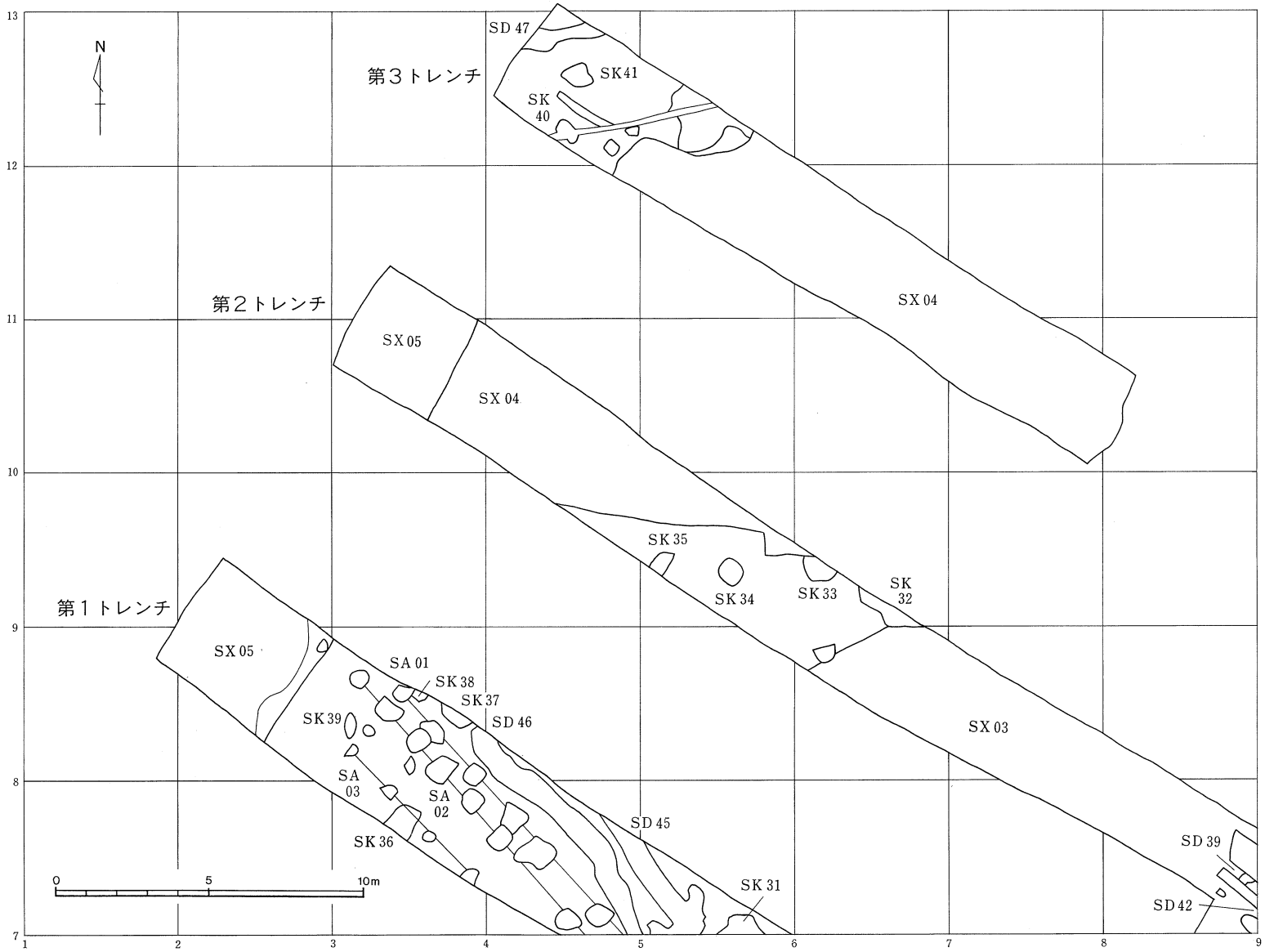
第10図　東木津遺跡
月安地区北東部遺構図
（1／200）



第11図　東木津遺跡
月安地区南東部遺構図
（1／200）



第12図　東木津遺跡
月安地区南西部遺構図
（1／200）



第13図　東木津遺跡
月安地区北西部遺構図
（1／200）

Ⅱ 遺　　構

1．掘立柱建物址

掘立柱建物址ＳＢ01

調査地区第２トレンチ中央部（８～11，５～７）区で検出された。北西～南東棟の総柱の掘立柱建物址である。検出面による確認では、建物の規模は、桁行３間（7.96m）×梁行２間（6.14m）で、柱間寸法は、桁行（2.26～2.54m）、梁行（2.60～2.78m）、棟の方向は、Ｎ－60度－Ｗを示すと思われる。掘り方は、ほぼ方形で、規模は一辺が40～80cm、深さは未確認のために不明である。検出面では柱痕を確認できなかった。周辺に、この掘り方と同様な規模を持つ土坑が検出されたが、検討の結果ＳＢ01の並びから外れるものと思われる。また、トレンチを拡張して精査したが別の掘立柱建物址を検出するまでには至らなかった。出土遺物は、須恵器である。

2．柵　　址

柵址ＳＡ01

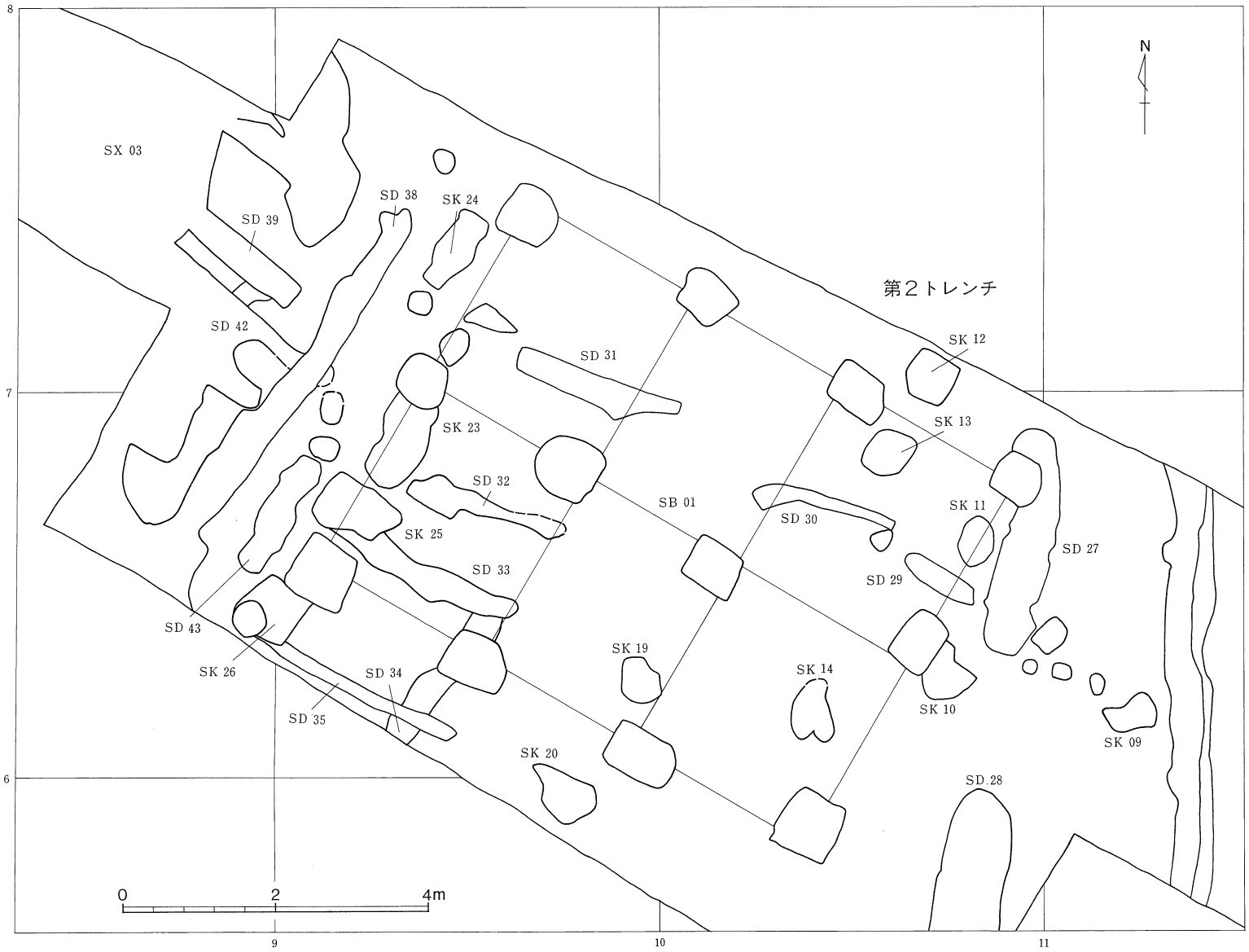
北西方向から南東方向に延びる柵址である。調査地区第１トレンチ北東部（３・４，６～８）区で検出された。検出面による確認では、規模は６間（12.4m）で、方位は真北に対し4.2度西に偏っている。 掘り方は、ほぼ方形から不定楕円形である。深さは未確認のため不明である。北西側と南東側の掘り方が一辺約60cmであるのに対して、中央部の掘り方は長辺が90cmを計るなど、規模もやや不揃いであるが、今回は一連の柵址とした。また、掘り方の一部が、当柵址の南側に位置し平行に並ぶＳＡ02の一部と僅かに重複し、切られていると思われる。出土遺物は、土師器、須恵器である。

柵址ＳＡ02

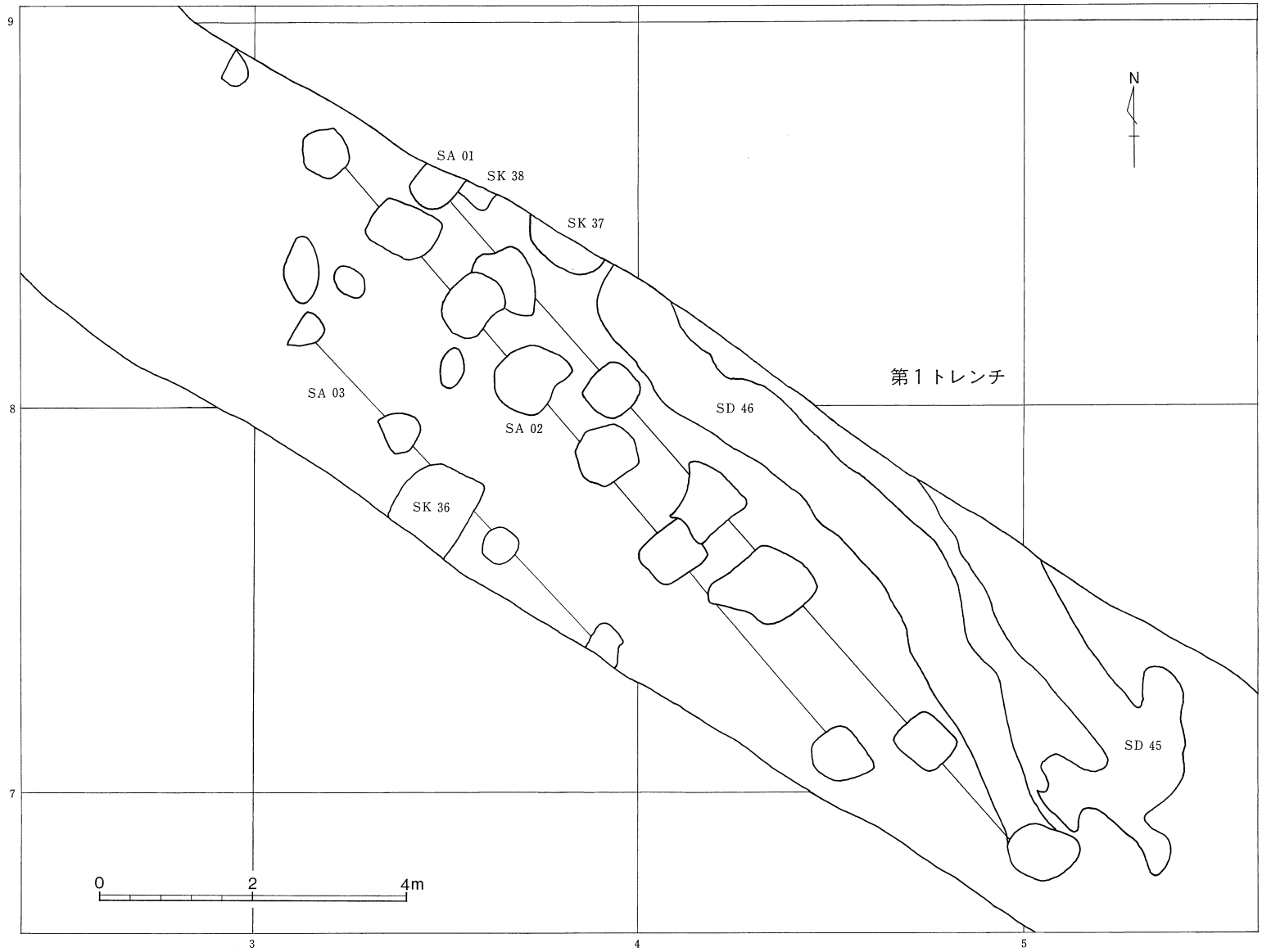
北西方向から南東方向に延びる柵址である。調査地区第１トレンチ北東部（３・４，６～８）区で検出された。検出面による確認では、規模は６間（11.6m）で、方位は真北に対し4.2度西に偏っている。 掘り方は、ほぼ方形である。規模はやや不揃いで、北西端の掘り方が一辺が約40cmなのに対して中央部の掘り方は長辺が約80cm、短辺が約60cmと、やや大きい。また、南東側の掘り方が一辺約60cm前後と小さくなる。深さは未確認のため不明である。掘り方の一部が北側に位置し平行に並ぶＳＡ01の一部と僅かに重複し、これを切っていると思われる。出土遺物は、土師器、須恵器である。

柵址ＳＡ03

北西方向から南東方向に延びる柵址である。調査地区第１トレンチ北東部（３，７・８）区で検出された。東側は調査地区外に延びていると思われる。検出面による確認では、規模は３間以上（5.9m以上）で、方位は真北に対し4.4度西に偏っている。掘り方の形状は一定でなく、規模はそれぞれ長軸約40cm前後、深さは未確認のため不明である。出土遺物は、土師器、須恵器である。



第14図　東木津遺跡月安
地区掘立柱建物址ＳＢ01
実測図（1／80）



第15図　東木津遺跡月安地区柵址ＳＡ01～03実測図（1／80）

3．土　坑

土坑ＳＫ02

調査地区第４トレンチの南東部（14・15，５）区で検出された。検出面による確認では、平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.0m、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ03

調査地区第１トレンチの南東部（11，２）区で検出された。南側は調査地区外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.6m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また北東部をピットに切られている。

土坑ＳＫ04

調査地区第１トレンチの南東部（10，３）区で検出された。南側は調査地区外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸1.3m、短軸1.1m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、北側でＳＫ05の南側を切っている。

土坑ＳＫ05

調査地区第１トレンチの南東部（10，３）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.3m、短軸1.1mを計る。深さは未確認のため不明である。また、南側をＳＫ04に切られている。

土坑ＳＫ06

調査地区第１トレンチの南東部（10，３）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定楕円形を呈し、規模は径0.9mを計る。深さは未確認のため不明である。 また、東側でＳＤ28を切り、南西部をＳＫ07に切られている。

土坑ＳＫ07

調査地区第１トレンチの南東部（10，３）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。また東側でＳＫ06を切り、西側でＳＫ08に切られている。

土坑ＳＫ08

調査地区第１トレンチの南東部（９・10，３）区で検出された。南西側は調査地区外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸1.5m以上、短軸1.1mを計る。深さは未確認のため不明である。また、東側でＳＫ07を切っている。

土坑ＳＫ09

調査地区第２トレンチの中央部（11，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定楕円形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.3mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ10

調査地区第２トレンチの中央部（10，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。また、北西部をＳＢ01に切られている。

土坑ＳＫ11

調査地区第２トレンチの中央部（10，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈

し、規模は長軸0.6m、短軸0.4mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ12

調査地区第２トレンチの中央部（10，６・７）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は１辺0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。掘立柱建物址、あるいは柵址の掘り方とも考えられるが、掘立柱建物址ＳＢ01の並びからは外れるため、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ13

調査地区第２トレンチの中央部（10，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ14

調査地区第２トレンチの中央部（10，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ15

調査地区第１トレンチの中央部（９，４）区で検出された。検出面による確認では、平面形は略円形を呈し、規模は径0.8mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ16

調査地区第１トレンチの中央部（９，４）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.5m、短軸0.4mを計る。深さは未確認のため不明である。また、北西部をＳＫ17に切られている。

土坑ＳＫ17

調査地区第１トレンチの中央部（９，４）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。また、東側でＳＫ16を切っている。

土坑ＳＫ18

調査地区第１トレンチの中央部（８，４）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は１辺が約0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ19

調査地区第２トレンチの中央部（９，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸0.6m、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ20

調査地区第２トレンチの中央部（９，５・６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定楕円形を呈し、規模は長軸1.0m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。当遺構は掘立柱建物址、あるいは柵址の掘り方とも考えられるが、掘立柱建物址ＳＢ01の並びからは外れるため、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ21

調査地区第１トレンチの中央部（８，４）区で検出された。南側は調査地区外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.7m、短軸1.0m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、北西部でピットに切られている。

土坑ＳＫ22

調査地区第１トレンチの中央部（８，５）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈

し、規模は長軸0.8m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ23

調査地区第２トレンチの中央部（９，６・７）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。また、北側をＳＢ01に切られている。

土坑ＳＫ24

調査地区第２トレンチの中央部（９，７）区で検出された。検出面による確認では、平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ25

調査地区第２トレンチの中央部（９，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.7mを計る。深さは未確認のため不明である。また、南側でＳＤ33を切っている。

土坑ＳＫ26

調査地区第２トレンチの中央部（８・９，６）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸0.8m、短軸0.7mを計る。深さは未確認のため不明である。また、北東部を掘立柱建物址ＳＢ01に、南西部をピットに切られている。南側でＳＤ35を切っているものと思われる。当遺構は掘立柱建物址、あるいは柵址の掘り方とも考えられるが、ＳＢ01の並びからは外れるため、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ27

調査地区第１トレンチの中央部（８，４・５）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸1.1m、短軸1.0mを計る。深さは未確認のため不明である。また、北西側でＳＫ28を、南側でＳＤ37を切り、南東部ではピットに切られている。

土坑ＳＫ28

調査地区第１トレンチの中央部（８，５）区で検出された。検出面による確認では、平面形は方形を呈し、規模は長軸0.7m、短軸0.6mを計る。深さは未確認のため不明である。また、南東部をＳＫ27に切られている。

土坑ＳＫ29

調査地区第１トレンチの中央部（７・８，５）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.4m、短軸1.1mを計る。深さは不明である。また、北側でＳＤ40を、南東部でＳＫ30を切っている。

土坑ＳＫ30

調査地区第１トレンチの中央部（７・８，４・５）区で検出された。南側は調査地区外へ広がるものと思われる。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸2.1m以上、短軸2.5mを計る。深さは未確認のため不明である。また、中央部でＳＤ37を切り、北東部でＳＫ29に切られている。

土坑ＳＫ31

調査地区第１トレンチの北西部（５，６・７）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定形を呈し、規模は長軸2.7m、短軸2.5mを計る。深さは未確認のため不明である。出土遺物は、土師器、須恵器、砥石である。図示した遺物は、図面４－2116、第18図－2301（砥石）である。

土坑ＳＫ32

調査地区第２トレンチの北西部（６，９）区で検出された。北東部は調査地区外へ広がっているものと思

われる。検出面による確認となったが、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸2.6m、短軸0.7m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、南側でＳＸ03を切っている。

土坑ＳＫ33

調査地区第２トレンチの北西部（６，９）区で検出された。北東部は調査地区外へ広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m、短軸0.7m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、北側をＳＸ04に切られている。この土坑ＳＫ33は、ＳＫ34・35と、ほぼ東西方向に直線上で並んでおり、柵址、あるいは掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑として扱った。

土坑ＳＫ34

調査地区第２トレンチの北西部（５，９）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.8mを計る。深さは未確認のため不明である。このＳＫ34は、ＳＫ33・35と、ほぼ東西方向に直線上で並んでおり、柵址、あるいは掘立柱建物址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ35

調査地区第２トレンチの北西部（５，９）区で検出された。南西側は第２トレンチ外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸0.8m以上、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。このＳＫ35は、ＳＫ33・34と、ほぼ東西方向に直線上で並ぶが、全体の規模が確認できないため、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ36

調査地区第１トレンチの北西部（３，７）区で検出された。南西側は調査地区外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は長方形を呈し、規模は長軸1.0m以上、短軸0.9mを計る。深さは未確認のため不明である。当遺構は掘立柱建物址、柵址の掘り方とも考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ37

調査地区第１トレンチの北西部（３，８）区で検出された。北東側は第１トレンチ外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.2m以上、短軸0.4m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、南東側ではＳＤ37と隣接しており、連続する遺構である可能性もある。

土坑ＳＫ38

調査地区第１トレンチの北西部（３，８）区で検出された。北側は第１トレンチ外に広がっているものと思われる。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.5m、短軸0.3m以上を計る。深さは未確認のため不明である。また、西側をＳＡ01に切られていると思われる。このＳＫ38は、柵址、あるいは掘立柱建物址の掘り方である可能性も考えられるが、今回は土坑とした。

土坑ＳＫ39

調査地区第１トレンチの北西部（３，８）区で検出された。検出面による確認では、平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.4mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ40

調査地区第３トレンチの北西部（４，12）区で検出された。検出面による確認では、平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.5mを計る。深さは未確認のため不明である。

土坑ＳＫ41

調査地区第３トレンチの北西部（４，12）区で検出された。検出面による確認では、平面形は不定楕円形を呈し、規模は長軸1.1m、短軸0.8mを計る。深さは未確認のため不明である。

４．溝

溝ＳＤ18

調査地区の東側で検出された。南北方向に直線的に走る溝である。この溝は、調査地区が限られていたために全体の規模が確認できなかったが、溝の形状や出土状況が似ており、第１・２・４トレンチでの検出面が、ほぼ直線的に延長上にあったことから、１本の溝とした。規模は幅1.60～2.75m、深さ1.02mを計る。30.30mに亘り検出され、北側、南側とも調査地区外へ延びている。 第４トレンチ（12，７・８）区では、東側をＳＤ24に切られている。上部は削平を受けており断面も浅いものとなっている。この全体図は第16図－左図に示し、各トレンチでの、土層断面図は第16図－右図、第17図として図示した。土層は次のように分類される。

第Ⅰ層；第２～４層。暗褐色砂質土が中心の層。

第Ⅱ層；第５～12層。褐色粘質土が中心の層。

第Ⅲ層；第13層。黒褐色粘質土が中心の層。

また、溝の断面は逆台形で、第Ⅰ層から第Ⅱ層にかけて、礫と遺物が混在して出土した。土層の堆積状況から複数回掘り直されていることが考えられる。出土遺物は、土師器、須恵器である。出土遺物などから、この溝は、奈良・平安時代の遺構と考えられる。図示した土器類は、図面４－2115・2116・2121、図面５－2124・2128・2131・2132・2137・2139・2144、図面６－2149・2162・2171、図面７－2175・2177である。

溝ＳＤ19

調査地区第４トレンチの東端部で検出された。Ｌ字形に北側～東側に走る。検出面による確認となったが、規模は幅0.6～1.2mを計り、2.0mに亘り検出された。 深さは未確認のため不明である。また、それぞれ北側、東側は調査地区外に延びているものと思われる。

溝ＳＤ20

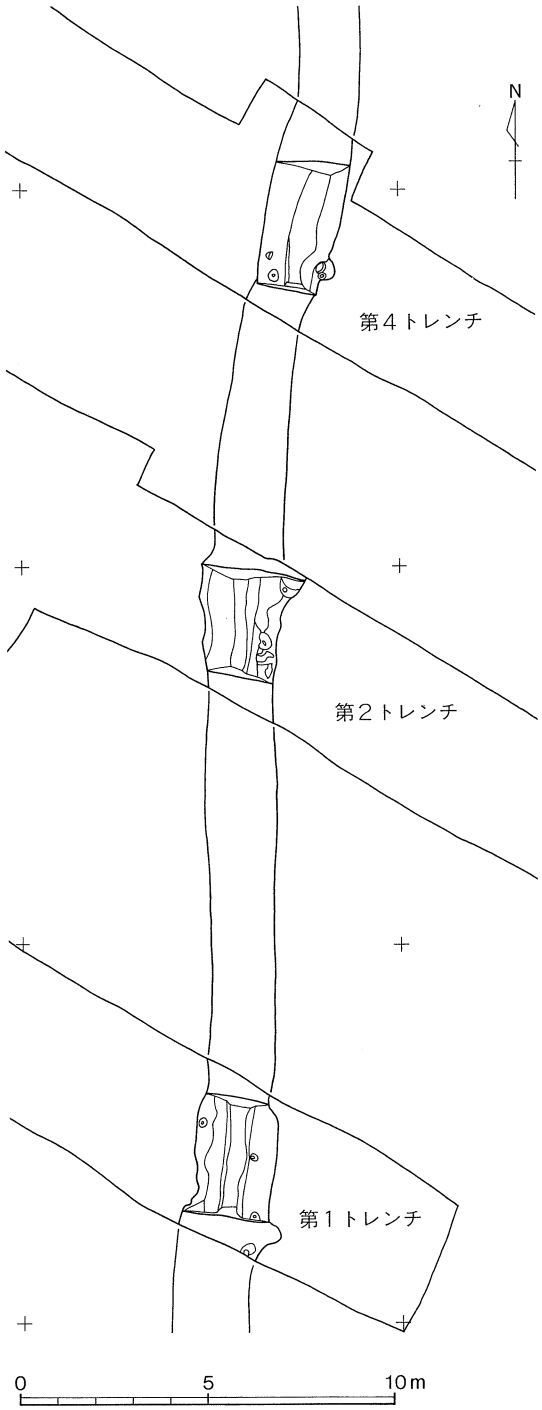
調査地区第４トレンチの東端部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る。検出面による確認となったが、規模は幅0.6～1.2mを計り、6.0mに亘り検出された。 深さは未確認のため不明である。また、それぞれ北西側、南東側は調査地区外に延びているものと思われる。

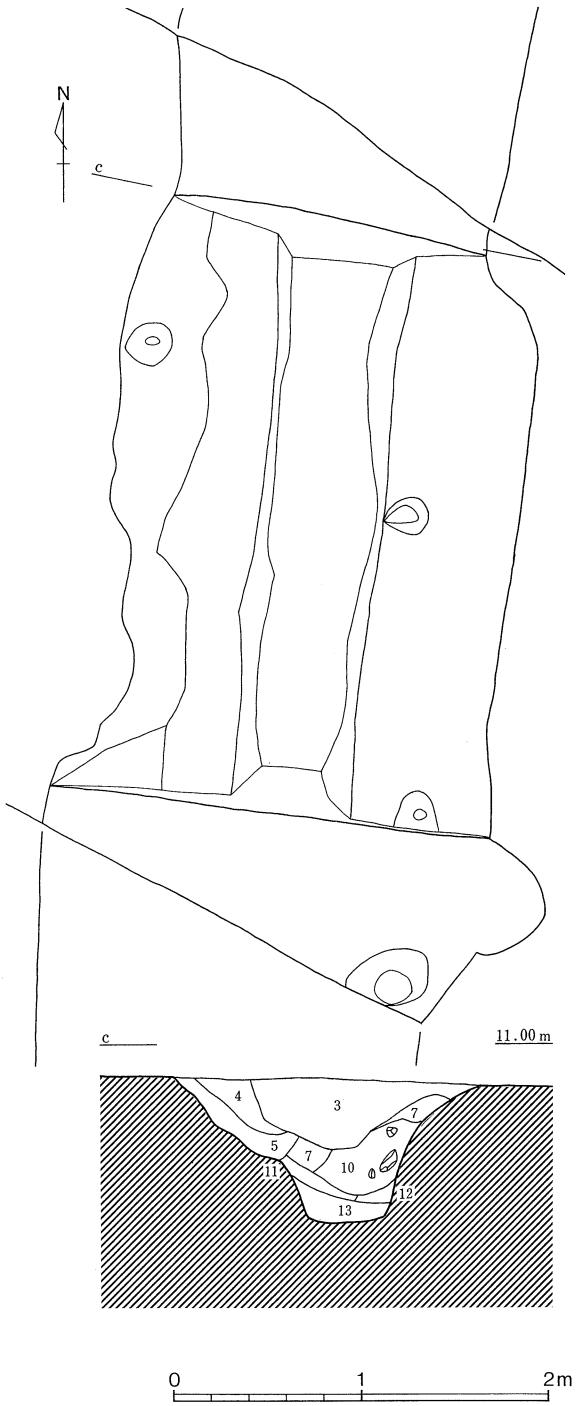
溝ＳＤ21

調査地区第２トレンチと第４トレンチの東側で検出された。検出状況や規模から考えて、一本の溝と判断した。やや弓状に折曲し北東～南方向に走る。検出面による確認では、規模は幅3.0～3.5mを計り、13.1mに亘り検出された。深さは未確認のため不明である。また、南側は第２トレンチ外に延びており、北東側は第４トレンチ外へ延びている。

溝ＳＤ22

調査地区第２トレンチの東側で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.9mを計り、2.2mに亘り検出された。深さは未確認のため不明である。また、南西側は調査地区

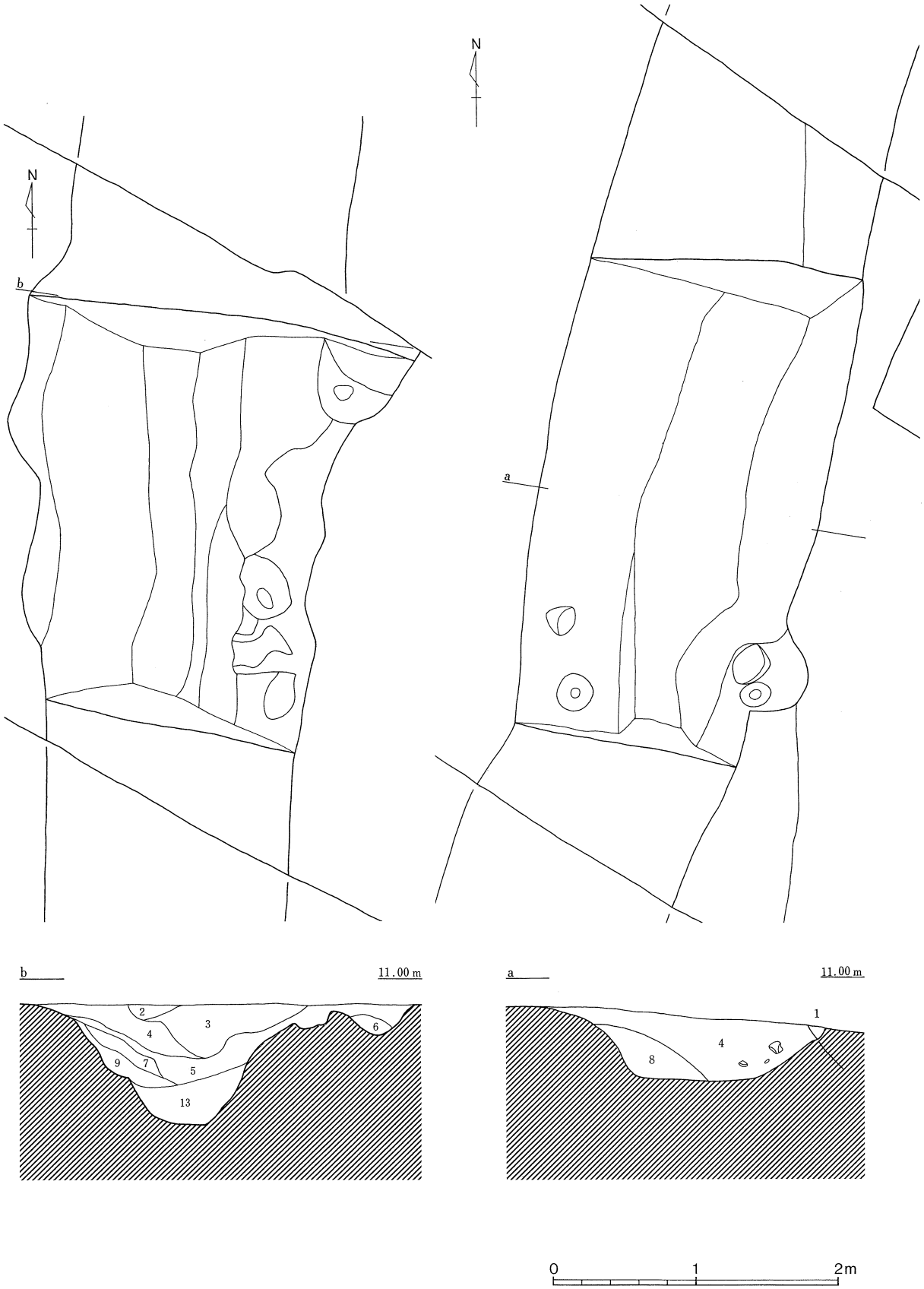




1．灰褐色砂質土、（ＳＤ18を切っている。）
2．明褐色砂。
3．暗褐色砂質粘質土。
4．暗褐色砂質土、炭化物粒含む。
5．暗灰色粘質土。
6．黄褐色砂質土、暗褐色砂質土、混在。
7．褐色砂質土
8．明褐色砂質土、炭化物粒含む。
9．黒褐色粘質土、地山ブロック混在。
10．黒褐色粘質土。
11．黒褐色粘質土、暗褐色砂質土混在。
12．黒褐色粘質土、地山ブロック混在。
13．黒褐色粘質土、地山ブロック混在、炭化物粒含む。

第16図　東木津遺跡月安地区溝ＳＤ18実測図［１］（１／200他）

左図－全体平面図実測図（１／200）
右図－第１トレンチ部分実測図（１／40）



第17図　東木津遺跡月安地区溝ＳＤ18実測図［２］（１／40）

左図－第２トレンチ部分実測図、右図－第４トレンチ部分実測図

外に延びていると思われ、東側ではＳＤ21に切られている。

溝ＳＤ23

調査地区第４トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.35～0.8mを計り、1.0mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、東側でＳＸ02に、西側でＳＤ24に切られていると思われる。

溝ＳＤ24

調査地区第４トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に南北方向に走る。検出面による確認では、規模は幅1.5mを計り、5.8mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、西側でＳＤ18を、東側でＳＤ23を切り、南側は第４トレンチ外に、北側は調査地区外に延びていると思われる。

溝ＳＤ25

調査地区第１トレンチの東側、第２トレンチ中央部、第４トレンチ西側で検出された。各トレンチで検出した溝が直線的にあるため、一本の溝とした。ほぼ直線的に南北方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.3～0.2mを計り、27.8mに亘り検出された。深さは未確認のため不明である。また、第１トレンチでは北西側でＳＤ26を切り、南側は調査地区外へ延びているものと思われる。

溝ＳＤ26

調査地区第１トレンチの東側で検出された。ほぼ直線的に南北方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4mを計り、1.7mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、南側でＳＤ25に切られ、北側は第１トレンチ外へ延びていると思われる。

溝ＳＤ27

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に南北方向に走り、北西側でＳＢ01に切られていると思われる。検出面による確認では、規模は幅0.5～0.7mを計り、3.0mに亘って検出された。 また、ＳＤ28の延長線上に位置することから、一本に繋がる可能性も考えられる。深さは未確認のため不明である。

溝ＳＤ28

調査地区第１トレンチの東側、第２トレンチの中央部で検出された。各トレンチで検出した溝が延長線上に位置する事や、検出した規模などから一本の溝であると判断した。北～南西方向に走る溝である。検出面による確認では、規模は幅0.9mを計り、13.1mに亘って検出された。 深さは未確認のため不明である。また、第１トレンチでは東側をＳＫ06に切られ、南側は調査地区外に延びていると思われる。出土遺物は、土師器、須恵器である。

溝ＳＤ29

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る溝である。検出面による確認では、規模は幅0.3mを計り、1.1mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、ＳＤ30・31と一本に繋がる可能性も考えられる。

溝ＳＤ30

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。やや弧を描き西北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.2～0.3mを計り、1.9mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。 また、ＳＤ29・31と一本に繋がる可能性がある。

溝ＳＤ31

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に西北西～東南東方向に走る。検出面による確

認では、規模は幅0.4mを計り、2.2mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、ＳＤ29・30と一本に繋がる可能性がある。

溝ＳＤ32

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に西北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.1～0.5mを計り、2.2mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。

溝ＳＤ33

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。やや弧を描き北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.3～0.5mを計り、2.6mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。 また、北西側でＳＫ25に切られている。

溝ＳＤ34

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4mを計り、1.1mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、中央部をＳＤ35に切られ、南西側は調査地区外に延びている。

溝ＳＤ35

調査地区第２トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.2mを計り、2.9mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、南東側でＳＤ34を切り、北西部でＳＫ26に切られている。

溝ＳＤ36

調査地区第１トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4mを計り、4.1mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、北東側は第１トレンチ外へ、南西側は調査地区外に延びている。出土遺物は、土師器である。

溝ＳＤ37

調査地区第１トレンチの中央部で検出された。ほぼ直線的に西北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.3mを計り、6.3mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、北側をＳＫ27とピットに、西側をＳＫ30に、さらに南側でピットに切られている。

溝ＳＤ38

調査地区第２トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.5mを計り、5.1mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、南側でＳＸ03に切られ、中央部でＳＤ42を切っている。

溝ＳＤ39

調査地区第２トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.3mを計り、1.7mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、東側でＳＸ03に切られている。

溝ＳＤ40

調査地区第１トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に西北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4mを計り、2.3mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、南東部でＳＫ29に切られている。

溝ＳＤ41

調査地区第１トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に西北西～東南東方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.5mを計り、1.4mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。また、北西側でＳＸ03に切られている。

溝ＳＤ42

調査地区第２トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る。検出面による確認では規模は幅0.2～0.6m以上を計り、2.7mに亘って検出された。 深さは未確認のため不明である。また、西側でＳＸ03に、南東側でＳＤ38に切られている。

溝ＳＤ43

調査地区第2トレンチ中央部で検出された。北東～南西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4mを計り、1.7mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。

溝ＳＤ44

調査地区第１トレンチ中央部で検出された。ほぼ直線的に北東～南西方向に走る。検出面による確認では規模は幅0.6～1.0mを計り、4.3mに亘り検出された。 深さは未確認のため不明である。また、北東側は第１トレンチ外、南西側は調査地区外に延びている。

溝ＳＤ45

調査地区第１トレンチ北西部で検出された。ほぼ直線的に北西～南東方向に走る。検出面による確認となったが、規模は幅0.7～2.1mを計り、5.9mに亘り検出された。 深さは未確認のため不明である。また、南東側で不定形をなし、北西側は第１トレンチ外に延びている。南側でＳＫ31と接する。出土遺物は、土師器、須恵器である。

溝ＳＤ46

調査地区第１トレンチ北西部で検出された。蛇行しながら北東～南東方向に走る。検出面による確認では規模は幅0.5～0.9mを計り、9.1mに亘って検出された。深さは未確認のため不明である。 また、南東端で柵址ＳＡ01に切られ、北東側は第１トレンチ外に延びている。北東側ではＳＫ37と接する。

溝ＳＤ47

調査地区第３トレンチ北西端で検出された。ほぼ直線的に東西方向に走る。検出面による確認では、規模は幅0.4～0.7mを計り、2.7mに亘って検出された。 深さは未確認のため不明である。また、東側、西側は調査地区外に延びている。

５．凹　　地

凹地ＳＸ01

調査地区第１トレンチ南東端（12・13，１・２）区で検出された。北東側、南東側や南西側は調査地区外に広がっていると思われる。上部をカクランが切っている。

凹地ＳＸ02

調査地区第４トレンチ南東部（13・14，６・７）区で検出された。南側は第４トレンチ外へ、北側は調査地区外に広がっている。ＳＤ21とＳＤ24にはさまれた落ち込みと思われる。また、ＳＤ21に切られ、ＳＤ23を切っている。

凹地ＳＸ03

調査地区第１トレンチ中央部、第２トレンチ中央部（６～９・５～８）区で検出された。各トレンチでの検出面の土質や位置から判断して、１つの凹地とした。第１トレンチ中央部から第２トレンチ中央部へと延び、第３～４トレンチの中間でＳＸ04につながるものと思われる。南側、北側は調査地区外へ延びていると思われる。また、ＳＤ38～42を切り、ＳＤ44、ＳＫ32、ピットに切られている。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器である。第２トレンチではサブトレンチを設定し、一部掘り下げた。図示した土器類は、図面３－2104・2110・2112、図面６－2153 である。

凹地ＳＸ04

調査地区第２トレンチ北西部、第３トレンチ中央部、第４トレンチ北西端（３～10，９～12）区で検出された。第２トレンチ、第３トレンチにかけて溝状にまたがり、第３トレンチと第４トレンチの中間でＳＸ03とつながる。南西側、北東側は調査地区外に延びていると思われる。また、第２トレンチでは、ＳＫ33を切っている。西側では、ＳＸ05に切られている。

凹地ＳＸ05

調査地区第１トレンチ北西端（１・２，８・９）区で検出された。第２トレンチの北西端でＳＸ04を切っており、南側は調査地区外に延びていることから、溝状の遺構である可能性がある。しかし、大体の規模が不明なため、今回は凹地とした。時期は近代以降のものと思われる。

Ⅲ 遺　　物

1．古墳時代の土器類

土師器

高杯　図面３－2101～2104。高杯の脚部である。2101・2102は欠損部分が多く全体的に摩滅しているが、一部外面に刷毛目が見られる。2103は外面にナデが施されている。2101～2103の内面にはそれぞれ絞り痕が見受けられる。2104は緩やかに下外方へ外反している。内面上半部に刷毛目、内面脚端部にナデが施されている。外面はナデが施され、一部に赤彩された痕跡が認められる。また、脚中央部に透し孔が穿たれているが対は不明である。

壺　図面３－2105～2108。2105は有段口縁の壺である。口縁部は外面に稜をなし外上方へ外反して開く。内外面共にヘラ磨きが施され、赤彩されている。外面口端部と口縁下部の稜には刻み目が施されている。口端部外面には弱い沈線が入る。2106は有段口縁の壺の口縁・頸部である。口端部が欠損している。口縁部内面は、摩滅しているため調整は不明である。外面にはナデが施されている。2107はくの字状に折れ外反する壺の口縁部である。2108は下方へ突出する形の壺の底部である。内外面とも刷毛目が付く。底面はヘラ削りの後ナデている。

器台　図面３－2109・2110。2109は器台の杯部である。内外面に赤彩が見られる。全体的に摩滅しており調整は不明である。2110は脚部の柱状部である。裾端部で外反する。外面にミガキが施されている。

甕　図面３－2111～2114。甕の口縁・胴上部付近の破片である。2111は外反した後、外方に端面を形成する口縁部である。2112は外反して外上方へ拡がる口縁部である。2113と2114とは形態的に類似している。丸い胴上部より口縁部はくの字状に折れて外上方へ拡がる。2113の胴上部は、内面がヘラ削り、外面がヘラ削りの後刷毛目である。2114の胴上部は、内面がナデ、外面がヘラ削りの後刷毛目である。

2．奈良・平安時代の土器類

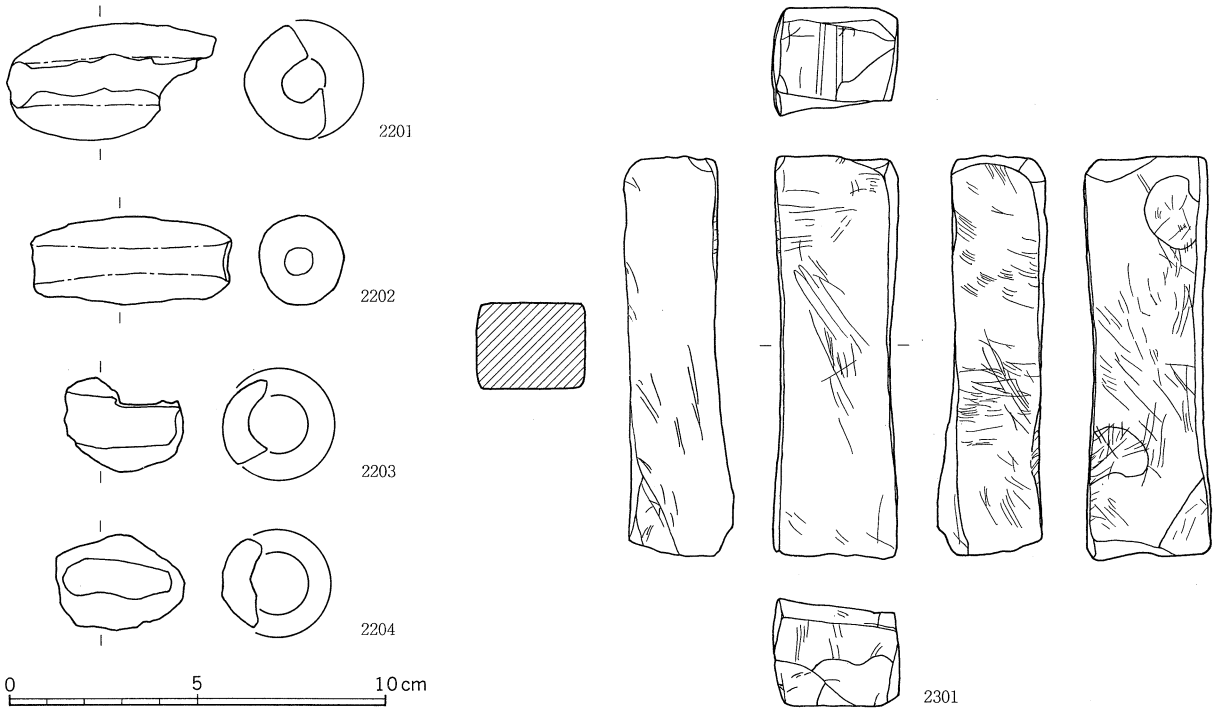
土師器

椀　図面４－2115～2118。2115～2117は底部が糸切りされている椀である。2118は高台付の椀で、底部外面は２次的に横ナデされている。2115は内面が黒色化、外面が赤彩されている。体下部外面は手持ちヘラ削りされている。

鍋　図面４－2119～2122。鍋の口縁部である。口縁部でくの字状に外反し、口縁部外面で面取りが施されている。2119は口端部で肥厚している。口端部外面に横ナデが施されている。2120は口端部で、つまみ上げが施されている。口縁部は内外面共に横ナデ、胴部外面にカキ目が施されている。2121は口端部が肥厚し、内外面共に横ナデ、胴部の内外面にはカキ目が付く。2122は、口端部で直上につまみ上げが施されている。内面、外面共に口端部に横ナデ、胴部にはカキ目が施されている。

須恵器

杯Ａ　図面５－2123～2137。無高台の杯である。2124・2126・2134・2136は、口端部でやや外反している。



第18図　東木津遺跡月安地区土製品・石製品実測図（１／２）

底部外面でヘラ切りが明確なのは、2127・2129・2136・2137であるが、すべてヘラ切りと思われる。

杯Ｂ　図面５－2138～2148。高台の付く杯である。2139は体部外面にヘラ記号が付く。

杯口縁部　図面６－2149・2150。口端部でやや外反している。底部が欠損しており、高台の有無は不明である。

杯蓋　図面６－2151～2174。つまみが付いているものは2151～2159で、ほとんどが扁平な宝珠のつまみである。2152は宝珠形、2158はボタン形である。2151は口縁部が欠損している。つまみが欠損しているものは2160～2174である。2171については意図的につまみ部分を打ち欠いた可能性がある。

壺　図面７－2175～2179。2175・2176は短頸壺の口縁部片、2177は壺の底部・高台部片、2178・2179は直口壺の口縁部片と考えられる。2177は内面に刷毛目が施されている。

甕口縁部　図面７－2180～2183。甕の口縁部片である。外上方へ緩やかな広がりを見せる。2180・2183の外面口端部には隆帯が見られる。2182は口端部で、外下方へかえりが付いている。

３．その他の遺物

土製品

土錘　第18図－2201～2204。土師質、柱状の土錘である。

石製品

砥石　第18図－2301。珪質凝灰岩製である。４つの側面はすべて使用面で、両端面は整形面となっている。

Ⅳ 結　　語

今回の調査では、トレンチ（試掘坑）内の範囲に終わったため、その全容は確認できなかったが、可能な限り拡張し遺構の検出に努めた。また、検出遺構については一部を除き、検出面での規模でしか把握していないので、今後の検討が必要である。

古墳時代前期の遺構と遺物

古墳時代前期の遺構としては、凹地ＳＸ03がある。確認した範囲では大まかな規模しかわからないため、今後他の遺構として検討し直す必要がある。この遺構を中心にこの時期の土器が出土しており、複数の器種が見られる。出土遺物は、時代幅があるが、大概、古墳時代前期に含まれると思われる。調査地区内で主体となる時期ではないが、周辺を含めこの時期の遺構が存在する可能性がある。

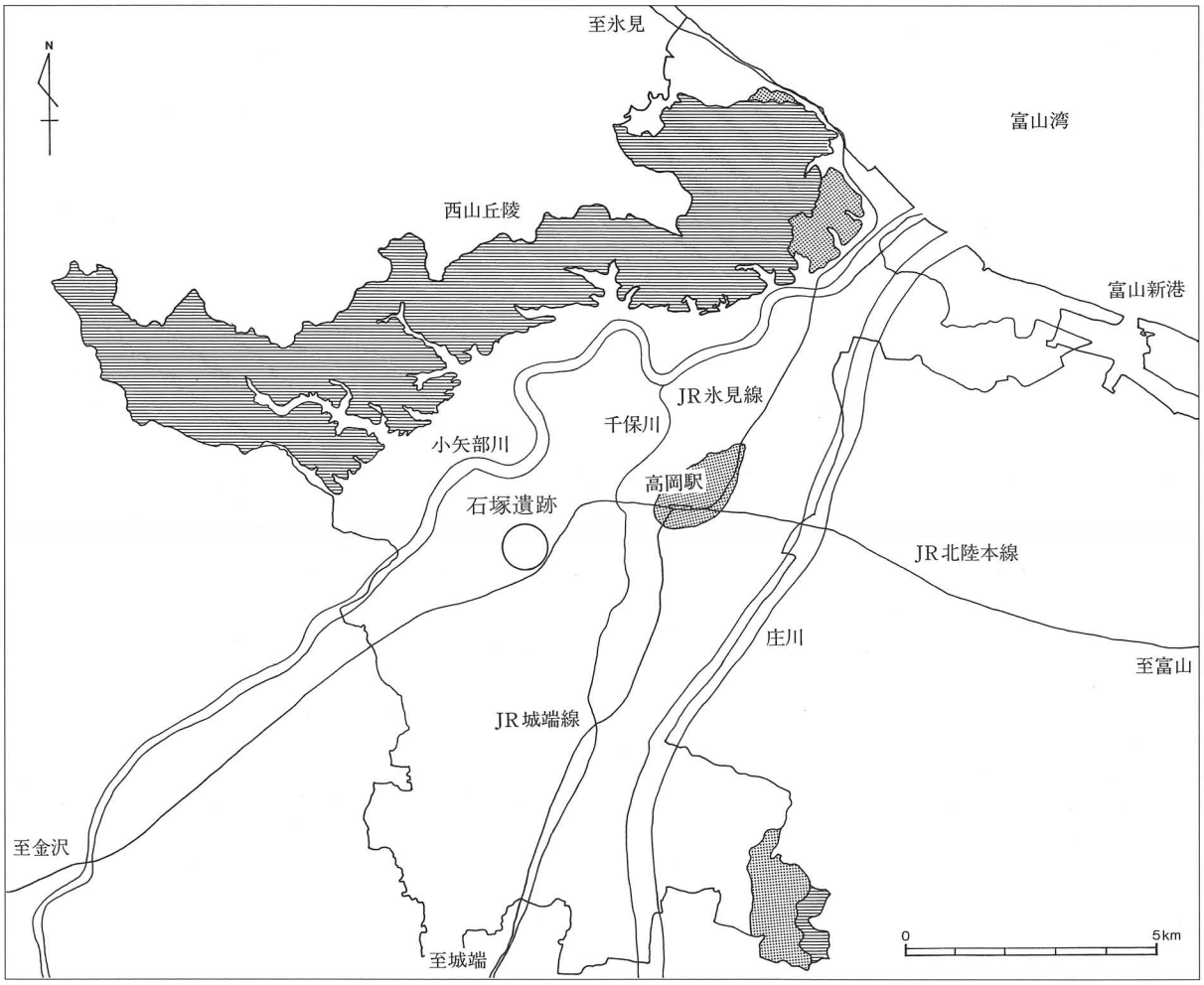
奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構としては、掘立柱建物址１棟、柵址３条、土坑、溝などがある。掘立柱建物址ＳＢ01は、棟の方向が、ほぼ北西～南東方向を向き、柵址ＳＡ01～03の並びもほぼ同方向を向いていることから、同時期の遺構として関連性があると思われる。今回実施された調査で発掘が行われた遺構は、溝ＳＤ18のみであるが、限られた区域の一部分であり、まだ溝の全容を把握するまでには至っていない。この溝の西側では平行して走る溝ＳＤ25・ＳＤ28も検出されている。これらの遺構はほぼ南北方向に沿って直線的に作られており、何らかの区画する溝とも考えられる。また、第１トレンチの西端部では柵址ＳＡ01～03と、北側の比較的近い位置で、ほぼ平行して走る溝ＳＤ45・46が検出されている。これらの溝が、掘立柱建物址や柵址と関係する遺構と考えるならば、この地区周辺に、奈良・平安時代の集落が広範囲に存在する可能性も考えられる。出土遺物として、土師器、須恵器が多数出土している。時期としては遺物の大半が８世紀から９世紀にかけて集中しており、今回の調査地区の主要な時期と思われる。

中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構としては、溝ＳＤ20と凹地ＳＸ05である。今回は掘り下げた遺構が少ないため、実際はもっと多い可能性がある。出土遺物は、中世・近世のものが前の時代に比べ極端に少なく、珠洲、近世陶磁器がわずかに見られる。

3．石塚遺跡、福島地区



第19図　石塚遺跡位置図〔1〕（1／15万）

石塚遺跡福島地区、目次

Ⅰ 序　　説 …… 41

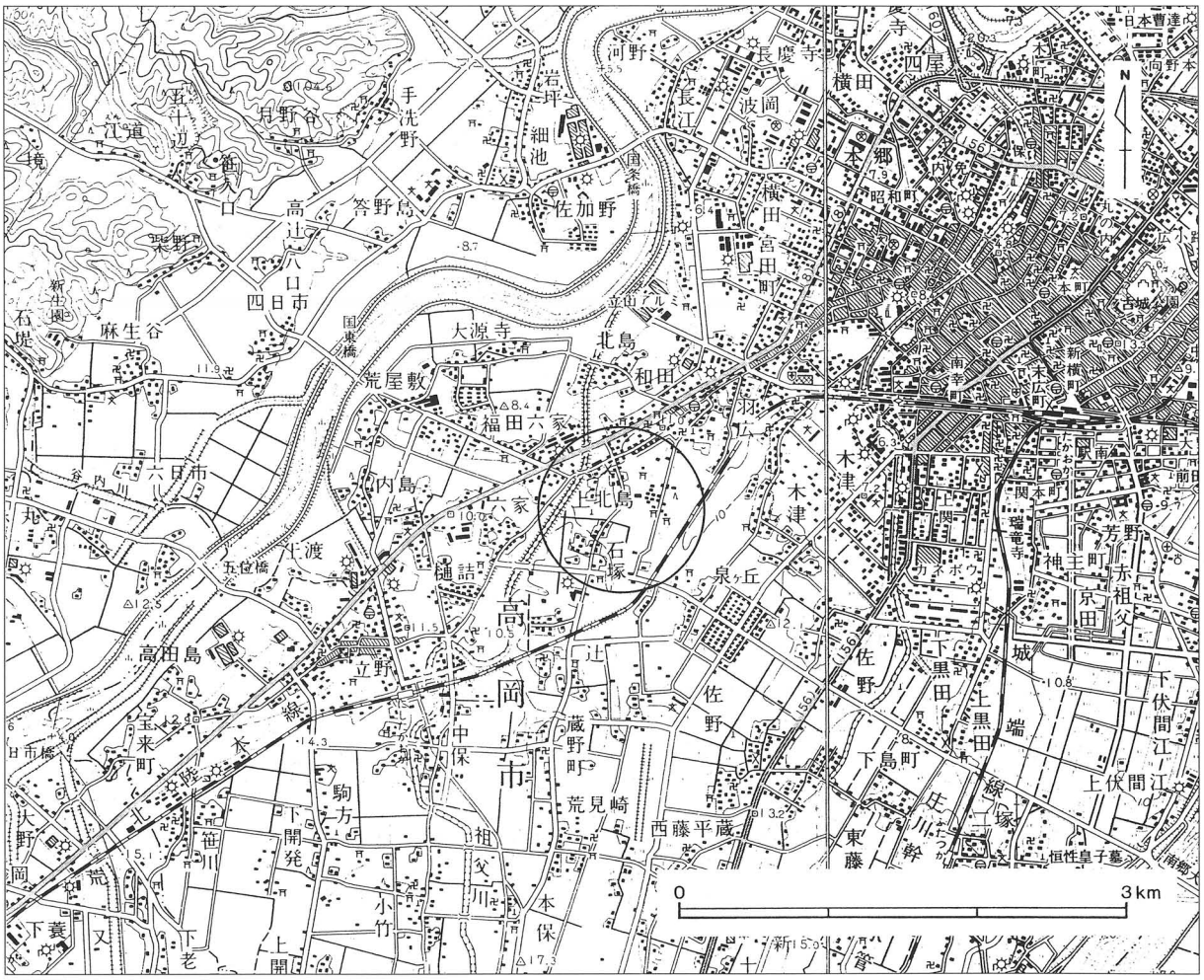
Ⅱ 遺　　構 …… 43

1．土坑 …… 43

2．溝 …… 44

Ⅲ 遺　　物 …… 45

Ⅳ 結　　語 …… 46



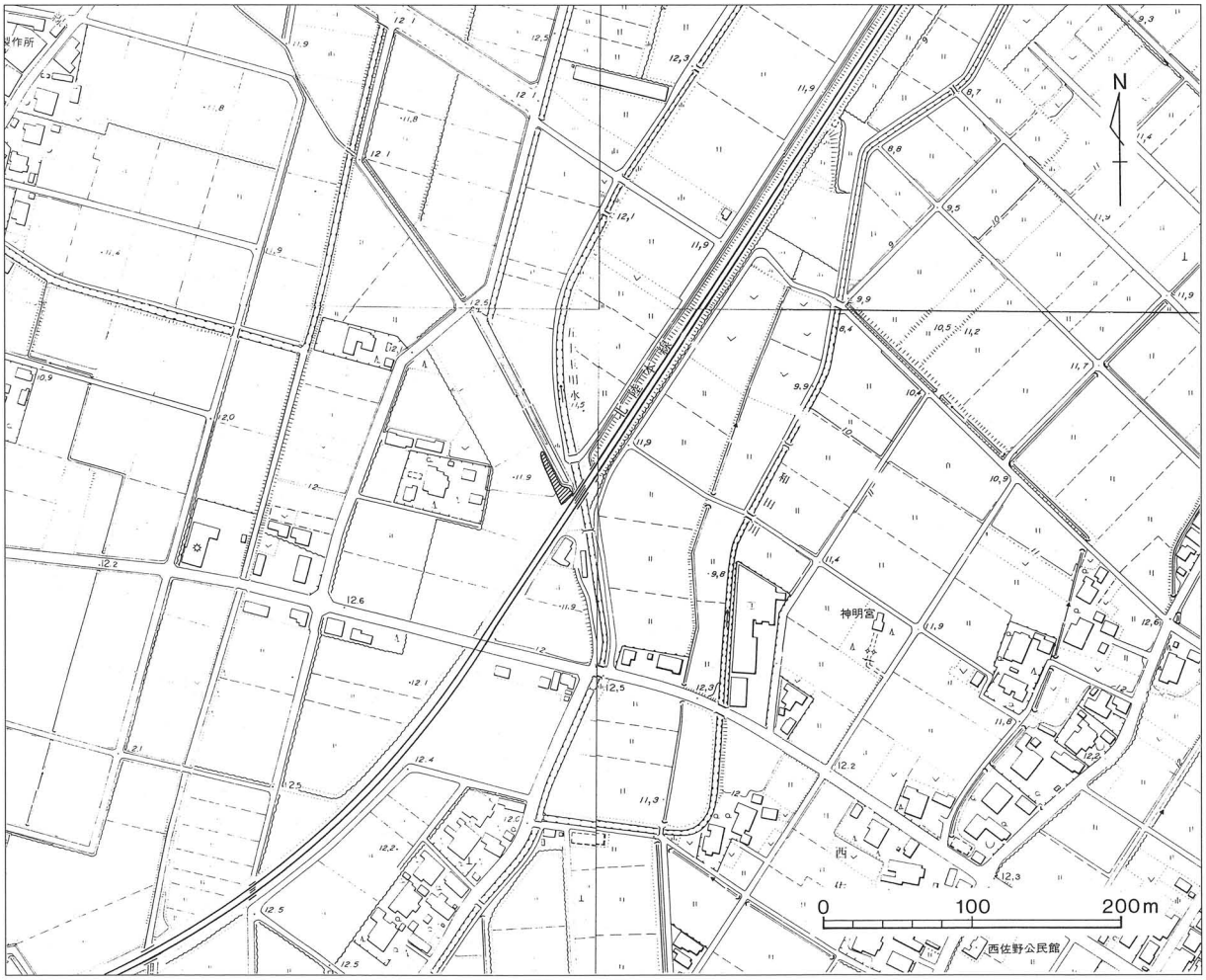
第20図　石塚遺跡位置図〔2〕（1／5万）

Ⅰ 序　説

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西側約3.0km、ＪＲ西高岡駅の北東側約1.8kmの地点に位置する。高岡駅と西高岡駅を北東～南西方向に結ぶＪＲ北陸本線が当遺跡の東端部であり、ＪＲ北陸本線の東側には和田川が北流している。西端部には、蛇行しながら北流する祖父川がある。これらに挟まれた標高11～12mの微高地に当遺跡は立地している。この付近は、往古の庄川が形成した扇状地の末端部に当たる。和田川、祖父川とも扇状地特有の涌水を水源とする河川である。

遺跡の範囲は、南北600m×東西470mを計り、当地域では最大規模の遺跡である。当遺跡では、縄文後期～晩期の遺物包含層が確認できる地点があり、その後、弥生時代中期、弥生時代末～古墳時代中期、奈良～平安時代、中世の遺構・遺物が確認されている。長期間に亘る複合遺跡、集落跡である。特に弥生時代中期の遺跡・遺物は遺跡推定範囲の全域より確認されると共に内容的にも豊かである。県西部地域において初期農耕文化が初めて定着した集落遺跡であると共に中核的集落であったと評価し得よう。



第21図　石塚遺跡福島地区位置図（１／5,000）

調査に至る経緯

平成10年10月、市農業委員会からの照会で、当該地の農地転用と堆肥舎の建設計画を知った。施主の福島行雄氏と協議した結果、承諾を得て、同年11月より本調査を実施することとなった。調査地区は、ＪＲ北陸本線の石名瀬踏切の北東側に位置する。調査地区の南西側に隣接して五十玉用水が流れ、東側横をＪＲ北陸本線が北東から南西方向に走る。この２つが交差する箇所に当たる。当遺跡が立地する微高地の東側縁辺部に位置している。

調査経過

調査期間は、平成10年11月９日から12月17日までである。当初、試掘調査として実施したが、可能な範囲で調査地区を設定し、本調査として調査を進めた。調査地区北側では旧用水路にあたり、地山面を含め掘削を受けていた。また、南東側もカクランにより破壊されていたため、これらの部分を排土地とし、残った範囲で遺構の確認に努めた。機械による表土掘削後、土砂は場内に積み上げた。その後、遺物包含層や遺構の確認、掘り下げ、記録の作成を順次行った。その際、包含層検出面で遺構が確認でき、これらを上層遺構とした。さらに包含層掘削後に地山検出面で新たに遺構を確認した。遺構図は、上層遺構として第22図（Ａ）とし、別に完掘状態として第22図（Ｂ）を図示した。また、調査着手が天候不順な時期と重なったため、作業可能な日数が少なく、予定より期間を延ばさざるを得なかった。

調査対象面積は315㎡で、発掘を実施したのは105㎡である。

基本層序

厚さ20cm前後の表土（耕作土）の下層に、厚さ10～20cmの黒褐色粘質土からなる遺物包含層がある。この下に灰白色粘質土からなる地山が現れる。調査地区の南西側では、地山面まで及ぶ近年のカクランがあった。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

土坑８基（ＳＫ151～158）

溝３条（ＳＤ57～59）

この他、ピットが３基検出された。

出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器類：弥生土器、土師器、須恵器

グリッド

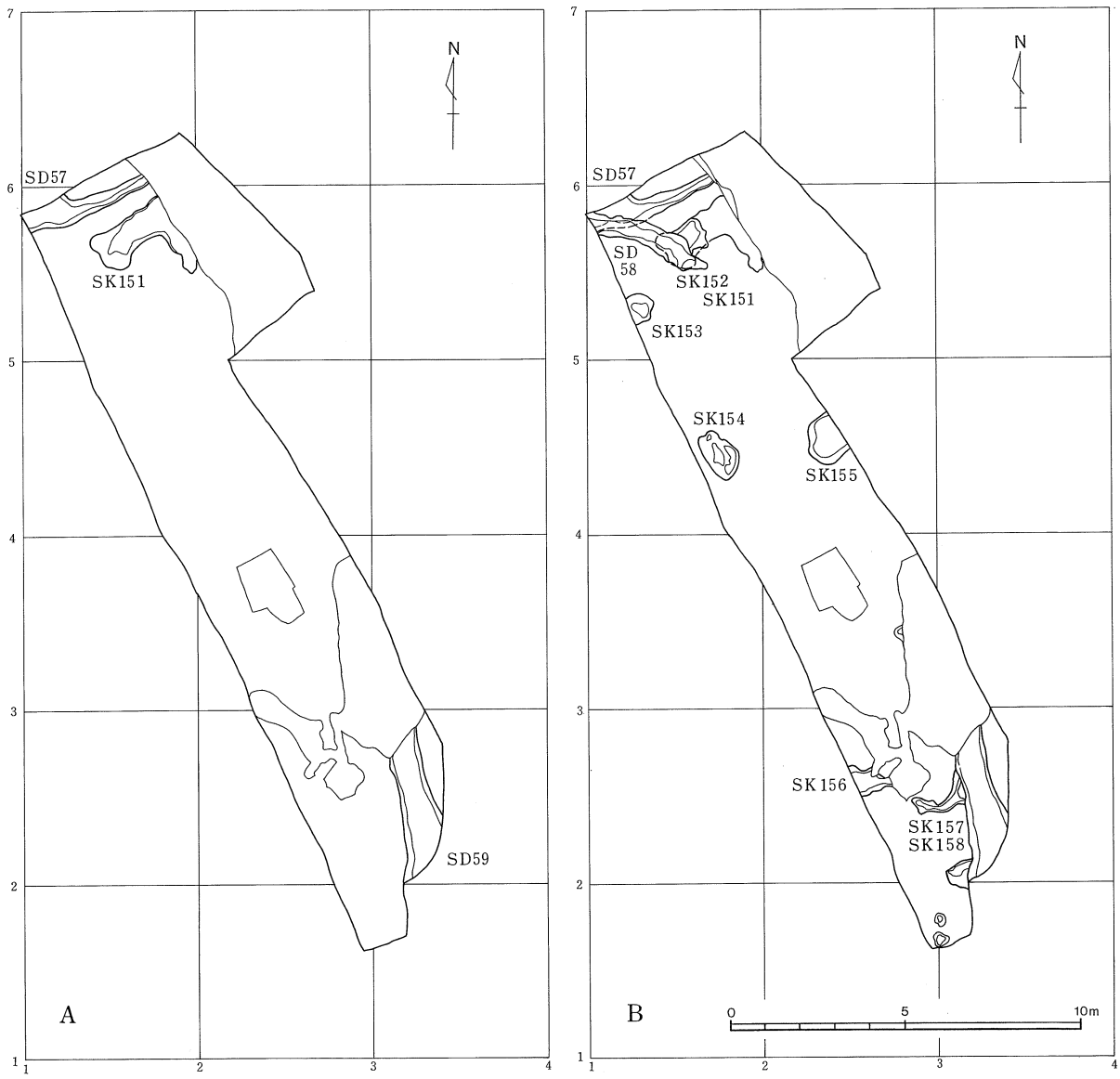
調査地区のグリッドは平面直角座標系の第７座標系（原点は北緯36°00′00″・東経137°10′00″）に合わせた。Ｘ＝１、Ｙ＝1 の地点は、原点より西へ16.037km、北へ80.875kmの位置である。遺構図のメッシュは５ｍ区画のものを使用した。

Ⅱ 遺　構

1. 土　坑

土坑ＳＫ151

調査地区の北西側（１，５）区で検出された。平面形は不定形である。遺物包含層を掘り込んでおり、遺構覆土もほかと異なる赤褐色土であることから、包含層の上層遺構とした。規模は長軸2.28m、短軸1.34m、深さ17cmを計る。北東側は旧用水部分に切られている。出土遺物は土師器、須恵器である。



第22図　石塚遺跡福島地区遺構図（１／200）

Ａ－上層遺構図、Ｂ－完掘状態遺構図

土坑ＳＫ152

調査地区の北西側（１，５）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.98ｍ、短軸0.62ｍ、深さ25cmを計る。ＳＤ58に切られる。出土遺物は弥生土器で、図示した遺物は図面８－3103・3108である。

土坑ＳＫ153

調査地区の北西側（１，５）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸0.80ｍ、短軸0.68ｍ、深さ８cmを計る。西側部分は調査地区外に延びる。出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ154

調査地区の北西側（１，４）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.22ｍ、短軸0.74ｍ、深さ21cmを計る。出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ155

調査地区の北西側（２，４）区で検出された。平面形は楕円形である。規模は長軸1.36ｍ、短軸1.00ｍ、深さ６cmを計る。出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ156

調査地区の南東側（２，２）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.90ｍ、短軸0.96ｍ、深さ21cmを計る。西側は調査地区外に延び、東側はカクランに切られる。出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ157

調査地区の南東側（２・３，２）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸1.60ｍ、短軸1.08ｍ、深さ20cmを計る。東側はＳＤ59に切られる。出土遺物はなかった。

土坑ＳＫ158

調査地区の南東側（３，１・２）区で検出された。平面形は不定形である。規模は長軸0.90ｍ、短軸0.96ｍ、深さ21cmを計る。東側はＳＤ59に切られる。出土遺物はなかった。

２．溝

溝ＳＤ57

調査地区の北西端部で検出された。西～北東に向かって走る溝で、西側で北方向に湾曲して調査地区外へ延びているものと思われる。この溝は包含層を掘り込み、北東側で旧用水部分に切られている。今回は遺物包含層より上層の遺構として考えている。規模は幅0.30～0.60ｍ、深さ37cmを計る。3.00ｍに亘り検出され、北西側、北東側に延びている。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器である。

溝ＳＤ58

調査地区の北西端部で検出された。西北西～南東方向に走る溝である。規模は幅0.54～0.88ｍ、深さ26cmを計る。3.70ｍに亘り検出された。北西側は調査地区外へ延びている。上層にはＳＤ57があり、遺物包含層の下より検出された。ＳＫ152を切っている。出土遺物は弥生土器である。

溝ＳＤ59

調査地区の南東端部で検出された。南～北方向に走る溝である。規模は幅0.78～1.10ｍ、深さ24cmを計る。4.50ｍに亘り検出された。南側、北側共にカクランに切られている。北西側はわずかに溝の肩部を確認した。西側でＳＫ157、ＳＫ158を切っている。出土遺物は弥生土器である。

Ⅲ　遺　　物

弥生土器

高杯　図面８－3101。高杯の柱状部である。全体が摩滅しており、調整は不明である。

壺　図面８－3102～3106。3102は有段口縁の壺である。上部を欠損している。胴部の形状が不明で、小型の高杯の杯部の可能性もあるが、一応壺としておく。3103は壺の胴部で、外面に突帯が付く。突帯部外面に擬凹線が付く。上部、下部が欠損しており、全体の器形は不明であるが、台付き壺とした。3104は有段口縁の壺の口縁部で、外上方に外反している。内外面とも赤彩されている。3105は大型の長頸壺の口縁部と思われる。上部が欠損しているが、緩やかに外反するものと思われる。調整は内外面とも刷毛目である。3106は壺の底部である。外面の調整は刷毛目である。

器台　図面８－3107。器台脚部の末端部である。全体の器形は不明であるが器台とした。内面の調整は刷毛目が付き、外面はナデである。

甕　図面８－3108・3109。甕の口縁部である。有段口縁の上部と思われる。口縁部外面に擬凹線が付く。

Ⅳ 結　　語

今回の調査地区は、石塚遺跡の東端部にあたり、遺跡のある微高地の縁辺部に位置している。平成５年度に実施した隣接地の調査では、弥生時代から古墳時代の遺物が出土し、方形周溝墓、掘立柱建物址等の遺構が検出されている。これらの調査結果を踏まえ、遺構、遺物の確認に努めた。

今回は調査地区の規模が小さく、調査地区の北東側が旧用水路により破壊されていたため、確認できた範囲は少なかった。南西側については、一部カクランがあった他は、盛り土や削平の跡はなく、表土下に黒褐色土層（弥生時代の遺物包含層）が良好に残っていることがわかった。

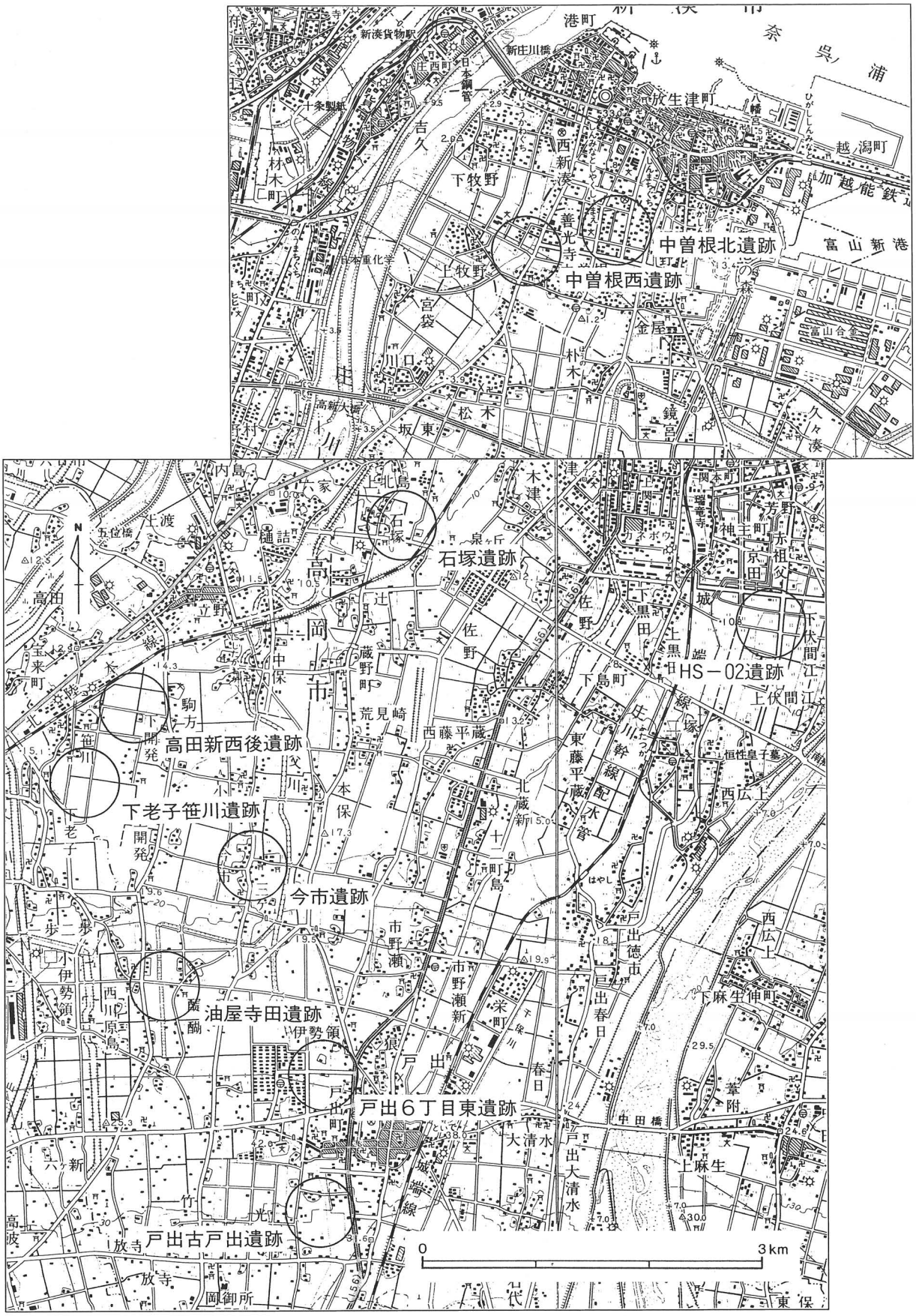
検出された遺構は、いずれも詳しい性格は不明である。 包含層の上層で確認された土坑ＳＫ151、溝ＳＤ57は、須恵器が出土し、これらの遺構が弥生時代の遺物包含層を切っていることから、奈良・平安時代以降のものと考えている。また、地山検出面のレベルで確認した他の遺構は、出土遺物や覆土の状況から、弥生時代に属するものと思われる。出土遺物は、弥生土器が最も多く出土している。いずれも細片のため、時期の明確にわかる資料は少ないが、弥生時代後期のものと思われる。この他は須恵器が少量出土しただけで主体となる時期とはならない。

調査地区の南西側一帯は区画整理の影響は受けておらず、遺物包含層の状況から見て、遺構、遺物が良好に残っていると思われる。また、包含層の堆積状況や遺構の検出状況から、ＪＲ北陸本線の東側まで遺跡の範囲が拡がると思われる。

4．試掘調査地区

試掘調査地区、目次

Ⅰ．油屋寺田遺跡、南郷病院地区 …… 49
Ⅱ．石塚遺跡、大田地区 …… 50
Ⅲ．今市遺跡、柴地区 …… 51
Ⅳ．今市遺跡、小勢７号線地区 …… 52
Ⅴ．下老子笹川遺跡、立野１号線地区 …… 53
Ⅵ．中曽根西遺跡、向田地区 …… 54
Ⅶ．高田新西後遺跡、立野５号線地区 …… 55
Ⅷ．中曽根北遺跡、チューリップ調剤地区 …… 56
Ⅸ．戸出６丁目東遺跡、北陸セルラー地区 …… 57
Ⅹ．戸出古戸出遺跡、是戸28号線地区 …… 58
Ⅺ．ＨＳ－02遺跡、各調査地区 …… 59



第23図　試掘調査地区関係遺跡位置図（1／5万）

Ⅰ　油屋寺田遺跡、南郷病院地区

遺跡概観

当「油屋寺田遺跡」は、高岡市街地の南西方、ＪＲ高岡駅より南西約7.5kmに位置する。戸出後生寺地区の南西側、戸出須田地区の南東側である。東側約４kmを北流する庄川の形成した扇状地に位置する。

基本層序

厚さ20～30cmの表土下に、黄褐色砂質土、青灰色砂からなる基盤層が現れる。

調査概要

所在地：高岡市醍醐610－１、　対象面積：18,836㎡、　発掘面積：1,496㎡

調査期間：平成10年４月７日～18日、　調査原因：病院建設

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第24図　油屋寺田遺跡南郷病院地区位置図（１／5,000）

Ⅱ　石塚遺跡、大田地区

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅より南西約3.0kmに位置する。遺跡の西側には祖父川が、東側には和田川が流れる。当遺跡は、これらに挟まれた標高11～12mの微高地上に位置している。

基本層序

厚さ約20cmの表土下に、厚さ10cmの灰黄褐色粘土層が現れ、整地層と思われる。この下層には厚さ20cmで灰褐色粘質土の層があり、褐色シルトの基盤層に至る。

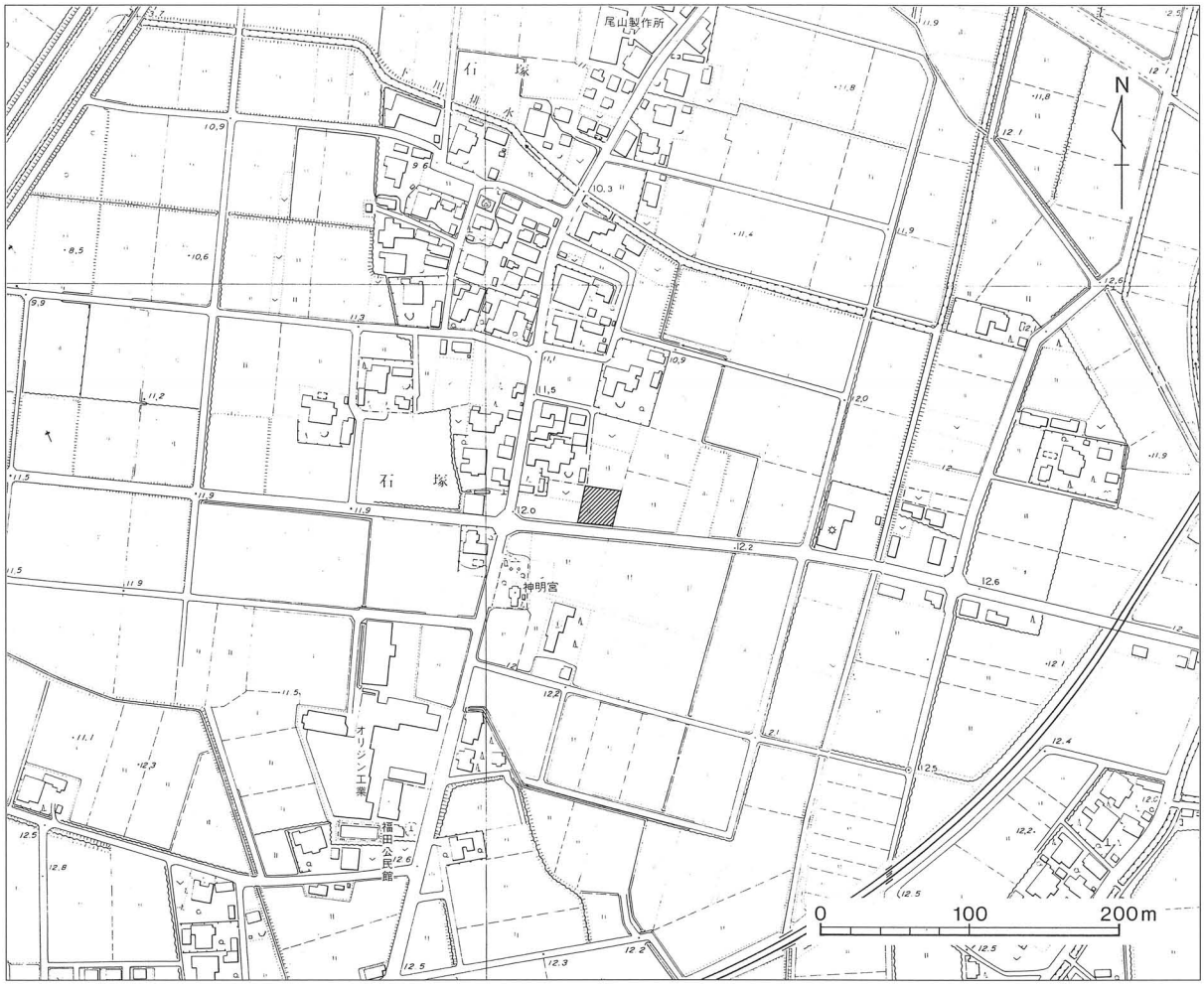
調査概要

所在地：高岡市石塚170-１、　対象面積：500㎡、　発掘面積：71㎡

調査期間：平成10年４月10日、　調査原因：個人住宅建設

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第25図　石塚遺跡大田地区位置図（１／5,000）

Ⅲ　今市遺跡、柴地区

遺跡概観

当「今市遺跡」は、高岡市街地の南西方、ＪＲ高岡駅より南西約６㎞に位置する。東側約400ｍを祖父川が流れる。今市集落の北西側一帯に広がっている。標高約14ｍを計る扇状地上に位置している。

基本層序

厚さ20㎝前後の表土下に、黄褐色砂質土からなる基盤層が現れる。

調査概要

所在地：高岡市今市72番地、　対象面積：699㎡、　発掘面積：119㎡

調査期間：平成10年４月16日～17日、　調査原因：個人住宅建設

調査の結果

溝４条、埋没谷１箇所が検出された。弥生土器、土師器、須恵器、珠洲が出土している。

第26図　今市遺跡柴地区位置図（１／5,000）

Ⅳ　今市遺跡、小勢７号線地区

遺跡概観

当「今市遺跡」は、高岡市街地の南西方、ＪＲ高岡駅より南西約６kmに位置する。東側約400ｍを祖父川が流れる。今市集落の北西側一帯に広がっている。標高約14ｍを計る扇状地上に位置している。

基本層序

厚さ20cm前後の表土下に、黄褐色砂質土、青灰色砂からなる基盤層が現れる。今市集落の周辺では、この厚さ20cmの黄褐色砂質土の下に、厚さ５～20cmの黒褐色粘質土からなる土層が現れ、再び基盤層に至る。

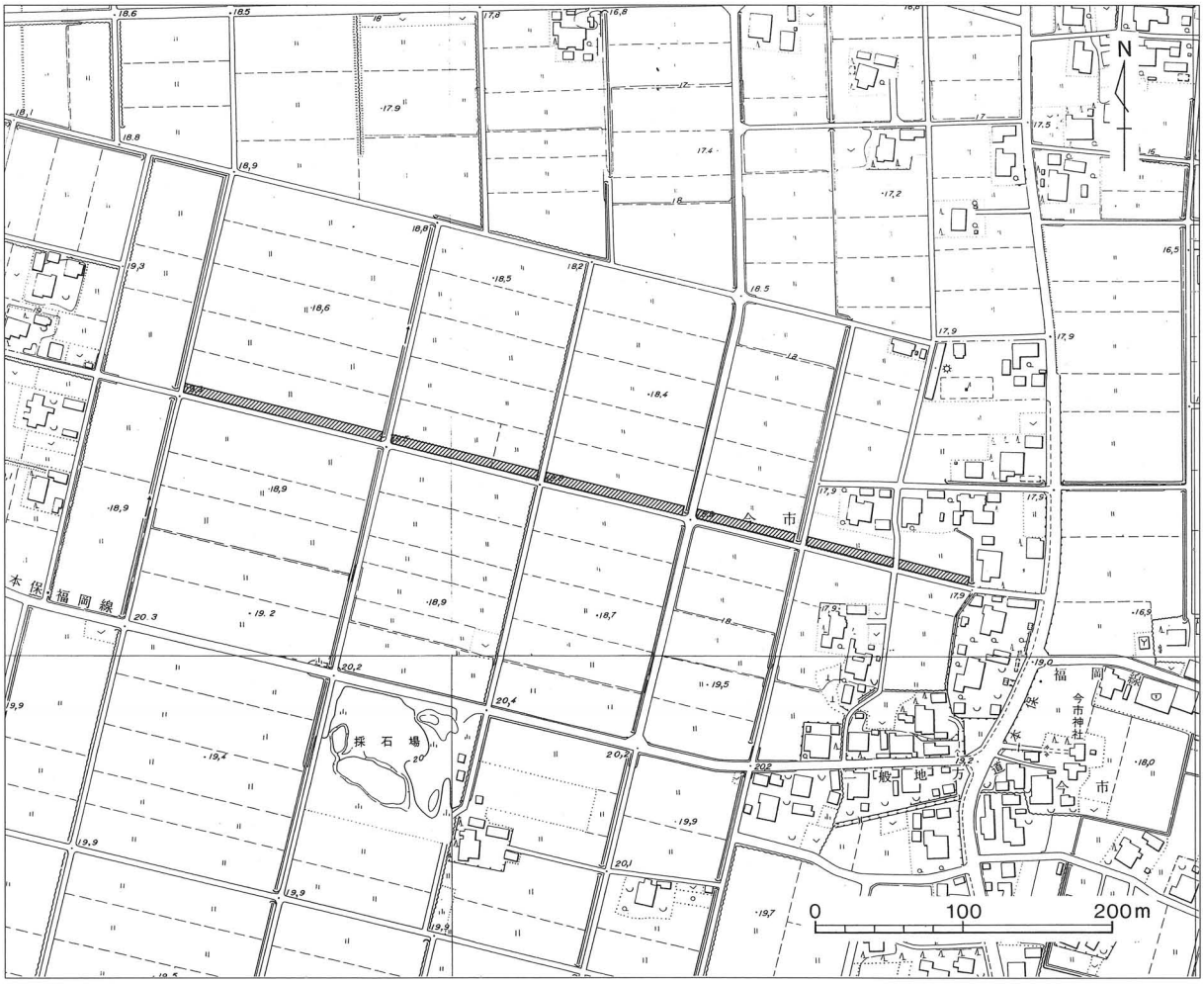
調査概要

所在地：高岡市今市74番地、　対象面積：2,800㎡、　発掘面積：919㎡

調査期間：平成10年４月17日～30日、　調査原因：農道改修工事

調査の結果

土坑２基、溝２条、埋没谷２箇所が検出された。弥生土器、土師器、須恵器、珠洲が出土している。



第27図　今市遺跡小勢７号線地区位置図（１／5,000）

Ⅴ　下老子笹川遺跡、立野１号線地区

遺跡概観

当「下老子笹川遺跡」は、高岡市街地の南東方、ＪＲ高岡駅より南東約６kmに位置する。遺跡北側をＪＲ北陸本線が、北側約500ｍを国道８号線が北東～南西方向に走る。笹川集落の東側～南東側一帯に広がっている。標高約14ｍを計る微高地上に位置している。

基本層序

厚さ20～30cmの表土下に、黒褐色土があり、その下は基盤層となる。

調査概要

所在地：高岡市笹川313-3、　対象面積：5,200㎡、　発掘面積：1,012㎡

調査期間：平成10年５月７日～６月22日、　調査原因：農道、用水路の改修工事

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第28図　下老子笹川遺跡立野１号線地区位置図（１／5,000）

Ⅵ　中曽根西遺跡、向田地区

遺跡概観

当「中曽根西遺跡」は、高岡市街地の北東方、ＪＲ高岡駅より北東約５kmに位置する。北西側約1.5kmを庄川が流れる。中曽根集落の西側から主要地方道新湊庄川線沿いの一帯に広がっている。標高約１～２ｍを計る、旧放生津潟（富山新港）に面する沖積低地に位置する。

基本層序

厚さ20cmの表土下に、青灰色粘質土からなる基盤層が現れる。

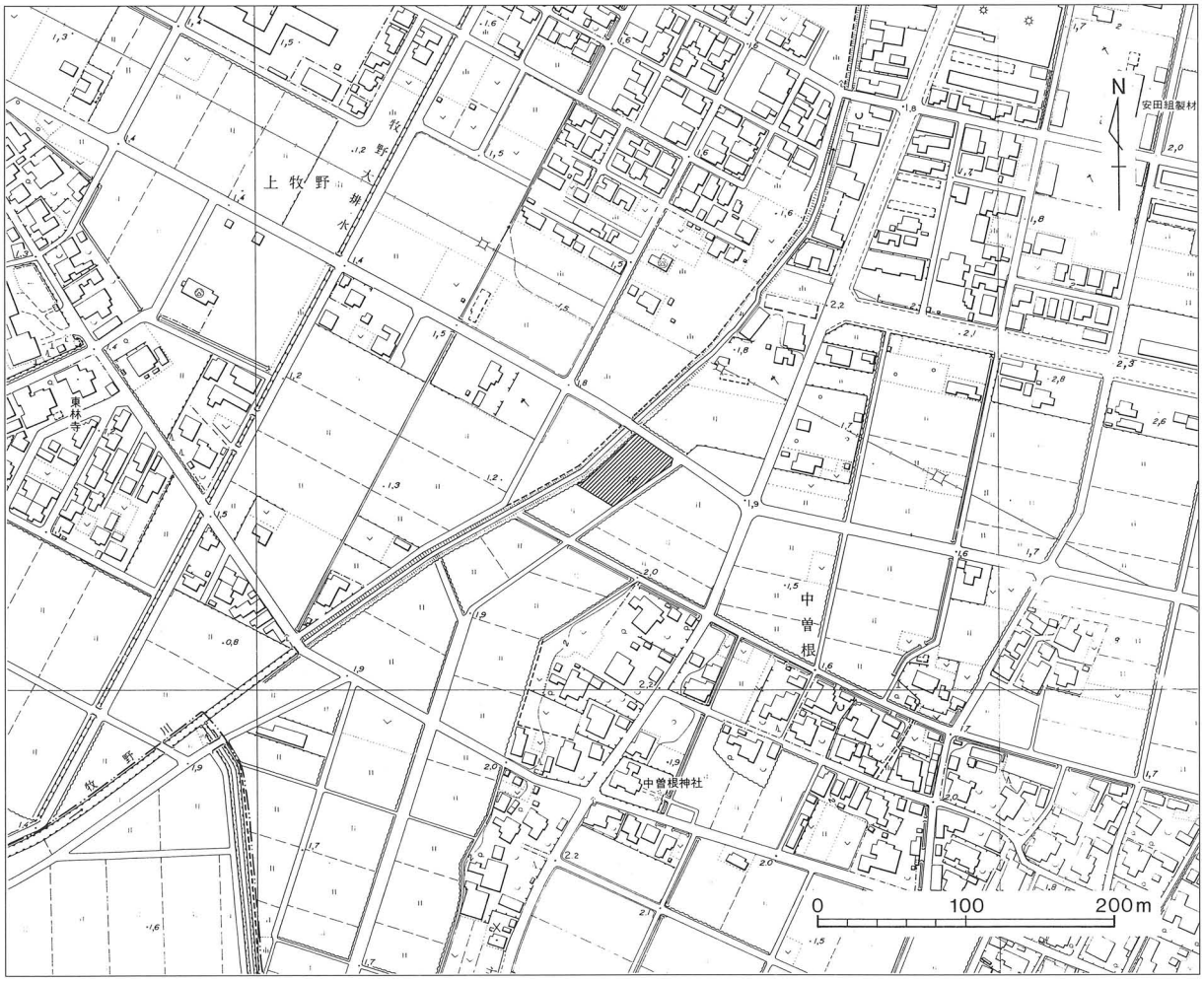
調査概要

所在地：高岡市中曽根538番地１、　対象面積：1,467㎡、　発掘面積：268㎡

調査期間：平成10年６月１日～２日、　調査原因：個人住宅建設

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第29図　中曽根西遺跡向田地区位置図（１／5,000）

Ⅶ　高田新西後遺跡、立野５号線地区

遺跡概観

当「高田新西後遺跡」は、高岡市街地の南東方、ＪＲ高岡駅より南西約６㎞に位置する。北側をＪＲ北陸本線、国道８号線が北東～南西方向へ走る。下老子笹川遺跡の北側に隣接している。標高約14ｍを計る扇状地末端の微高地上に位置している。

基本層序

厚さ20～30㎝の表土下に、黒褐色土があり、その下は基盤層となる。

調査概要

所在地：高岡市千鳥丘町31-3、　対象面積：1,200㎡、　発掘面積：12㎡

調査期間：平成10年６月22日、　調査原因：農道、用水路の改修工事

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第30図　高田新西後遺跡立野５号線地区位置図（１／5,000）

Ⅷ　中曽根北遺跡、チューリップ調剤地区

遺跡概観

当「中曽根北遺跡」は、高岡市街地の北東方、ＪＲ高岡駅より北東約６㎞に位置する。牧野小学校の東側一帯に広がる。北側は新湊市の市境と接し、標高約１～２ｍを計る。

基本層序

厚さ20～30㎝の表土下に、厚さ30～40㎝の黒褐色粘質土が堆積し、元来湿地帯であった土層と思われる。この下層から青灰色粘質土からなる基盤層が現れる。

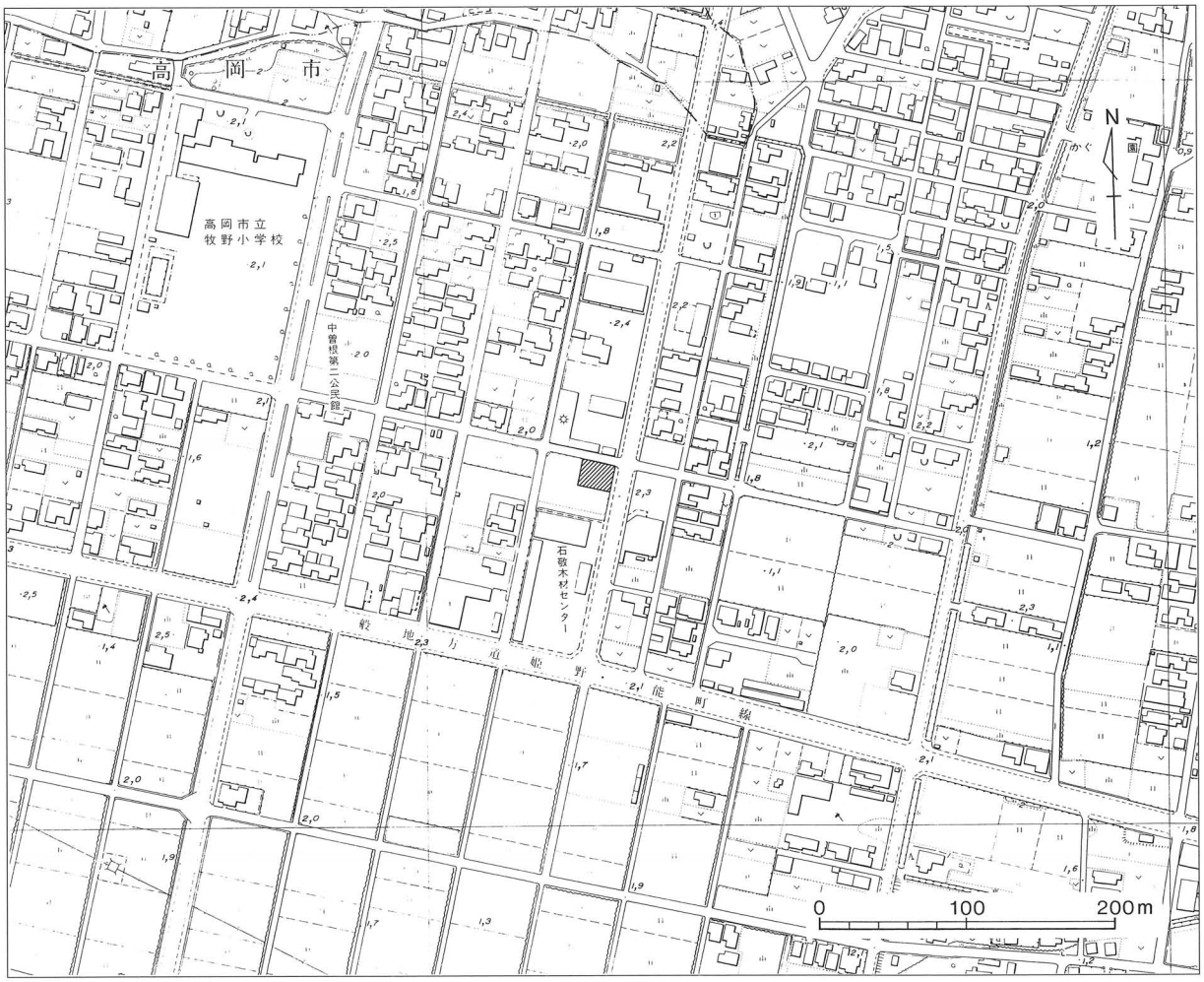
調査概要

所在地：高岡市中曽根120-1、　対象面積：331㎡、　発掘面積：66㎡

調査期間：平成10年７月14日、　調査原因：店舗建設

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第31図　中曽根北遺跡チューリップ調剤地区位置図（１／5,000）

Ⅸ　戸出６丁目東遺跡、北陸セルラー地区

遺跡概観

当「戸出６丁目東遺跡」は、高岡市街地の南東方、ＪＲ高岡駅より南東約７kmに位置する。西側に戸出６丁目団地が隣接し、東側を国道156号線が南北に走る。砺波平野の北部にあたり、標高22～23ｍを計る庄川の形成した扇状地上に位置している。

基本層序

厚さ20cmの表土下に、灰褐色、黒褐色粘質土が堆積する。この下層は、黄褐色砂質土の基盤層である。

調査概要

所在地：高岡市伊勢領240番２、　対象面積：350㎡、　発掘面積：22㎡

調査期間：平成10年７月27日～28日、　調査原因：無線電気通信のための中継施設建設

調査の結果

遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第32図　戸出６丁目東遺跡北陸セルラー地区位置図（１／5,000）

Ⅹ　戸出古戸出遺跡、是戸28号線地区

遺跡概観

当「戸出古戸出遺跡」は、高岡市街地の南東方、ＪＲ高岡駅より南東約８kmに位置する。戸出市街地の南東側一帯に広がる。標高28～29ｍを計る庄川の形成した扇状地上に位置している。

基本層序

厚さ20cmの道路舗装（バラス）下に、厚さ40～60cmの盛土層がある。この下層に順次、厚さ20cmの暗灰色粘質土層（旧表土）、厚さ10～20cmの黒褐色粘質土層、黄褐色砂質土の基盤層が現れる。

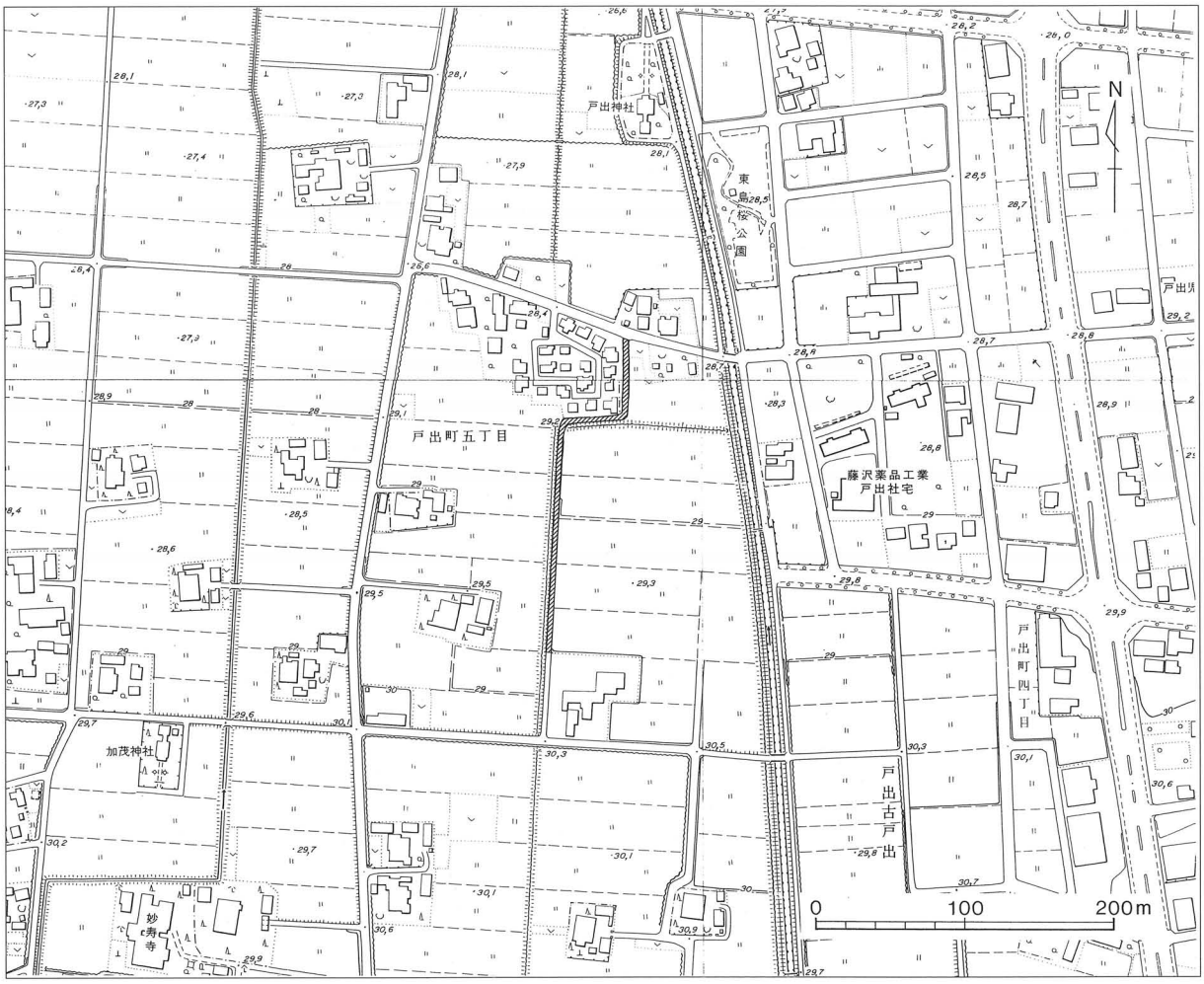
調査概要

所在地：高岡市戸出光明寺367、　対象面積：1,260㎡、　発掘面積：229㎡

調査期間：平成10年10月14日～30日、　調査原因：農道改修工事

調査の結果

柵址２条、土坑11基、溝４条、ピット10基を検出、土師器、須恵器（奈良・平安時代）が出土した。



第33図　戸出古戸出遺跡是戸28号線地区位置図（１／5,000）

Ⅺ　ＨＳ－02遺跡、各調査地区

遺跡概観

当「ＨＳ－02遺跡」は、高岡市街地の南側、ＪＲ高岡駅より南約1.5kmに位置する。

基本層序

厚さ20cm前後の表土下に、厚さ10～30cmの腐植物を多く含む黒褐色粘質土層、この下が基盤層である。

各調査地区の概要

１．高陵コンクリート地区

所在地：高岡市下黒田109、　対象面積：1,325㎡、　発掘面積：46㎡

調査期間：平成10年７月15日、　調査原因：資材置場の建設

調査の結果：遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

２．富山テレビ地区

所在地：高岡市下黒田62-1、　対象面積：1,169㎡、　発掘面積：67㎡

第34図　ＨＳ－02遺跡各調査地区位置図［１］（１／5,000）

調査期間：平成10年７月16日、　調査原因：駐車場の建設

調査の結果：遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

３．オークス地区

所在地：高岡市下黒田110、　対象面積：2,404㎡、　発掘面積：74㎡

調査期間：平成10年10月29日、　調査原因：駐車場の建設

調査の結果：遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

４．トヨペット地区

所在地：高岡市下伏間江363番３、　対象面積：3,046㎡、　発掘面積：60㎡

調査期間：平成10年10月30日、　調査原因：自動車修理工場の建設

調査の結果：遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

５．宮西地区

所在地：高岡市赤祖父768、　対象面積：301㎡、　発掘面積：11㎡

調査期間：平成10年11月５日、　調査原因：個人住宅の建設

調査の結果：遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

第35図　ＨＳ－02遺跡各調査地区位置図［２］（１／5,000）

NO	遺　跡　名	調査地区名	地番・住所	対象面積	発掘面積	調査期間
1	下佐野遺跡	新田地区	高岡市佐野626-2	499㎡	272㎡	980413～980820
2	東木津遺跡	月安地区	高岡市佐野889-1	2,088㎡	704㎡	980427～980612
3	石塚遺跡	福島地区	高岡市和田1175	315㎡	105㎡	981109～981217
4	油屋寺田遺跡	南郷病院地区	高岡市醍醐610-1	18,836㎡	1,496㎡	980407～980418
5	石塚遺跡	大田地区	高岡市石塚170-1	500㎡	71㎡	980410
6	今市遺跡	柴地区	高岡市今市72	699㎡	119㎡	980416～980417
7	今市遺跡	小勢７号線地区	高岡市今市74	2,800㎡	919㎡	980417～980430
8	下老子笹川遺跡	立野１号線地区	高岡市笹川313-3	5,200㎡	1,012㎡	980507～980622
9	中曽根西遺跡	向田地区	高岡市中曽根538-1	1,467㎡	268㎡	980601～980602
10	高田新西後遺跡	立野５号線地区	高岡市千鳥丘町31-3	1,200㎡	12㎡	980622
11	中曽根北遺跡	チューリップ調剤地区	高岡市中曽根120-1	331㎡	66㎡	980714
12	戸出６丁目東遺跡	北陸セルラー地区	高岡市伊勢領240-2	350㎡	22㎡	980727～980728
13	戸出古戸出遺跡	是戸28号線地区	高岡市戸出光明寺367	1,260㎡	229㎡	981014～981030
14	ＨＳ－02遺跡	高陵コンクリート地区	高岡市下黒田109	1,325㎡	46㎡	980715
15	ＨＳ－02遺跡	富山テレビ地区	高岡市下黒田62-1	1,169㎡	67㎡	980716
16	ＨＳ－02遺跡	オークス地区	高岡市下黒田110	2,404㎡	74㎡	981029
17	ＨＳ－02遺跡	トヨペット地区	高岡市下伏間江363-3	3,046㎡	60㎡	981030
18	ＨＳ－02遺跡	宮西地区	高岡市赤祖父768	301㎡	11㎡	981105

付表調査地区一覧表

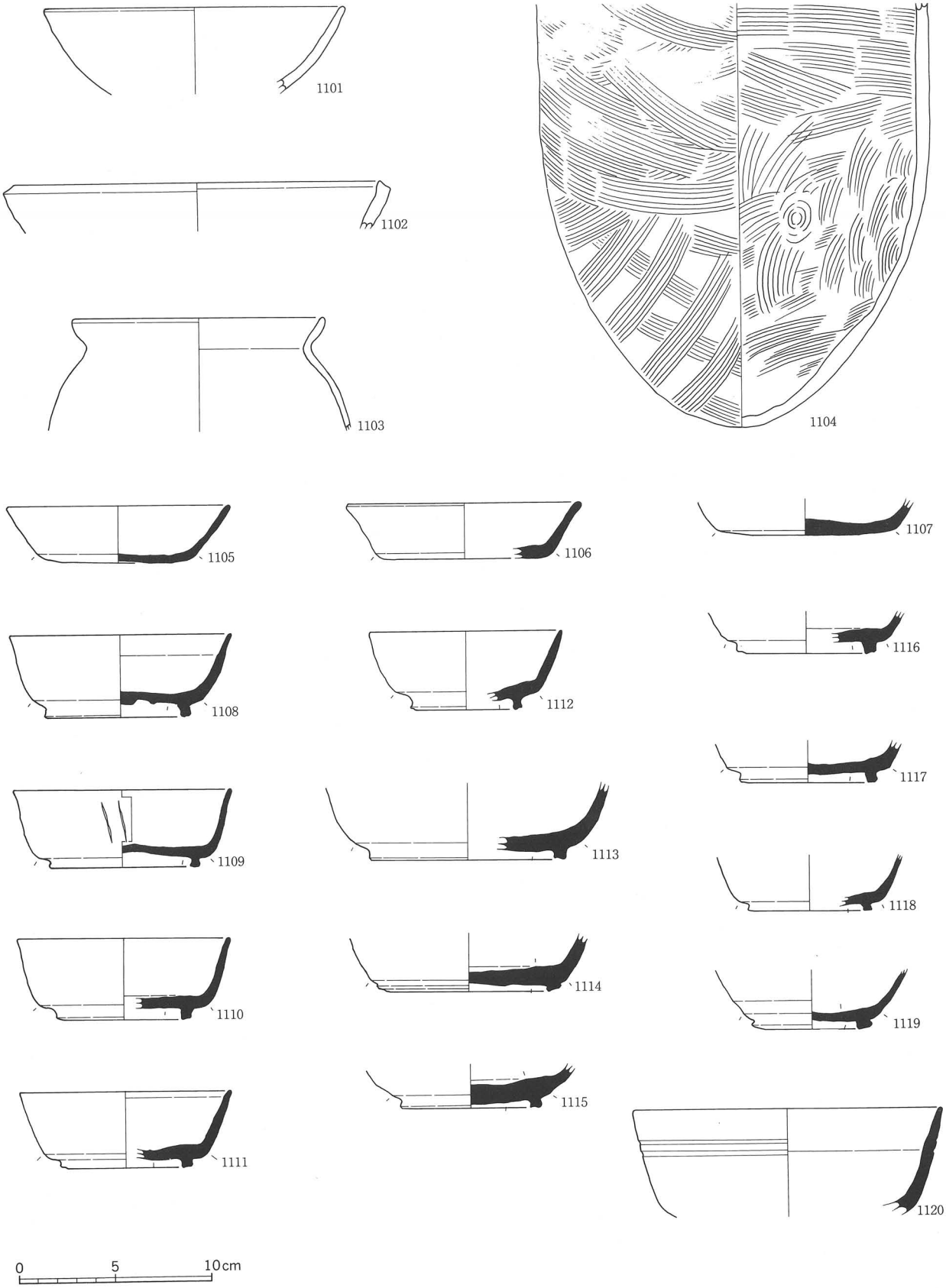
報告書抄録

ふりがな	しない いせき ちょうさがいほうきゅう
書名	市内遺跡調査概報Ⅸ
副書名	平成10年度、下佐野遺跡の調査他
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第41冊
編著者名	荒井　隆
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-0057　富山県高岡市広小路７－50
発行年月日	西暦　1999年３月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもさの 下佐野	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 さの 佐野	016202	202151	36° 59′ 37″	136° 43′ 25″	19980413 ～ 19980820	272㎡	住宅建設
ひがしきづ 東木津	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 きづ 木津	016202	202150	36° 59′ 44″	136° 43′ 38″	19980427 ～ 19980612	704㎡	資材置場建設
いしづか 石塚	とやまけんたかおかし 富山県高岡市 わだ 和田	016202	202158	36° 59′ 13″	136° 44′ 43″	19981109 ～ 19981217	105㎡	堆肥舎建設
その他の遺跡	とやまけんたかおかし 富山県高岡市	016202						

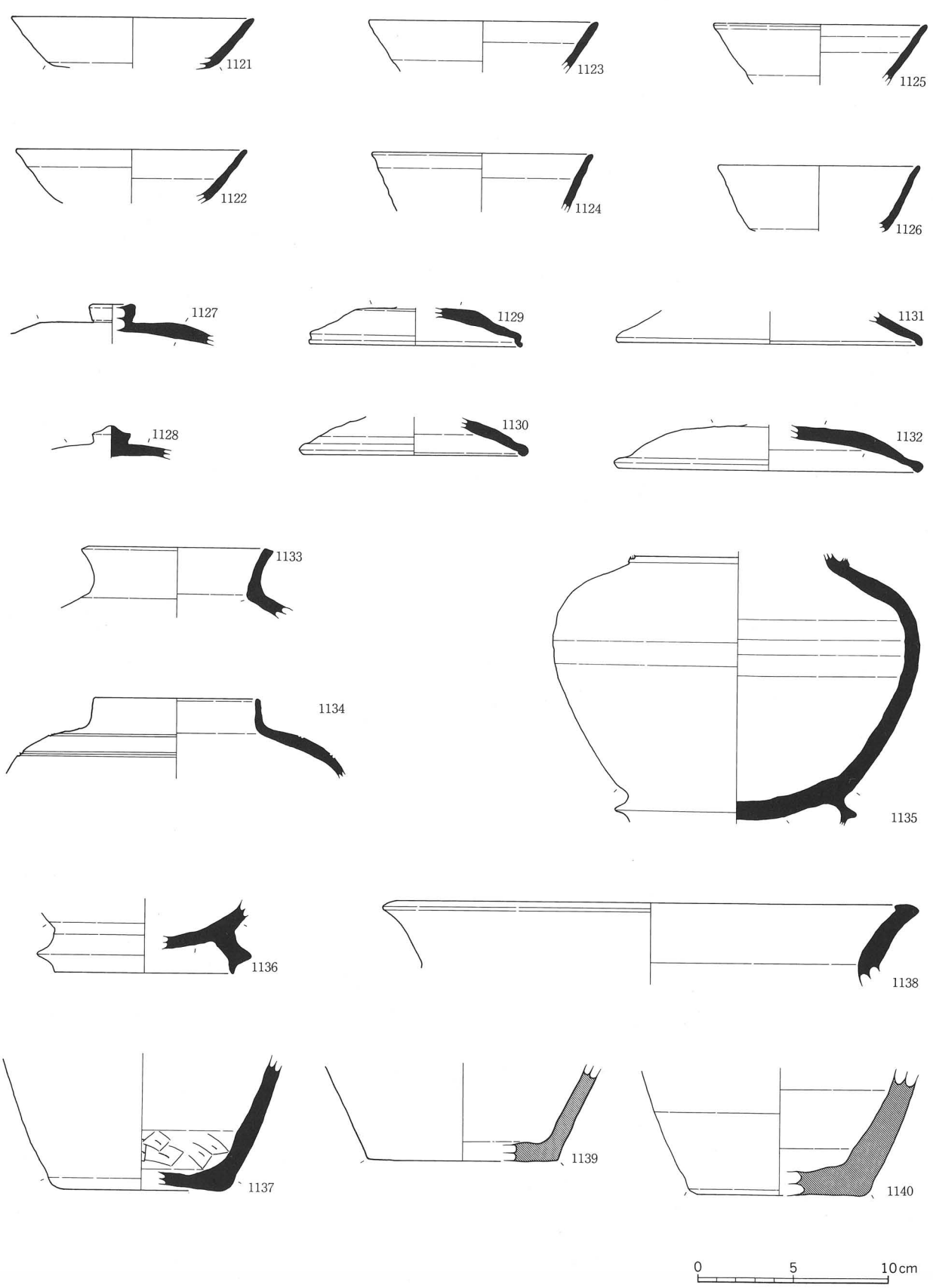
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下佐野	集落跡	奈良平安	土坑９基 溝24条	土師器、須恵器	
東木津	集落跡	奈良平安	掘立柱建物址１棟 柵址３条、土坑40基 溝30条	土師器、須恵器	掘立柱建物址の検出
石塚	集落跡	弥生	土坑８基 溝３条	弥生土器	
その他の遺跡					試掘調査地区

図面・図版



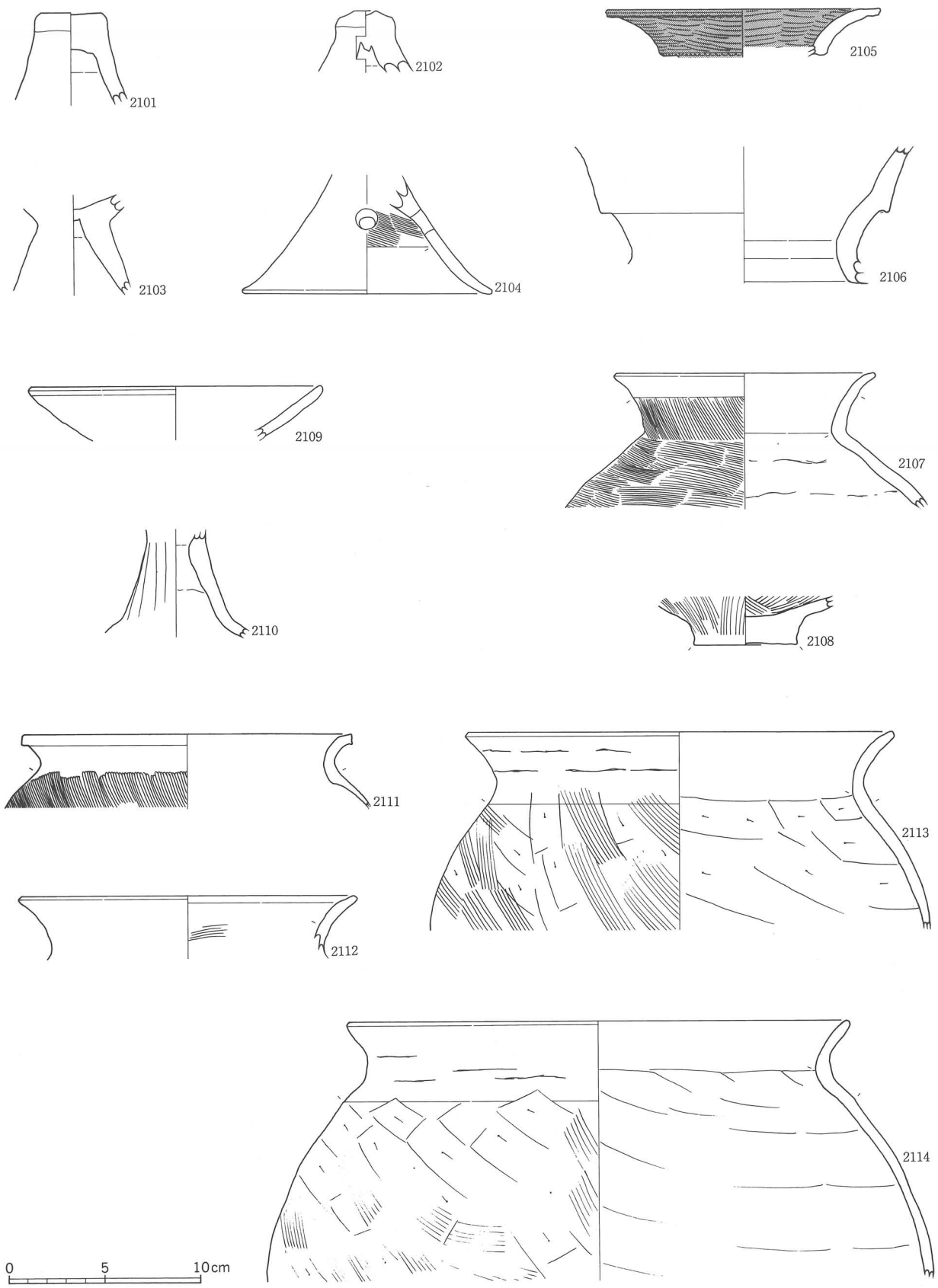
土師器；1101～1104、須恵器；1105～1120

縮尺 1／3



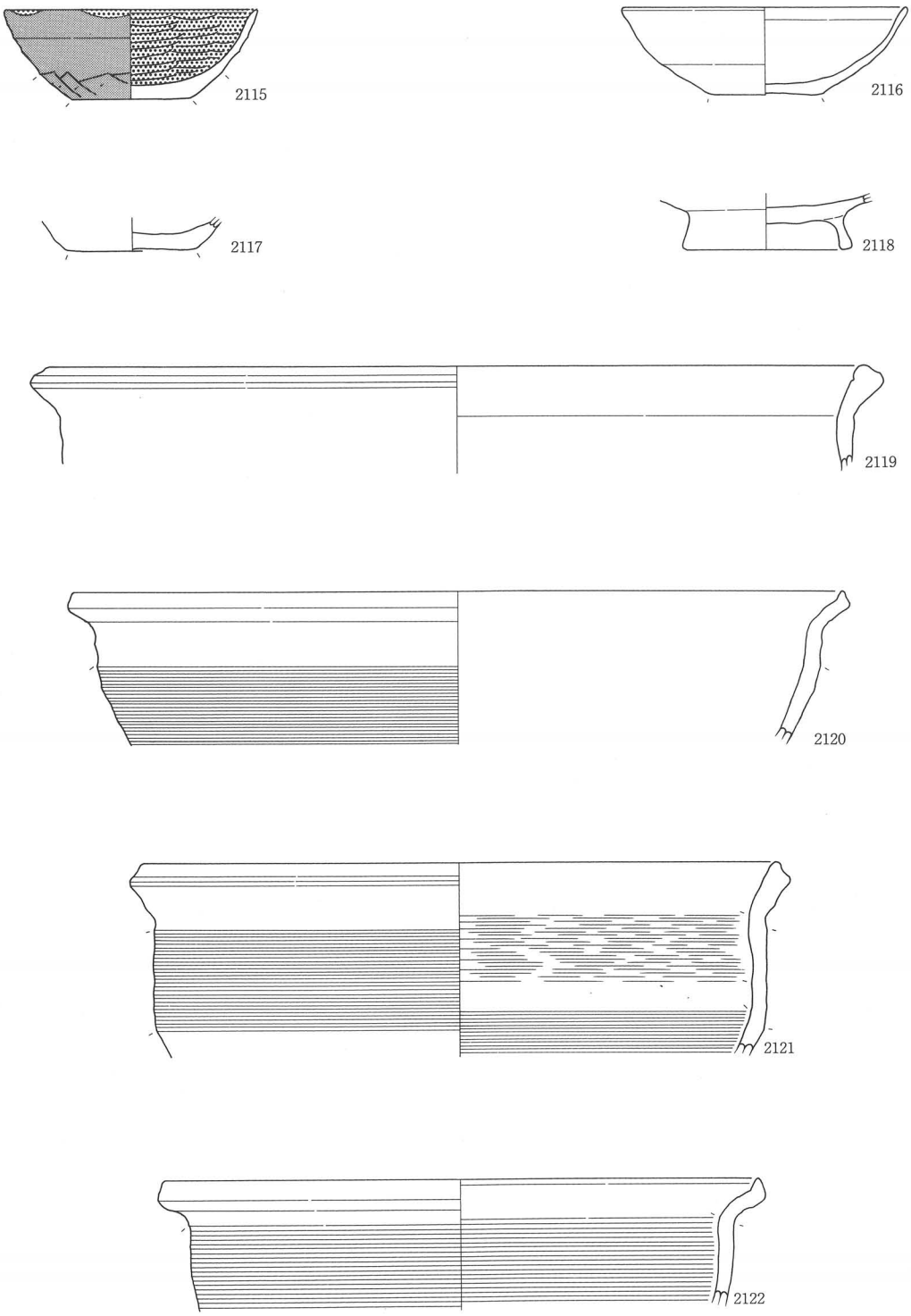
須恵器；1121～1138、珠洲；1139・1140

縮尺１／３



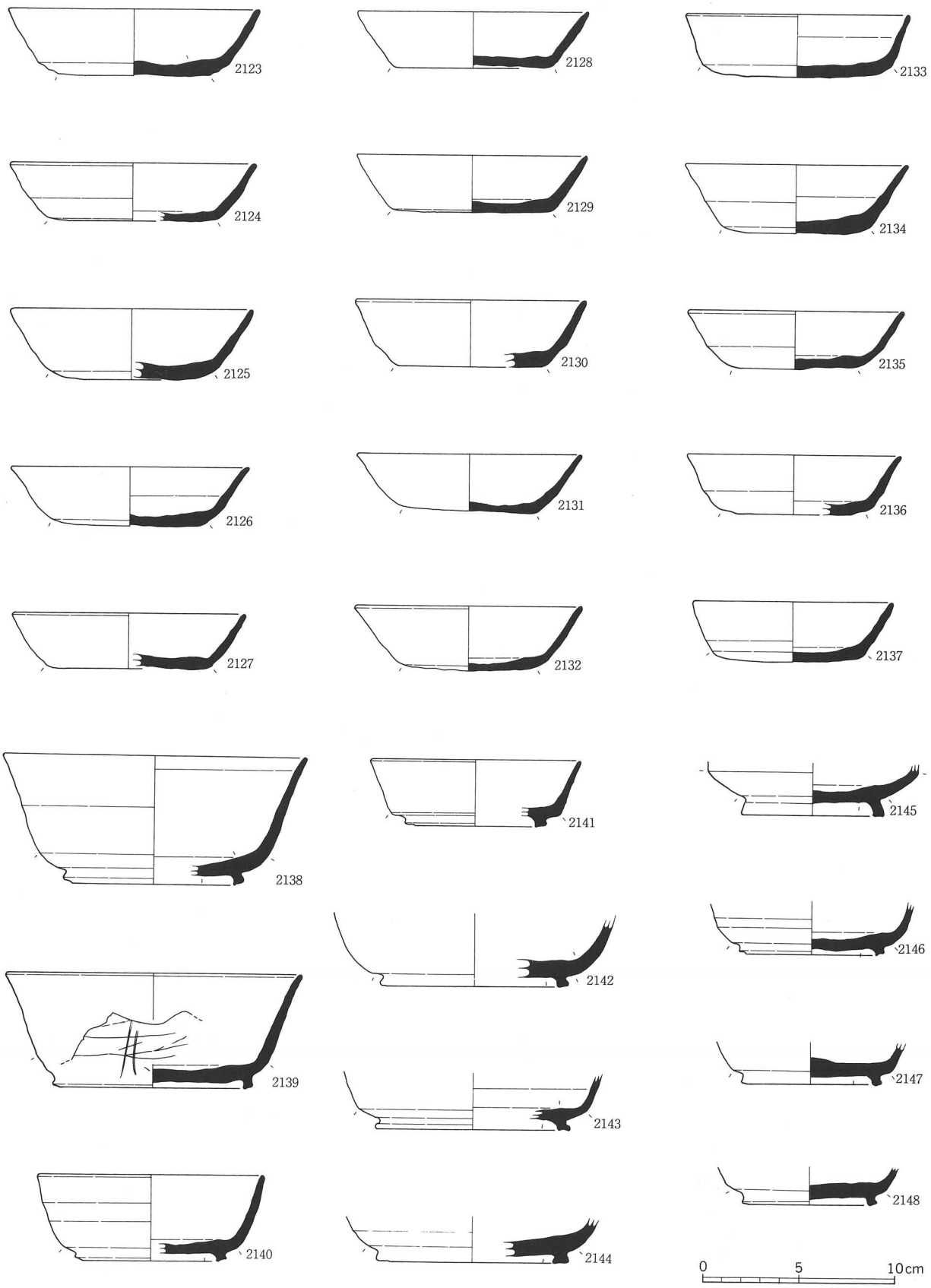
古墳時代の土師器

縮尺１／３



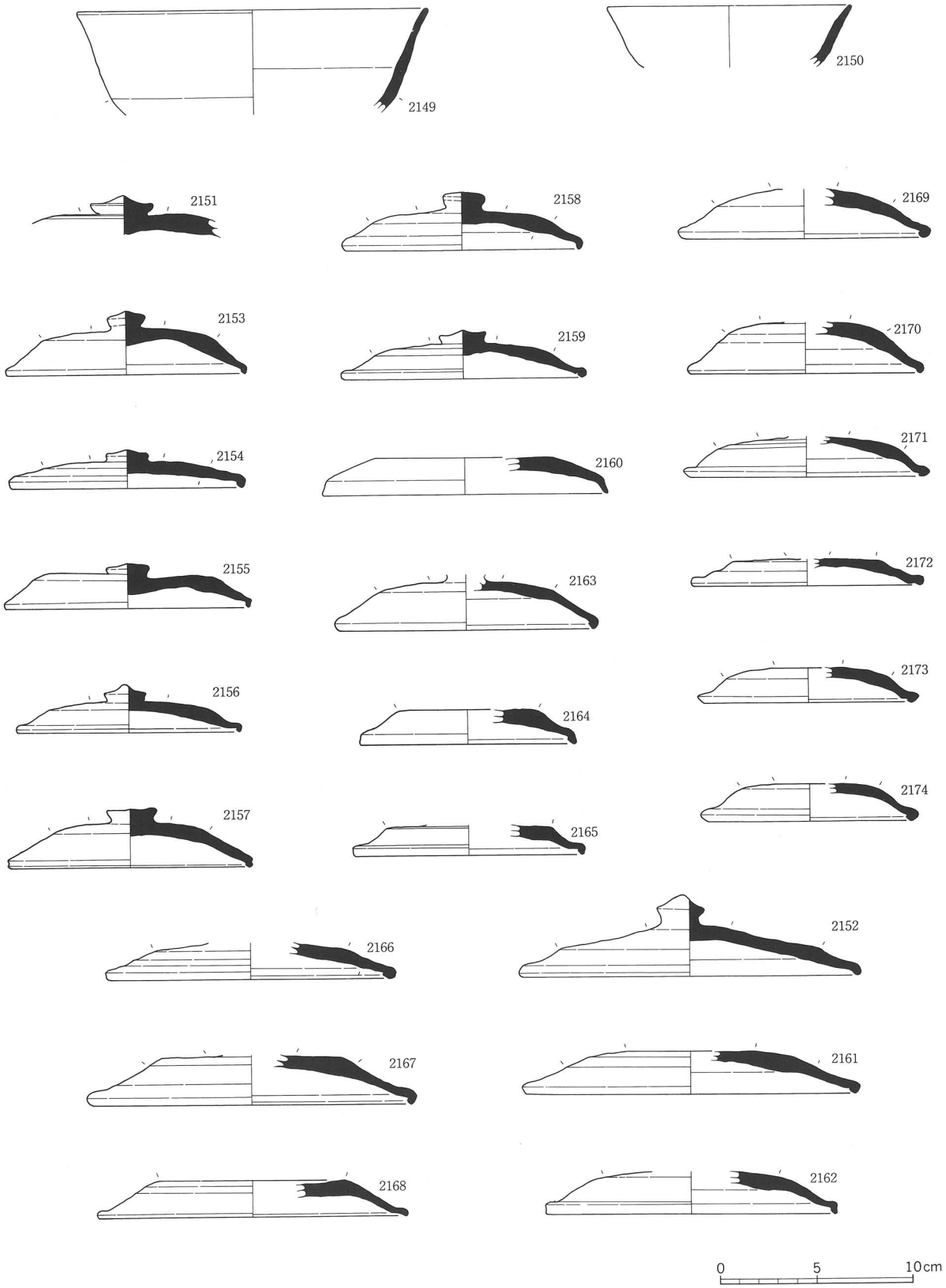
奈良・平安時代の土師器

縮尺１／３


2123
2124
2125
2126
2127
2128
2129
2130
2131
2132
2133
2134
2135
2136
2137
2138
2139
2140
2141
2142
2143
2144
2145
2146
2147
2148
0
5
10cm

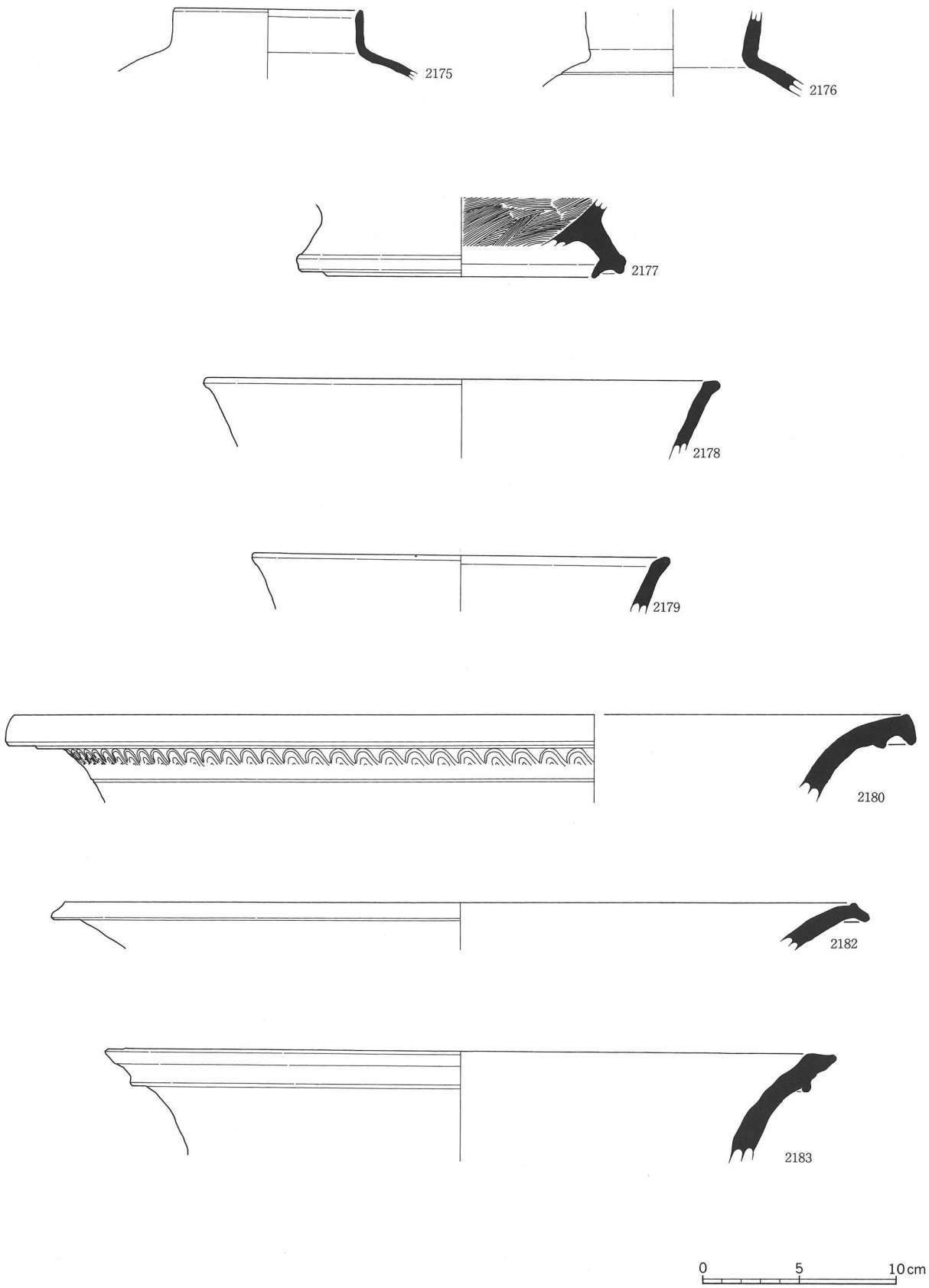
須恵器

縮尺 1／3


2149
2150
2151
2158
2169
2153
2159
2170
2154
2160
2171
2155
2163
2172
2156
2164
2173
2157
2165
2174
2166
2152
2167
2161
2168
2162
0
5
10cm

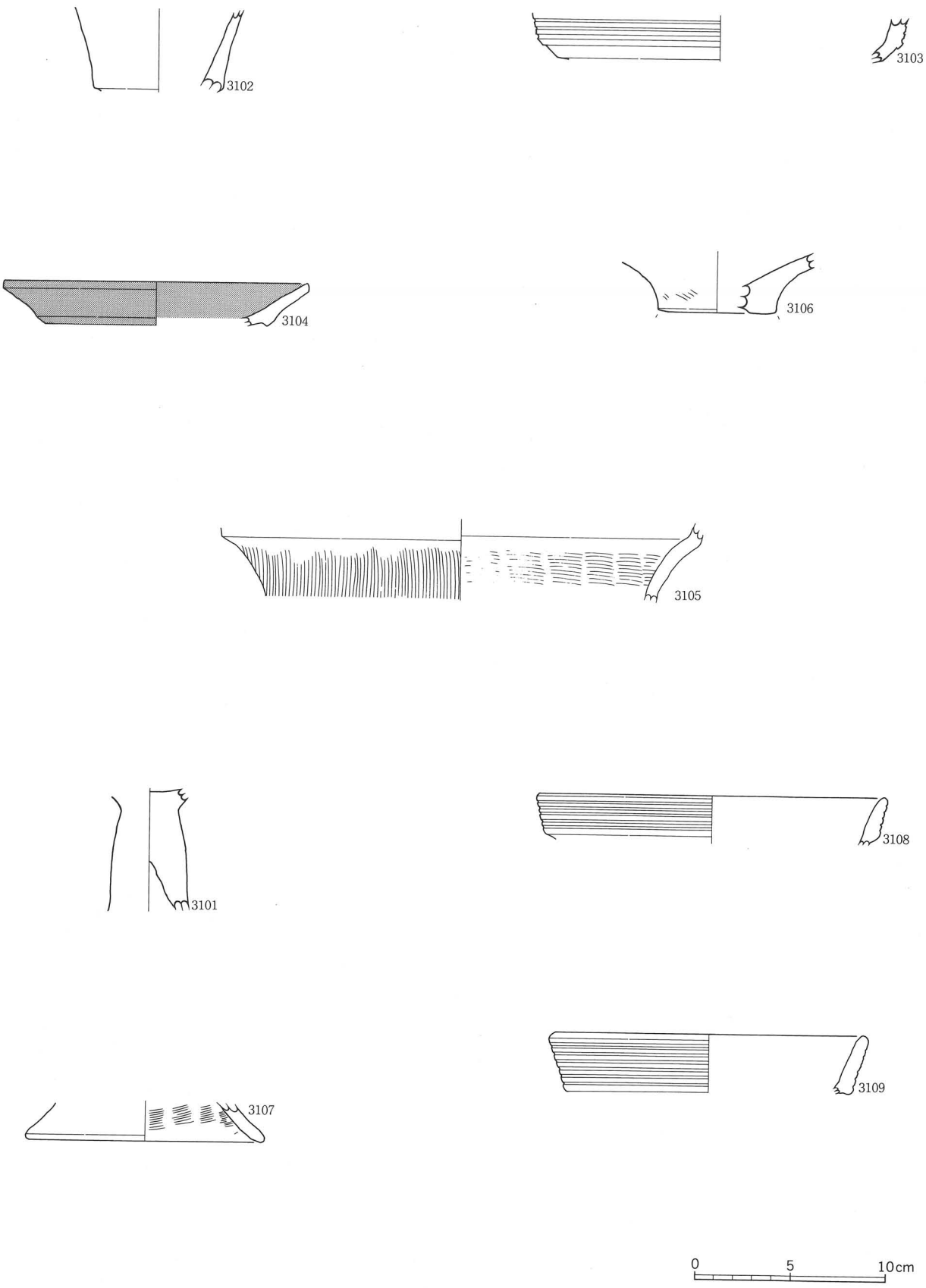
須恵器

縮尺１／３



須恵器　　縮尺1／3

図面八　遺物実測図　石塚遺跡

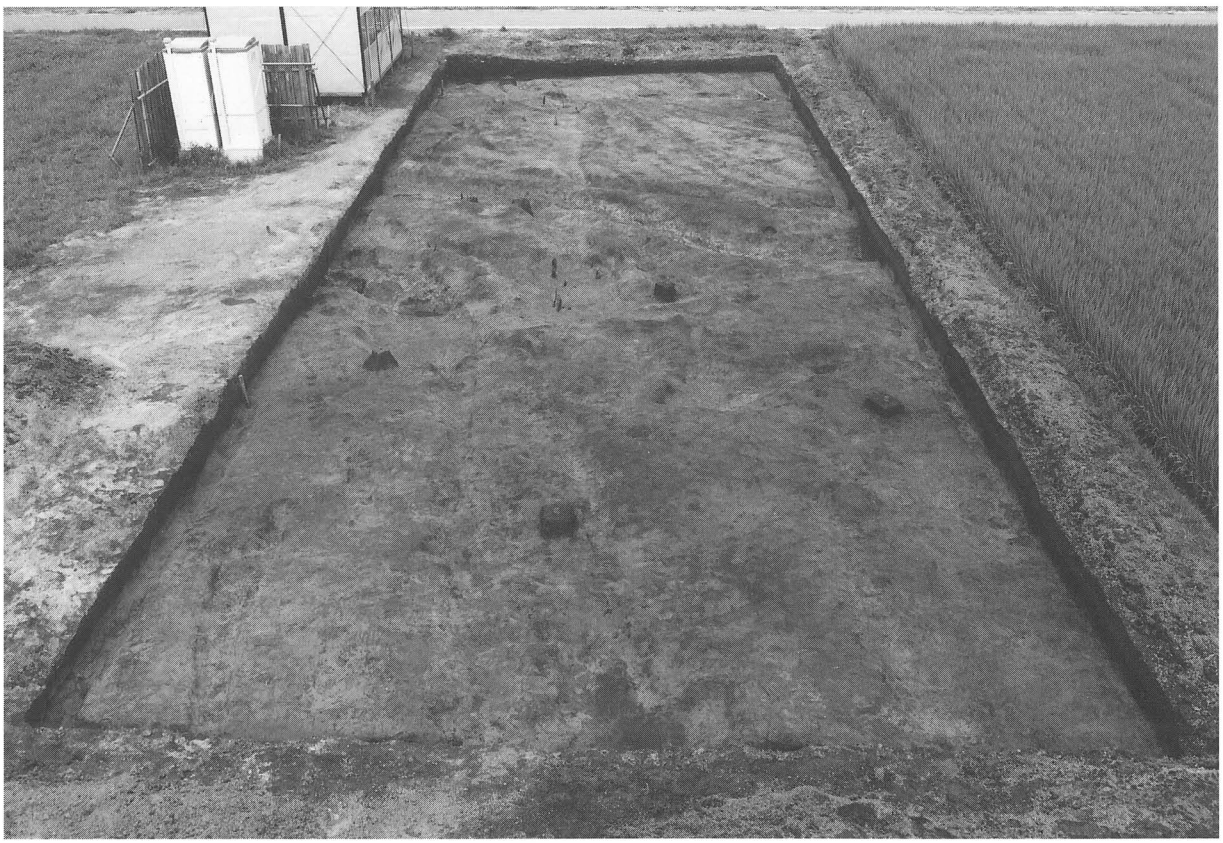


弥生土器　　縮尺１／３

1．調査地区遠景（南）

2．調査地区遠景（南東）

1．調査地区全景（北東）

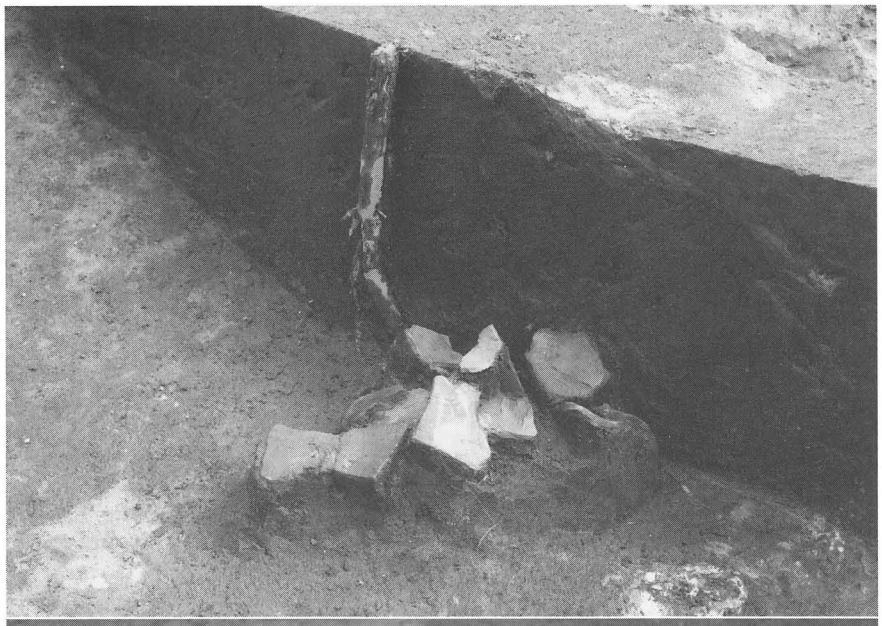


2．調査地区全景（南西）

1．溝ＳＤ34全景（北西）

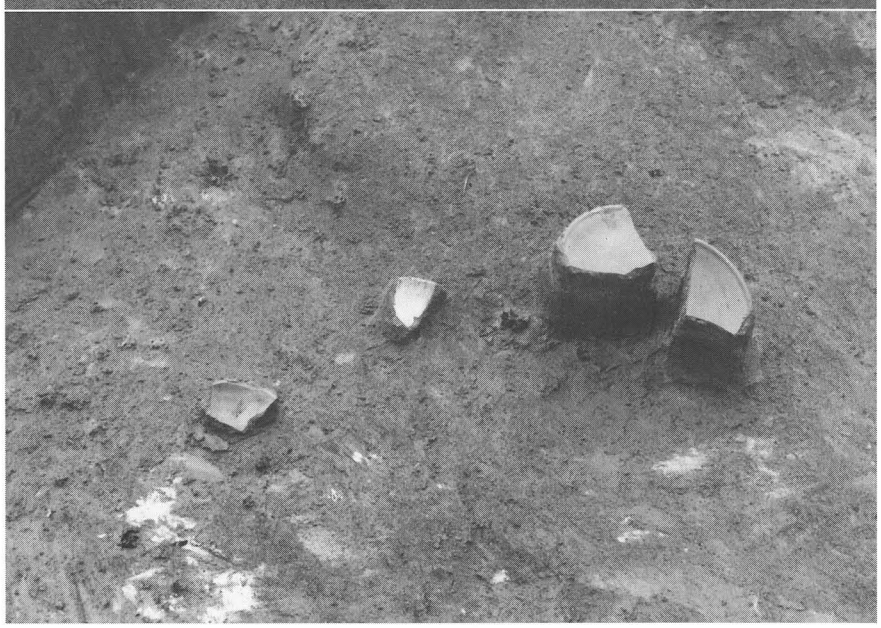
2．溝ＳＤ34全景（西）

図版四　遺構　下佐野遺跡



1．土坑ＳＫ45遺物出土状態
（北）

2．溝ＳＤ34遺物出土状態
（東）



3．溝ＳＤ40遺物出土状態
（南西）

1．調査地区遠景（南東）

2．調査地区遠景（南西）

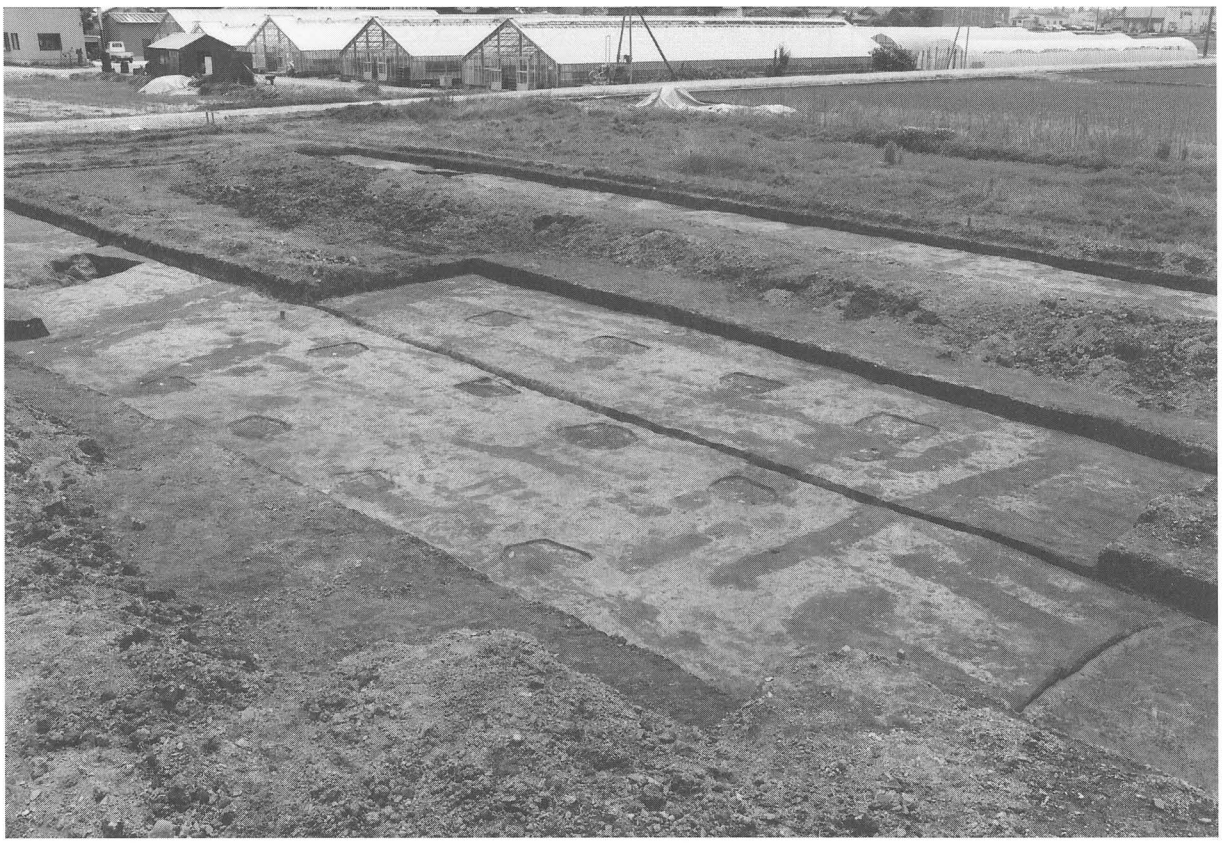
図版六　遺構　東木津遺跡

1．調査地区全景（上方）

2．調査地区全景（北西）

1．掘立柱建物址ＳＢ01全景（上方）

2．掘立建物址ＳＢ01全景（北西）

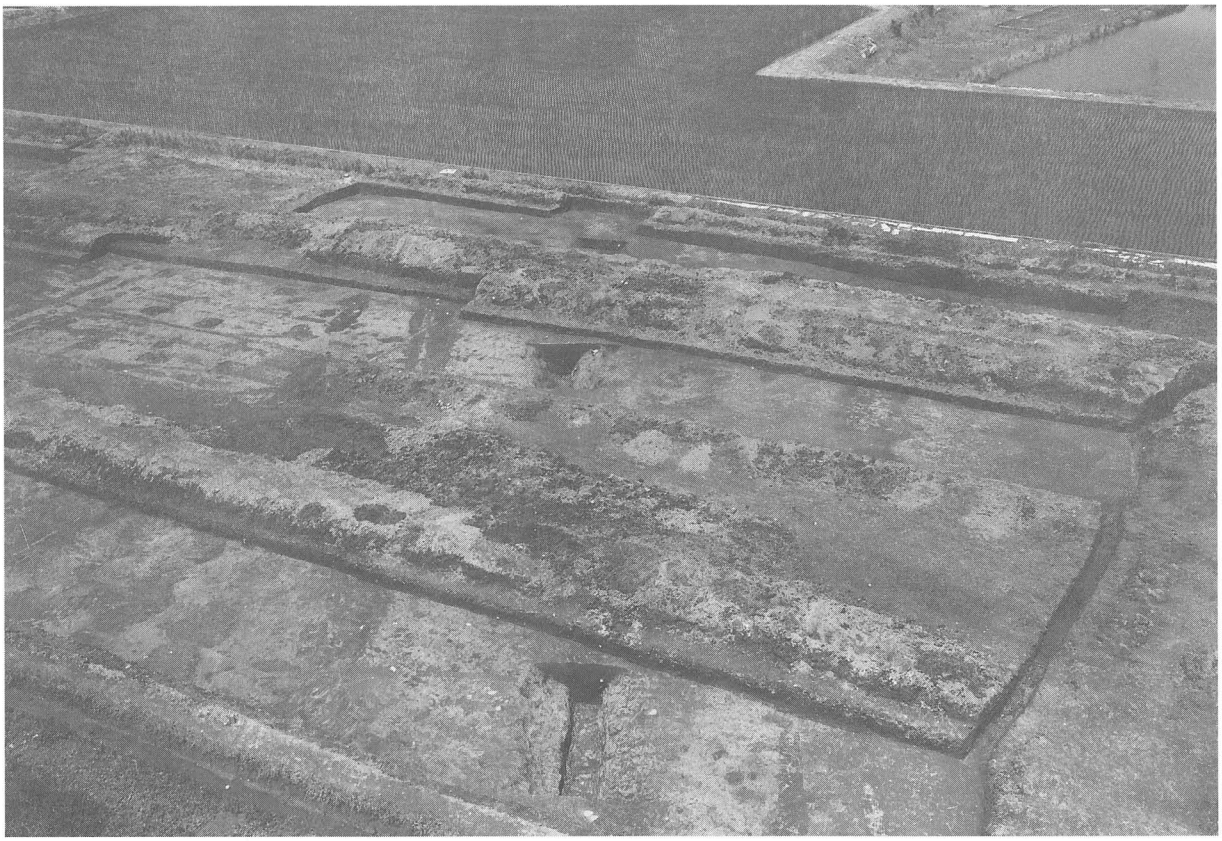


1．掘立柱建物址ＳＢ01全景（北）

2．掘立柱建物址ＳＢ01全景（東）

1．柵址ＳＡ01～03全景（南東）

2．柵址ＳＡ01～03全景（北東）



1．溝ＳＤ18全景（南）

2．溝ＳＤ18第４トレンチ部分遺物出土状態（南）

1．溝ＳＤ18第１トレンチ部分遺物出土状態（北）

2．溝ＳＤ18第１トレンチ部分完掘状態（北）

1．溝ＳＤ18第２トレンチ部分遺物出土状態（北）

2．溝ＳＤ18第２トレンチ部分完掘状態（北）

1．溝ＳＤ18第４トレンチ部
分北壁土層断面（南）

2．溝ＳＤ18第２トレンチ部
分北壁土層断面（南）

3．溝ＳＤ18第１トレンチ部
分北壁土層断面（南）

1．溝ＳＤ18第４トレンチ部分須恵器出土状態（南東）

2．第２トレンチ土錘出土状態（南西）

3．凹地ＳＸ03第２トレンチ部分土器類出土状態（南西）

1．調査地区遠景（南南西）

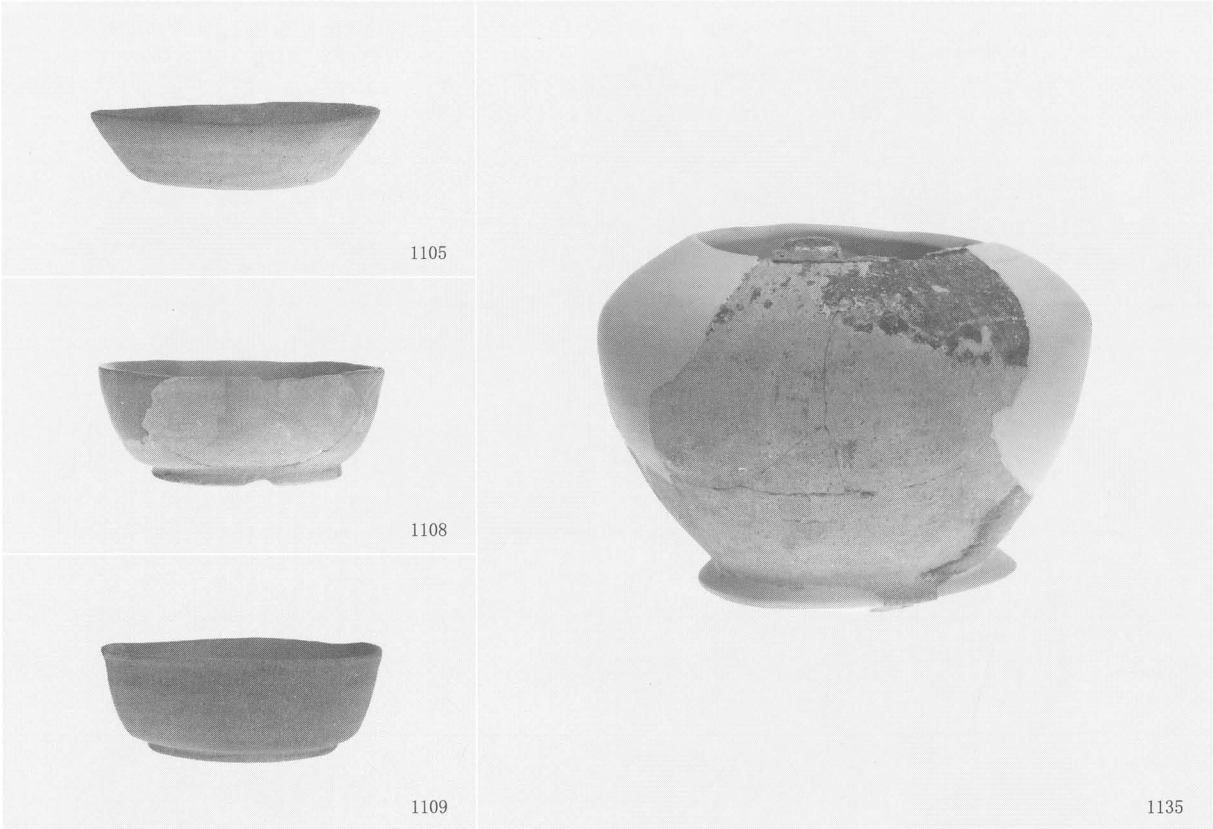
2．調査地区遠景（北西）

1．調査地区全景（北北西）

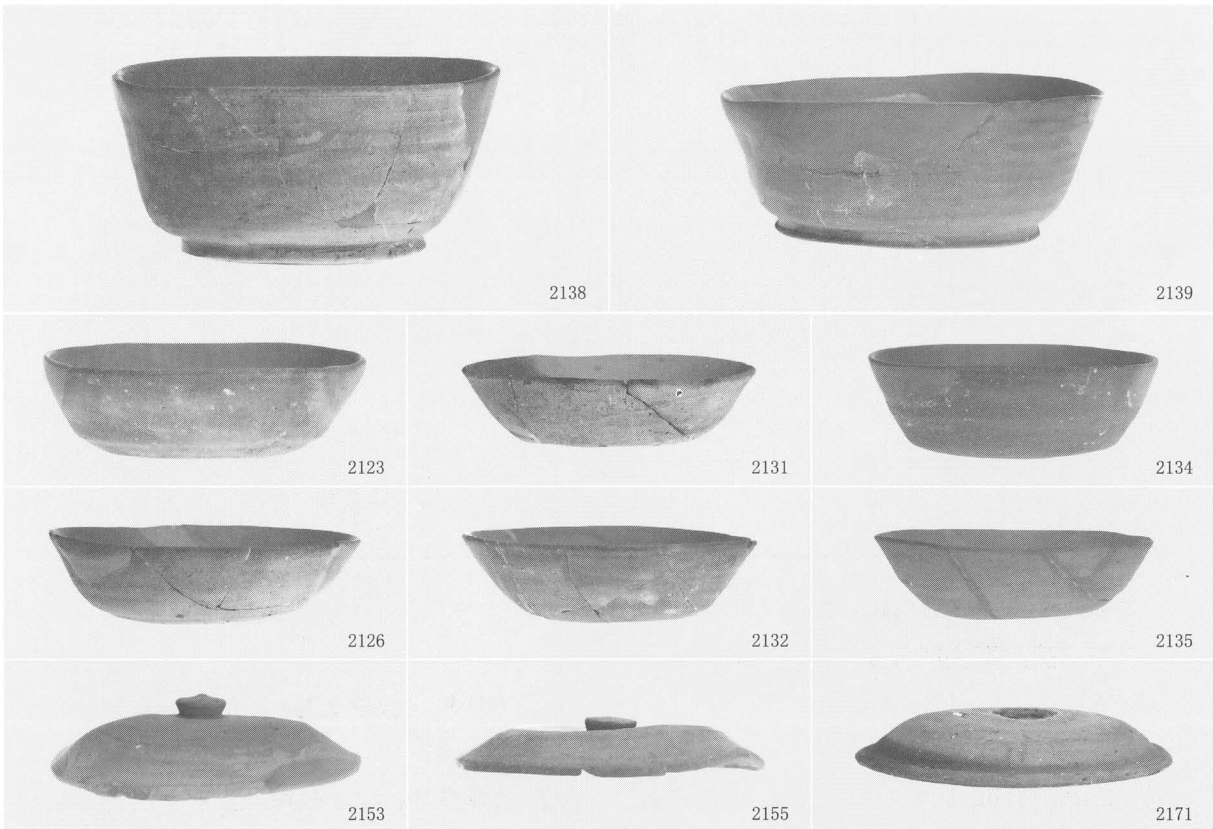
2．調査地区全景（南西）

1．調査地区近景（南）

2．調査地区近景（北西）



1．下佐野遺跡出土土器



2．東木津遺跡出土土器

高岡市埋蔵文化財調査概報第41冊

市内遺跡調査概報Ⅸ

発行者　高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路７番50号

1999年 3月31日

印刷所　キクラ印刷株式会社

富山県高岡市柴野内島 710-3